

Data Contents Guard USB Memory

user's manual

Version 7.8



機能別目次

項目	ページ
設定の流れ（はじめに）	8-12
ファイルが開かない	42
空き容量が無い	7,12,25
管理ソフトでエラー	10
管理ソフトのダウンロード	9
書き込みができない	42
対応できる形式	22
ファイルコピーが禁止されない	41
USBが反応しない	70-71
エラーが表示される	14-15
動画の設定	90-91
PDFの設定	84-85
配布用ソフトウェアの設定	87
フォルダを見えなくする	88
暗号化でセキュリティを高める（Ver7.3）	48-49
破損に備えてバックアップする	29
安全な取り外し操作	54
管理パスワードを忘れてしまった	20,45
削除しても良いファイルは？	61-62
標準ユーザー（制限アカウント）での利用	28,59
1ファイル4GB以上の保存 exFAT	73
利用期間の設定	37,47
トラブルシューティング	25
お問い合わせ方法	13,51
ClickView クリックビュー（Ver7.3）	96～
USBメモリが急に認識しなくなった	74-75
UsbReset（Ver7.3）簡易復元	108～
設定を戻したい（バックアップの復元）	32
設定がまったくわからない	112
デジタルコンテンツの販売	83

よくあるご質問

はじめてご利用の場合、空き容量が少ない（無い）、コンテンツを入れる前に設定を行い書き込みロックしてしまった。等のご質問があります。

最初に商品パッケージの裏面の説明付属のPDFマニュアル2ページ本マニュアルP.8～12の5ページを参照してください。

お問い合わせ

管理ソフトUsbManangelにお問い合わせ機能があります。
「優先サポート」タブからお問い合わせをいただくと、ご利用になっているUSBメモリの製品名、バージョンや設定内容がサポート担当で確認する事ができます。

お使いのセキュリティソフトの影響や何等かの理由で「優先サポート」タブが利用できない場合は、support@abroad-sys.comまでお問い合わせ下さい。
お問い合わせの時に、製品名やバージョンが不明の場合はお答えができない場合があります。

お問い合わせは、「優先サポート」タブ又はメールのみの対応になります。電話サポートはありません。

サポート受付時間

平日 10:00～18:00

※当日または翌営業日までに回答をしています。

コピーガードUSBメモリの開発

■最初はコピーガードCDから

当社アブロードシステムズは2001年創業。当初はデータ処理、オフショア開発（海外ソフト開発）、CD/DVDの光学メディアの製造・販売を行っていました。コピーガードUSBは2010年1月に発売を開始していますが、開発を始めたのは2008年後半です。USB製品の前は光学メディアのコピーガードを取り扱っていました。

光学メディアのコピーガードは自社の技術ではなく、外国技術のライセンス供与を受けての取り扱いです。光学メディアでのコピーガードの欠点は、量産化できる方式はコピーガードのレベルは低くカジュアルコピーの防止程度になってしまう事、ガードレベルが高い方式は、再生互換性が100%ではない事、量産化しづらいという欠点がありました。特にデータ形式のコピーガードは難しく1枚づつマスタディスクを作る感じで手間や時間がかかり価格も高価になってしまいました。

■コピーガードUSBの自社開発

2008年はリーマン・ショックという世界規模の金融危機が発生した年で当社でも何らかの対応に迫られた時です。市場では光学ドライブがない軽量で低価格のノートパソコン登場し、インターネットを使ったコンテンツ配信も普及しCD/DVDの出荷量も落ちた時でした。光学メディアのライフサイクルが終わり成熟期から衰退期に移ったと感じていました。当時CDのコピーガードライセンスを提供していた外国メーカーでもUSBのコピーガード製品の開発計画の話もありましたが企画段階だった事や「他社に頼るとCDと同じで大量生産が考慮されない」「量産化が大変で高価で売れづらい商品になる」という考えがあり自社開発に踏み切りました。

■開発当初はネガティブ意見が大半

開発コンセプトは、設定が簡単、どんなコンテンツでもコピーガード可能、高速で動作、低価格など玉虫色でしたが社内でネガティブ意見が続出し製品化は懐疑的でした。ですが、社内からこういった意見がでるという事は、作りづらい製品で競合が現れないと判断し開発を進めました。それよりも、リーマンショックの影響で倒産件数も多く暗いニュースが続いており自社商品開発が避けられない状況でした。

開発コンセプト

- 短納期対応ができるように国内製造にする
(お客様で過度な在庫を持たないように)
- 低価格で提供する為に大量生産の仕組みが必要
- コピーをしようとするとエラーが表示される演出効果



2010年度版 コンテンツガードVer1.0 初代

- 強力なコピーガード機能
- コンテンツ販売用とする
- 利用者で簡単に設定ができる事

これらの目標を掲げ開発に取り組みましたが、社内の懐疑的意見の問題、ソフトウェア開発、USBのハードウェア部分の製造の問題などクリアすべき問題は多かったように思います。

Ver1の販売が始まり、マスコミ数十社に取り上げていただいた事や徐々に販売数が増えてきた事で批判的意見は一掃されました。

■開発経緯

Ver1 2010/1 コンテンツガードUSBメモリ公開

新聞、雑誌、ネットニュースで取り上げられる
受注生産対応、MOQ 1000本～ XP対応

Ver2 ユーザーカスタマイズ機能UsbManage登場
ユーザーカスタマイズ機能で1本からの販売に対応

Ver3 2010/8 Windows7 32bit対応

ロコミやメディア露出で認知度が上がり出荷数が増える。大企業向けの制限アカウントでも利用可能にするために付属ソフトUsbQuickStartを開発

Ver4 Windows8対応、64bitOS 対応

制限緩和と外国出荷の為、暗号化ロジックを廃止
コピー強度は下がるが利便性が向上した。

Ver5 Windows8.1対応

ドラッグ&ドラッグでコピーロック機能。Hyperシリーズ公開

Ver6 Windows10対応

amazon販売開始、キャップ無しケースに変更

Ver7 保守機能強化 10 Creatos Update版対応
バックアップ機能

フラッシュメモリの製造ロット問題解決
ライセンス管理機能（利用台数制限）など

Ver7.5 Windows11対応



目次

はじめに	
機能別目次	2
コピーガードUSBの開発	3
特徴と主な機能	4
設定を行う前の基礎知識	5
設定の流れ	8
管理ソフトをダウンロードしてみよう	6
管理ソフトを起動してみよう	10
コンテンツを保存する UsbStart	11
はじめてのご利用でよくある質問	12
優先サポートで問い合わせ	13
エラーレポート画面	14
エラーレポート送信する	15
管理ソフト/トラブルシューティング	16
主な機能/仕様	
バックアップで破損に備える	18
USBの機能	19
2つのパスワード管理	20
1本のUSBに2つの領域	21
動作検証済のソフトウェア	22
対応OS/利用できない環境	23
仕様一覧	24
認識しない/トラブルシューティング	25
UsbSetting	
①UsbSettingからUsbStartを実行する	27
②USBの自動起動	28
③イメージバックアップで破損に備える	29
③バックアップ/トラブルシューティング	30
④イメージバックアップの復元	31
④バックアップの復元/トラブルシューティング	32
⑤チェックディスク/非保護領域の破損検査	33
UsbManage/簡易設定	
UsbManage/簡易設定	35-36
簡易設定ではできない項目	37
UsbManage/詳細設定	
①UsbManage/同じ設定のUSBを作る	39
①UsbManage/製品情報	40
②UsbManage/禁止設定	41
③UsbManage/許可ソフトウェア	42
ホワイトリスト登録	43
④UsbManage/別名保存禁止	44
⑤UsbManage/パスワード	45
⑥UsbManage/言語	46
⑦UsbManage/起動設定	47
⑦UsbManage/起動設定/暗号化	48-49 (Ver7.3以降)
⑧UsbManage/日付検査	50
⑨UsbManage/優先問い合わせ	51
⑩UsbManage/レスキュー画面の表示	52
⑩UsbManage/レスキューキーの発行	53



目次

付属ソフト／注意事項	
UsbPw／ユーザーパスワード変更	55
UsbRemove／Usb安全な取り外し	56
UsbBack／非保護領域の切り替え	57
UsbQuickStartのセットアップ	59
UsbQuickStartの自動実行キャンセル	60
付属ソフトについて	61-62
ご利用にあたっての注意事項	63
非表示フォルダを表示する	64
輸出書類について	65
USBメモリバージョンと対応Windows	66
トラブルの原因と対策	
FAQ(よくある質問と回答)	68
フォルダやファイルの文字化け	69
保護領域のフォーマット	70
フォーマットで使われる用語と意味	71
USBメモリが急に認識しなくなった	74-75
エラーメッセージに(RC)が表示される	76-77
ウイルスセキュリティーソフトの誤検知	78
ライセンス登録操作画面	79
デバイスエラー	80
Macでの利用	81
フラッシュメモリの寿命	82-83
名入れとパッケージ	
デジタルコンテンツを販売する方へ	85
コンテンツ販売／USBマーキング(名入れ)	86
コンテンツ販売／コンテンツコピー	87
コンテンツ販売／利用事例	88
データコンテンツガード設定例	
PDFの設定	90-91
ユーザーアプリケーションソフト(開発系)	93
ファイルやフォルダの非表示化	94
書き込み禁止USBへ強制書き込みを行う	95
動画の設定	96-97
ClickView(クリックビュー)の使い方	98-109
ClickView/ExeMakerについて	110~119
UsbReset(USBリセット)の使い方	120-111
設定でお困りの場合	112



データコンテンツガードの特徴

■データコンテンツガードの特徴

データコンテンツガードは閲覧用コンテンツ（動画やPDF等）に最適なコピーガード機能付きのUSBメモリです。USBへ保存したファイルはコピーが禁止されます。ファイルコピーはもちろん、印刷、画面キャプチャー、別名保存、コピー目的に利用されるソフトを使った行為を幅広く防止します。

一般的なセキュリティーUSBメモリで、パスワード方式のUSBメモリがあります。データコンテンツガードではパスワードを知っていてもコピーはできません。パスワードは業務マニュアルなど紛失時に中のデータを見られたくない場合に設定します。通常はパスワードの設定も必要がありません。

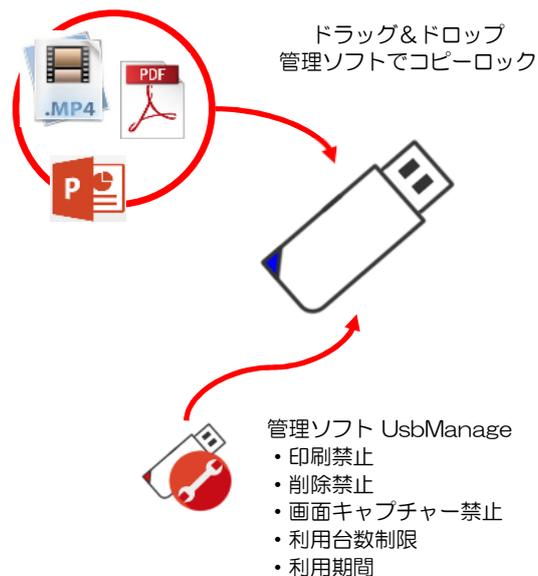
特徴

- 閲覧専用のUSBメモリとして製品シリーズでコストパフォーマンスが高い
- コピーガードが強力
- 設定が簡単
- デジタル著作物の権利を守る
- コピーユーザーによる機会損失を防ぐ
- 対応コンテンツが豊富
- 付属ソフト、バージョンアップが無料

■知っている必要がある知識

1. 本USBメモリには1本のUSBメモリの中に2つの領域があります。2つの領域がある事は一般的なUSBメモリに比べて大きな違いです。
2. 管理ソフトのダウンロード（無償）が必要
利用するのはダウンロードした管理ソフトを使って設定が必要です。
3. 設定には順番がある
先にコンテンツを入れてから設定する事
設定を先に行くと書き込みロックされ追加ができなくなります。

上記詳細は次ページを参照
設定の流れはP.8～P.12を参照





設定を行う前の基礎知識

データコンテンツガードはコピーガード機能付きUSBメモリのモデルです。

PDFや動画など配布用のコンテンツに最適です。データコンテンツガードはソフトウェアの配布やExcelでコピーガード中にも書き込みが必要なシーンには対応していません。これらの場合は、上位版のハイパーコンテンツガードをご利用下さい。

■管理ソフトのダウンロード

コピーガードの設定はコンテンツを保存した後に管理ソフトを使って設定します。コンテンツを保存する前に保存禁止などの設定を行うと、後からコンテンツを入れる事ができなくなりますので順番に注意して下さい。

また、USBに保存したデータを開くためには、USBをアクセスする「許可ソフトウェア」の設定が必要です。ファイルをダブルクリックして開けない場合は、許可ソフトの設定がされていない事が原因です。

■2つの領域

本USBメモリは1本のUSBメモリに2つの領域があります。非保護領域と保護領域の2つです。領域が2つあるのは一般的なUSBメモリと比べると大きな違いです。領域はどちらか一方が表示されています。最初に表示されているのは非保護領域です。**この最初に表示されている非保護領域には空き容量はほとんどありません。**UsbStartを実行すると「しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示された後に、保護領域に切り替わります。コンテンツはUsbStartを実行して保護領域に保存します。

■流れ

- ①管理ソフトのダウンロード
- ②UsbStartを実行して先にコンテンツを入れる
- ③管理ソフトで設定を行う

※詳しくは次のページ参照してください

※書き込み禁止を設定するとコンテンツ追加ができ

なくなります。コンテンツを入れてから設定を行って下さい。

※1本のUSBに2つの領域があります。非保護領域と保護領域と呼んでいます。コピーガードが働いていると設定変更ができません。設定するとき非保護領域を表示している必要があります。

■よくある質問

- ・空き容量がない
→ UsbStartを実行して下さい。
- ・管理ソフトが動かない
→保護領域を表示している（コピーガードが働いており設定ができない）
→設定するUSBメモリを挿入していない。またはUSBが正しく挿入されていない。
USBの挿入を確認してから、もう一度、管理ソフトを実行します。

■注意（重要）

- ・管理パスワードは、初期値は” admin” になっています。管理パスワードを初期設定の状態に配布するとコピーガードが解除されますので必ず変更して下さい。
- ・初期出荷状態では、基本的な設定で出荷されています。コピーガードUSBは必ず設定が必要です。セキュリティを強化する為に禁止する設定項目を確認して下さい。



設定の流れ

Data Contents Guardは閲覧用のデータ形式を配布するためのUSBメモリです。保存されたコンテンツの複製を防止します。主にPDF/動画/パワーポイント/HTML等の閲覧用のデータコンテンツに対応しています。USBメモリに書き込みが必要なExcelやソフト配布には上位版のハイパーコンテンツガードをご利用下さい。

コンテンツを保存した後に必要な制限を管理ソフトを使って設定します。コンテンツを保存する前に保存禁止などの設定を行うと、後からコンテンツを入れる事ができなくなりますので順番に注意して下さい。管理ソフトUsbManage（USBマネージ）はダウンロードを行います。

また、USBに保存したデータを開くためには、USBをアクセスする「許可ソフトウェア」の設定が必要です。コンテンツを入れた直後は「許可ソフトウェア」の設定が終わっていませんのでファイルを開くことができません。

本USBメモリは1本のUSBメモリに2つの領域があります。非保護領域と保護領域の2つです。領域が2つあるのは一般的なUSBメモリと比べると大きな違いです。領域はどちらか一方しか表示されていません。最初に表示されているのは非保護領域です。**この最初に表示されている非保護領域には空き容量はほとんどありません。**UsbStartを実行すると「しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示された後に、保護領域に切り替わります。コンテンツはUsbStartを実行して保護領域に保存します。

設定の順番

1. 管理ソフトをダウンロードします。⇒P.5
ダウンロードファイルはZIP圧縮されています。解凍してデスクトップなどにUsbManage.exeを配置します。
 2. UsbStartを実行して保護領域を表示します。⇒P.7
「しばらくお待ちください」のメッセージが消えたらUSBを開いてください。
 3. コンテンツをドラッグ&ドロップ操作でUSBメモリへ保存します。
この段階では禁止設定が行われていませのでコピーガードは動きません。
また、保存コンテンツは許可ソフト登録が終わらないと開く事はできません。
 4. 付属ソフト“USBの安全な取り外し”を実行してからUSBを取り外します。
USBメモリの取り出しには操作が必要です。特にデータを書き込んだ後は、必ず取り外し操作を行って「安全に取り外せます」のメッセージを確認してからUSBを抜いてください。
複数を設定する場合は、先に全てのUSBにコンテンツをコピーします。
 5. 設定を行う為にUSBをもう一度パソコンに挿入します。
 6. あらかじめダウンロードした管理ソフトUsbManageで設定を行います。
設定するUSBメモリを挿入してUsbManageを実行します。初期パスワード“admin”はじめて管理ソフトを実行すると簡易設定画面が表示されます。⇒P.31
詳細設定画面を確認します。
- 複数本に同じ設定を行う場合は「設定コピー」機能が便利です。⇒P.35
USBマスタとコピー先USBの2本差しの状態で連続して設定をコピーします。



はじめに管理ソフトをダウンロードしよう

UsbManage (USBマネージ) のダウンロード

USBの設定をするには管理ソフトUsbManageが必要です。
管理ソフトは製品には付属していません。
下記手順でダウンロードして下さい。



UsbStart

OR



serup



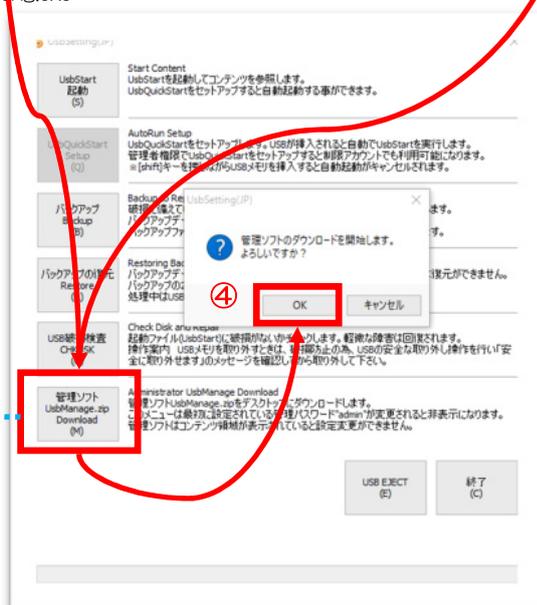
UsbSetting.exe

この画面は管理ソフトの起動設定で表示しない事もできます。(初期値は表示)
この場合はsetupフォルダのusbSettingを直接実行して下さい。



UsbSetting.exe

USBの管理パスワードを“admin”以外に変更すると管理ソフトのダウンロードボタンは表示されません。



SETUPフォルダにある UsbSettingをダブルクリックで起動します。
画面が表示されたら 管理ソフト UsbManage.zipのダウンロードを選択します。
管理ソフトは**デスクトップにダウンロードされます**。
ダウンロードされましたら UsbManage.zipを解凍します。
管理ソフトのダウンロードボタンは管理パスワードを設定すると非表示になります。

手動でダウンロードするにはブラウザに以下のURLを入力します。
<http://www.abroad-sys.com/USB/V7/UsbManageV7.7.zip>
(USB本体バージョンVer7.7~7.8でご利用下さい)

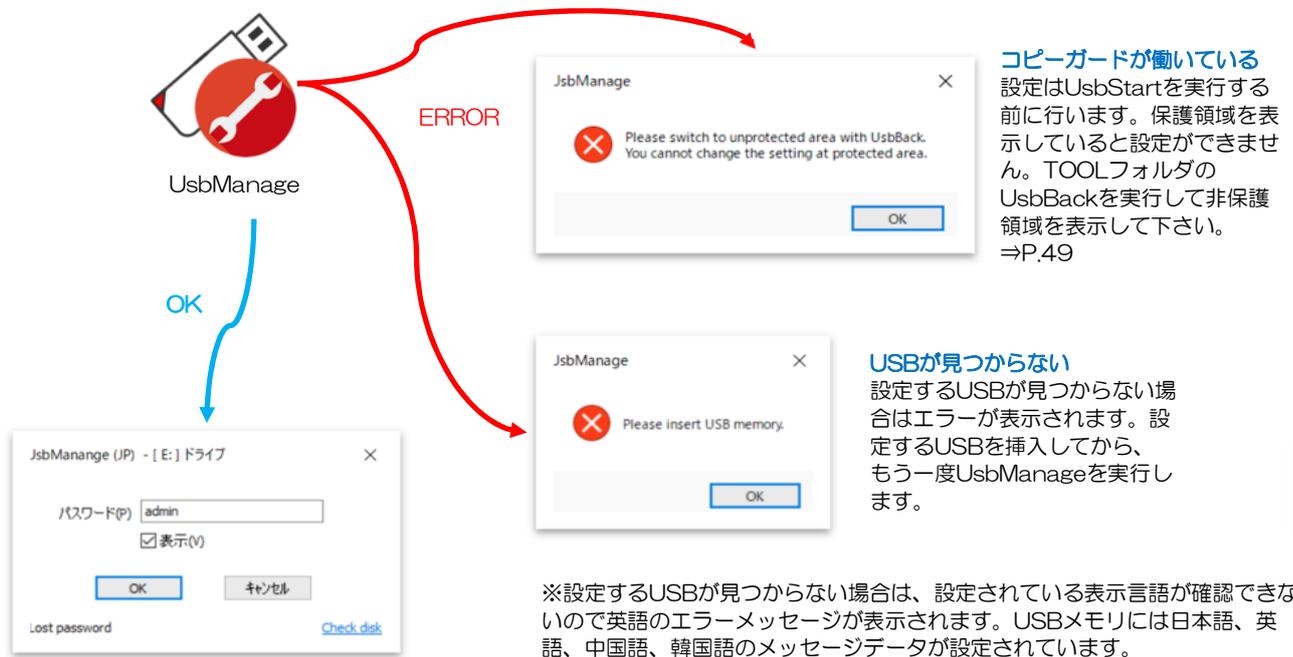


管理ソフトを起動してみよう

管理ソフトのダウンロードができれば実行してみましょう

保護領域を表示していると管理ソフトは動きません。UsbStartを実行しないで設定をしてください。

1. 設定するUSBメモリがパソコンに挿入されている事を確認します。
2. デスクトップなどに保存してあるUsbManageV7を起動します。



3. USBメモリに設定してある管理パスワードを入力します。(初期パスワード：“admin”)

設定ができないケース

1. 設定バージョンの不一致 管理ソフトのバージョンVer7と設定するUSBメモリのバージョンは一致している必要があります。UsbManageV7でバージョンが違うUSBメモリVer6は設定ができません。
2. 管理ソフトUsbManageV7はUSBメモリからは起動できません。デスクトップやCドライブのフォルダなどから実行して下さい。
3. コンテンツを表示(保護領域を表示)しているとコピーガード機能が有効になる為、管理ソフトは起動できません。UsbStartを実行する前に設定をしてください。
4. 自動実行UsbQuickStartをセットアップしている。UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでは管理ソフトは動きません。アンインストールして下さい。⇒P.51 P.52



コンテンツを保存する UsbStart

保護領域の表示

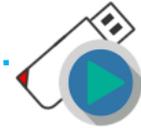
USBメモリの中に保存するデジタルコンテンツの内容物の事を「コンテンツ」と呼びます。コンテンツはUsbStartを実行して保護領域に切り替えてから保存します。

自動起動



UsbQuickStart

パソコンにUsbQuickStartをセットアップするとUsbStartが自動実行します。ただし、**設定を行っているパソコンには自動起動は行わないようにして下さい。**
自動起動のUsbQuickStartをセットアップしているパソコンでは管理ソフトUsbManagerは動きません。
⇒P.24 P.51



UsbStart



ユーザーパスワードが設定されている場合はパスワード画面が表示されます。初期値は何も設定されていないのでユーザーパスワード画面は表示されません。

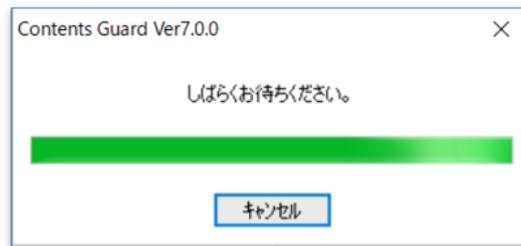
11

パスワード画面



ユーザーパスワード (任意)
パスワードは、ユーザーパスワードと管理パスワードの2つがあります。この画面では、ユーザーパスワード以外に管理パスワードでも許可されます。

初期設定ではユーザーパスワードが設定されていないのでパスワード画面は表示されません。⇒P.41 P.47



保護領域が表示されます。ボリューム名“PROTECT_USB” USBを開いてコンテンツをドラッグ&ドロップ操作で追加して下さい。



“Usb安全な取り外し”を実行して「安全に取り外せます」のメッセージを確認してからUSBを抜いてください。



はじめての利用によくある質問

空き容量がない？

1. データコンテンツガードは、2つの領域をもっています。UsbStartを実行してからコンテンツを保存します。UsbStartを実行していない場合は、非保護領域と呼んでいる領域を表示していますので空き容量は5M程度です。

2. 管理ソフトUsbManageの管理パスワードを入力後、最初に表示される画面に「空き容量をゼロにする」という機能があります。このチェックを外すと空き容量が表示されますが、非保護領域側には大きなファイルは保存できません。

管理ソフトがダウンロードできない。

管理パスワードを設定するとUsbSettingのダウンロードメニューが非表示になります。手動でダウンロードをしてください。大文字・小文字・ピリオドも正確に入力してください。ダウンロードできない場合は違うブラウザでお試し下さい。
<http://www.abroad-sys.com/USB/V7/UsbManage.zip>

はじめからコンテンツを起動できないか？

付属ソフトのUsbQuickStartとAutoStartの2つを組み合わせるとUSBが挿入されると指定のファイルを開く事ができます。
ただし、自動実行には制限がありますので詳しくはUsbQuickStartについての説明をご参照ください。⇒P. 50 P.51

USBがまったく認識しなくなった

USBを取り外す時には操作が必要です。書き込みを行って操作をせずにUSBを抜いてしまった場合は、Windowsデバイスマネージャーで一時的に利用を停止される場合があります。この場合は復帰操作が必要です。⇒P.63
→認識はするがエラーが表示される場合は、インデックス領域が壊れている場合があります。この場合は、バックアップデータの復元が必要になります。



優先サポートで問い合わせ

.....
管理ソフトの問合せ機能を使うと優先的に回答

優先サポート

著作者/コンテンツ管理者の方

管理ソフトUsbManageのお問合せ画面からご質問をお送りください。この画面からの質問は優先して回答をしています。

右記のお問合せ画面より質問ができない場合は、一般サポートへメールでご質問下さい。この場合、必ず以下の内容をお知らせください。

1. お名前、会社名
2. ご利用のUSB製品名 (必須)
3. 製品バージョン
4. ご利用コンテンツ種類 (必須)

一般サポート

製品購入前のご質問やエンドユーザー様からのご質問はサポート専用窓口にてメールでお問い合わせをお願いします。support@abroad-sys.com

※電話サポートはありません。

フォルダやファイルの文字化け
USBメモリが急に認識しなくなった
ウィルスセキュリティソフトの誤検知

⇒P.60
⇒P.63,64
⇒P.65

管理ソフトUsbManageから
問い合わせを行うと優先的に回答

The screenshot shows a software window titled 'USB Manage(JP) Data Contents Guard 7.0.0 - [E:]ドライブ'. It contains several tabs: '製品情報', '禁止設定', '許可ソフトウェア', '別名保存禁止', 'パスワード', '言語', '起動動作', '日付検査', and '優先サポート'. The '優先サポート' tab is active. The form fields include: 'お名前 your name' (with a text input field), '宛先のメールアドレス support@abroad-sys.com', '送信先のメールアドレス your E-Mail' (with a text input field containing 'naaa@kaisya.com'), '添付ファイルリスト' (with '追加' and '削除' buttons), 'CCのメールアドレス' (with a text input field), '質問のカテゴリ' (a dropdown menu showing '(100),エラー対応'), and '質問内容 *同時にUSBの設定内容も送信されます' (a large text area). At the bottom, there are buttons for '簡易設定', 'OK', and 'キャンセル', along with a 'メール送信' button.

優先サポート問合せ機能⇒P.45



エラーレポート画面

エラーが発生した場合は、エラーレポート画面が表示されます。
エラー情報を送信すると原因を調査する事ができます。

エラーレポート送信後にサポート窓口に質問をお送りください。
サポート窓口： support@abroad-sys.com

Data Contents Guard Ver7.0.0

 処理はキャンセルされました。

エラー情報を送信後 サポート番号AX-XXXXXを記載して
support@abroad-sys.comへお問い合わせ下さい。

サポート番号:AX-06510

著作権者
コンテンツ名
連絡先

Product:Data Contents Guard Ver7.0.0
UsbStart.exe:7.0.0.8
UsbQuickStart:none
OS
Microsoft Windows 10 Pro
Version:10.0.16299
CSD Version:
Japanese
USB Information:058F-1000-AXP201712040458
USB Controller
Intel(R) 5 Series/3400 Series Chipset Family USB Enhanced Host Contr

[UsbError.dat](#)を添付

エラー送信が出来ない場合はUsbError.datをメール添付で送信して下さい。
送信先:support@abroad-sys.com

バージョンチェック(次回接続時)

メールアドレスなどのコンタクト情報(任意)

※バージョンアップなどをご案内させていただく場合があります。



エラーレポートを送信する

手動でエラー送信画面を表示する方法

エラーなどが発生した場合、エラーレポート画面が表示されます。エラーレポートが送信できなかった場合は、手動でエラーレポートを表示する事ができます。手動でエラー情報を送信した場合、調査に必要なWindowsのバージョンやハードウェア情報が含まれていますがエラー直後の情報が含まれていません。エラー情報を送信した後にサポート番号とエラーが発生した状況を詳しく support@abroad-sys.com にお知らせください。

エラーレポート画面

※エラー情報を送信できない場合は [USBError.dat](#) を保存してメール添付でお送りください。

エラーレポートが送信されます。

15

上記手順でエラーレポートを送信してから現象とAX-12345 などのサポート番号をメールでお知らせください。

support@abroad-sys.com



管理ソフト／トラブルシューティング

管理ソフトがダウンロードできない

原因：①ダウンロードメニューが表示されていない。②セキュリティソフトでダウンロードが止められている

解決：①管理パスワードが” admin” 以外に変更されると管理ソフトのダウンロードボタンは表示されません。

ブラウザに以下のURLを入力して手動ダウンロードして下さい。

<http://www.abroad-sys.com/USB/V7/UsbManage7.5.zip>

※全て半角、大文字・小文字も正確に入力してください。間違っているとダウンロードできません。Windowsのダウンロードフォルダに保存されます。

②他のパソコンでダウンロードして下さい。製品サポートにお問合せいただければメール添付で送信も可能です。ただし、ダウンロードができない場合はメール添付の保存もできない場合があります。

SETUPフォルダが見つからない

原因：保護領域を表示している。

解決：SETUPフォルダは非保護領域にあります。

UsbStartを実行すると保護領域に切り替わりますのでSETUPフォルダは見えなくなります。

SETUPを参照する場合はUsbStartを実行しないで下さい。

自動起動のUsbQuickStartをセットアップしていると、USBが挿入されると自動でUsbStartを実行します。この場合、USBが挿入されると保護領域を表示します。TOOLフォルダがある場合は UsbBackを実行します。自動起動UsbQuickStartをセットアップしておりUsbBackも無い場合は、USBを挿入して「しばらくお待ちください」のメッセージ画面で「キャンセル」ボタンをクリックします。UsbStartの自動実行はシフトキーが押されているとキャンセルされます。USBメモリを挿入するときにシフトキーを押しながら挿入する方法でも自動実行をキャンセルする方法もあります。

管理ソフトが動かない

原因：①USBと管理ソフトのバージョン不一致②保護領域を表示している③設定するUSBメモリが挿入されていない

解決：①USBメモリバージョンと同じ管理ソフトバージョンを利用してください。

UsbStartを実行して「しばらくお待ちください」のタイトルメニューにUSBメモリのバージョン情報が表示されています。②設定は非保護領域で行います。設定する前にUsbStartを起動しない

③先にUSBメモリを挿入してから管理ソフトを実行する。

非保護領域を表示できない（保護領域が表示されてしまう）

原因：①UsbQuickStartをセットアップしている。②UsbStartを実行している

解決：①USBを挿入するときにシフトキーを押しながら挿入すると自動実行はキャンセルします。

「しばらくお待ちください」の表示でキャンセルボタンをクリックする。 UsbQuickStartを設定するパソコンに設定すると設定が面倒になります。

SetupフォルダにあるUsbQuickStartをもう一度実行するとアンインストールします。

②. 設定はUsbStartを実行する前に行います。保護領域にTOOLフォルダがある場合はUsbBackを実行すると非保護領域を表示する事ができます。

主な機能 仕様

バックアップで破損に備える

..... イメージバックアップ/UsbBackup

コンテンツを配布後、利用者がはじめて使う場合はイメージバックアップの実行をお願いします。
バックアップの復元は同じ個体のUSBにしか戻せません。

イメージバックアップ



UsbSetting.exe

メリット : 完全にデータ復活が可能
デメリット : バックアップ時間が長い

処理時間例) 4GB : バックアップ5~20分 復元処理 : 20~80分
実際のデータ量やパソコンの速度に影響します。

タイミング : 最低1回、使い初めにイメージバックを行います。
バックアップデータはハードディスクに保存されます。

⇒P.25

破損の原因

ファイル書き込み中にUSBを取り外すとファイルが破損します。画面上で書き込みが終わっていたと見えても実際にはタイムラグがあり数秒程度遅延があります。

USBメモリを取り外すときは、USBの安全な取り外し操作を行って、取り外しのメッセージが表示されてから抜いてください。

※書き込みを行っていないと思われる場合でもWindowsが復元情報の書き込みを行っています。
軽微なものは修復できますがタイミングが悪いと保存ファイル全部が読めなくなる事があります。



USBの機能



特徴

データコンテンツガードは、情報商材と呼ばれるデジタル情報をコピーできないようにして貸し出しや販売する事ができます。

機能

USBメモリに保存したファイルのコピーを禁止する事ができます。また、別名保存の禁止では、ファイルを開いてデスクトップなどに保存する事も禁止にできます。

これ以外には 印刷を禁止する、画面のスクリーンコピーの禁止、許可されていないソフトのアクセス禁止、パスワード設定が行えます。

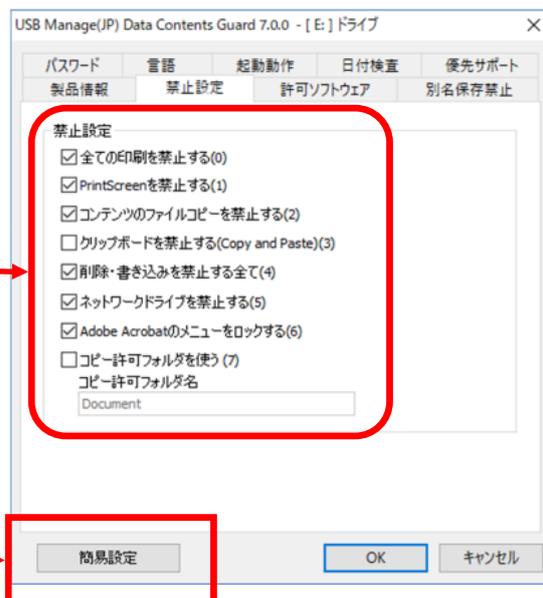
また、コピー許可フォルダ(Documentフォルダ)では、ファイルコピー禁止中でも例外的にコピーを許可できるフォルダです。

これらの禁止設定の多くは、チェックボックスのON/OFFで可能です。

禁止設定タブ

コンテンツを入れた後に設定を行う管理ソフトの「禁止設定」タブに必要なチェックを入れる。

この設定には管理パスワードが必要です。



簡易設定ボタン

簡易設定でコンテンツ種類を選ぶだけでも設定ができます。

2つのパスワード管理

..... UsbManage管理パスワード/UsbStartユーザーパスワード

パスワードはユーザーパスワードと管理パスワードの2つのパスワードがあります。
 パスワードは何も設定をしなれば表示されません。
 管理パスワードは初期値で” admin” が設定されています。
 ユーザーパスワードは初期値は設定されていません。



UsbSetting



ユーザーパスワード

- ユーザーパスワードが設定されていない場合は、パスワード画面は表示されません。
- ユーザーパスワードとコピーガードは関係がありません。ユーザーパスワードを設定しなくてもコピーガードは働きます。
- ユーザーパスワードは、最後に入力したパスワードをパソコンに保存できます。
- ユーザーパスワードを忘れた場合は、管理ソフトUsbManageで再設定できます。
- ユーザーパスワード欄はユーザーパスワード、管理パスワードどちらでも許可されます。



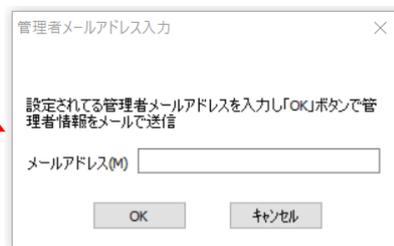
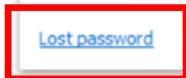
UsbManage



管理パスワード

- 管理パスワードは設定変更に必要なパスワードでユーザーパスワードとは別に管理されています。
- 管理パスワードはミス入力回数が設定されています（最大20回）。ミス回数を過ぎるとそれ以降、正しいパスワードが入力されても無視されます。パソコンの再起動でリセットされます。

20



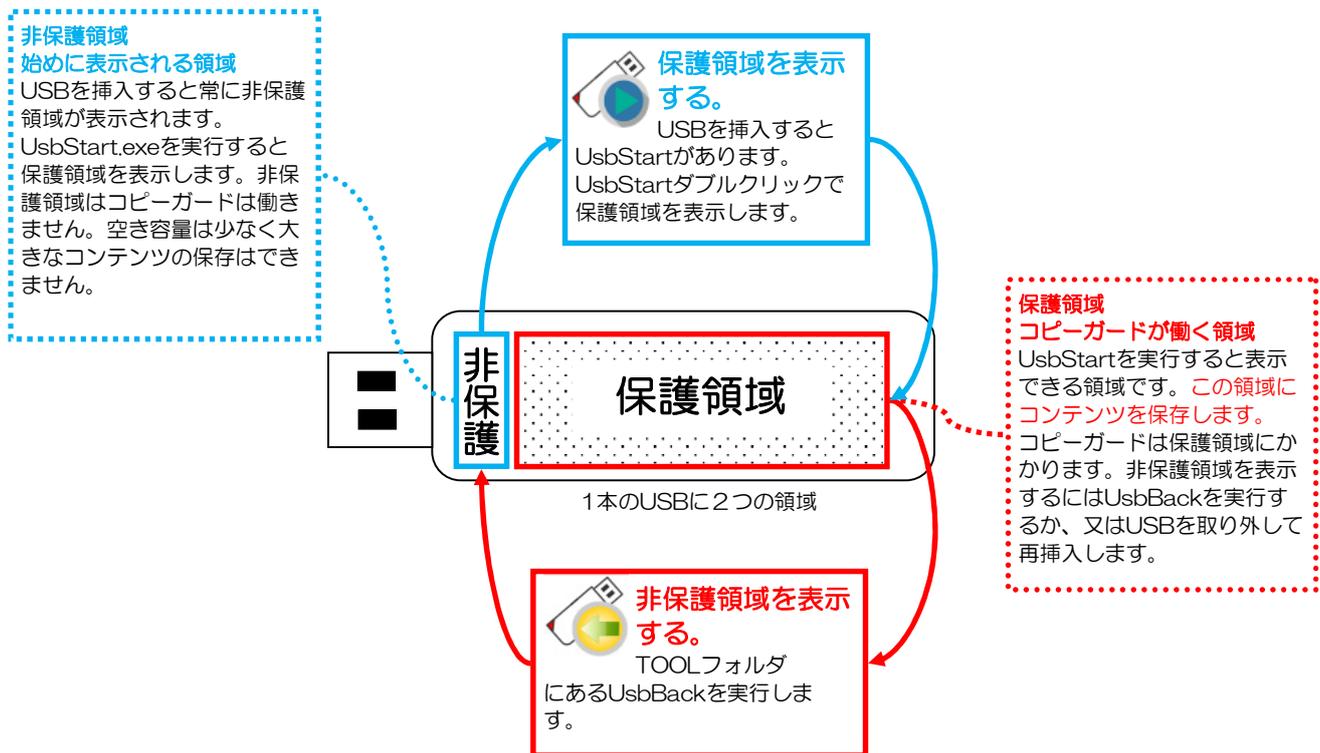
Lost Password

管理パスワードを忘れた場合は、あらかじめ登録されている管理者メールアドレスへ送信することができます。送信するには、事前に登録されている管理者メールアドレスの入力が必要です。



1本のUSBに2つの領域

2つの領域を切り替えて、どちらか1つの領域が表示されています。



1本のUSBメモリに2つの領域

本USBメモリは1本のUSBメモリを2つの領域に分けられています。初めてパソコンにUSBメモリを挿入すると空き容量が少ない非保護領域が表示されます。2つの領域はUsbStartを実行する事で切り替えて利用します。UsbStartは保護領域を表示するソフトです。逆に非保護領域へ戻るにはTOOLフォルダのUsbBackを実行します。

運用方法

最初にUSBを挿入するとUsbStartを実行します。コンテンツの入っている領域が表示されますので、コンテンツをダブルクリックで開きます。頻度が激しいコンテンツの場合は、付属ソフトのUsbQuickStartをセットアップすると便利です。UsbQuickStartがセットアップされたパソコンでは直ぐにコンテンツを表示できます。

自動実行は管理者パソコンには設定しない

UsbQuickStartはUSBの設定を行う管理者にはセットアップしないで下さい。UsbStartが自動実行されると設定が面倒になります。



動作検証済みのソフトウェア

.....

動作確認済みソフトウェア一覧(※1)

Adobe Acrobat Reader、Adobe Acrobat std/Pro、Note Pad(メモ帳)、Microsoft Excel、Microsoft Excel Viewer、Microsoft Word、Microsoft Word Viewer、Microsoft Access(mdb)、Microsoft PowerPoint、Microsoft PowerPoint Viewer、Microsoft Publisher、Microsoft Word Mobile、Microsoft Excel Mobile、Microsoft PowerPoint Mobile、Microsoft Edge、Microsoft Internet Explorer、Mozilla Firefox、Opera Internet Browser、Google Chrome、Apple Safari、Windows Media Player、GOM PLAYER、VLC media player、Media Player Classic(MPC-HC)、ClickView、Microsoft Paint、Microsoft Word Pad、OpenOffice.org、HWP、JUST-太郎 2008-2014、JUST花子 2008-2014、JUST 三四郎、JW_CAD、Windows Reader、JW_CAD、FileMaker Pro、SumatraPDF (PDF Reader)

別名保存の禁止機能 検証済ファイル形式

Movie Format	avi, wmv, flv, mp4, mov
HomePage	htm, html, mht
Photo/Image File	bmp, jpg, jpeg, gif, tif, tiff, png
TEXT File	txt, csv, prn
プレゼンテーション	ppt, pps, odp, sxi, odg, otp
ドキュメント形式	pdf, doc, docx, pdf, odf, docm, odt, sxw, rtf, txt
表計算形式	xls, xlsx, xlsb, xlsx, ods, sxc, xml, csv, txt
Music File	mp3, aac, aiff, wav, wma
Just 一太郎形式	jtcd, jtcd, jtt, jttd, odt, jfw, txt, jfw, jvw, jbw, juw, jaw, jtw, jsw, doc, ppt, rtf
Just 花子形式	jhd, jhdc, jth, jthc, jbh, juh, dwf, dxf, svg, ppt, pptx, sxd, odg
Just 三四郎	jsd, jsdc, jst, jstc, jac, jtc, xlsx, xls, 123, wk4, wk3, wj3, wj4, ods, txt, csv, slk
CAD形式	pdf,jww,jwc,dwg,dwf,dxf,skp,stp,ste,step,p21,sfc,sxf,igs,iges

【注意事項】

別名保存の禁止機能(※2)は上記確認ソフトウェア以外では未対応の場合があります。
 ※プラグインソフト利用や新しいバージョンでも対応できるようになっておりますが、全ての機能での動作や保護の確認は行っておりません。

.....

※1)許可ソフトウェアの一覧に表示されるソフトです。この一覧にない場合は、個別登録を行います。

※2)別名保存の禁止は、ソフトウェアの作り方に依存します。

Windowsで提供されている標準的な保存処理を行っている場合は対応しています。

Windowsの機能を使わずに独自に保存処理を行っている場合は個別対応する必要があり、検証済みでないソフトウェアの場合は別名保存の禁止機能が働か確認して下さい。

.....



対応OS／利用できない環境

本USBメモリはWindows専用です。以下の環境は未対応で動作できません。

対応OS

Windows 8.1/10/11

※2020/6以降のWindows10バージョンをご利用の場合、古いUSBメモリバージョンでは動作しません。

Windows10 2004/20H2/21H1以降はUSBメモリのバージョンVer7.4以降に更新する必要があります。https://www.abroad-sys.com/USB/2004/10_2004.html

※WindowsXP/Vista/7でも動作しますがサポート対象外になります。マイクロソフト社およびセキュリティソフトの誤検知で動作できないトラブルの場合、対応ができません。

対応できない環境

本USBメモリはスタンドアロン（1台のパソコン）環境で利用します。

ネットワーク経由で共有する事はできません。Windows以外のMacやUNIX系のOS、USB対応の家電製品は未対応です。ご利用になれません。未対応OSの場合は、原則動作保証がありません。コンテンツが保存されている保護領域を表示できません。

仮想実行環境について

●動作確認を行っているもの、サポート対象内

- ・Intel Mac系でBoot CampでのWindows10
- ・Intel Mac系でParallels DesktopでのWindows10（メモリ搭載16GB以上必要）

●動作ができないもの、サポート対象外

- ・Windows Insider Preview 版は全て動作保証外になります。

仮想環境は一部の機能は動作する可能性がありますが当社での動作保証をしておりません。商用版の仮想実行環境でUSBメモリがサポートされている場合は動作ができると思われます。

- ・Intel系Mac、M1 Mac共にWindows11は動作ができません。

Windows11はハードウェア仕様でセキュリティチップTPM2.0が必須ですがMacはTPMチップが未搭載なので動作しません。ParallelsのソフトウェアTPM2.0は、一応は動作できますがマイクロソフト社で非対応となっています。

- ・M1 Macでの利用

M1 MacでのWindows10/11は動作保証しておりません。基本的には動作しません。

ネット情報でセットアップができない処理を回避する方法や研究開発用のARM版Windowsを動作させる方法を見つけるができますが正式な物ではないので通常のご利用で運用するものではありません。

WindowsはIntel社のCPU専用のOSです。M1チップはARM社のCPUの為、通常のIntel版Windowsは動作しません。研究開発中のARM版のWindowsで一応は動作できますがOSの完成度の問題で不具合が多い事、ARM版のWindowsは正式版ではないので非推奨及びサポート対象外になります。

- ・Hyper-V（Windows標準仮想実行環境）での利用 USBがサポートされていないので動作できません。
- ・Ubuntu 20.04/VM Ware7.0/Windows10で起動できる事を確認していますがサポート対象外になります。（LINUX系のWindowsアプリを動作させるWineではご利用できません。USBの保護機能があり動作しません）

仮想実行環境やサポート対象外のもの、高い確立で何らかの障害が発生すると思われます。バージョンアップなどご利用ができなくなる事もありますので通常の運用ではご利用されないようにお願いします。

仕様一覧

項目	説明
製品名	Data Contents Guard データコンテンツガード Ver7
寸法・重量	オートリターン機構 キャップレスタイプ 長さ 60mm X 幅 21 mm X 厚み 10mm 重量:10g
材質	ABS樹脂
刻印	レーザーマーキング
フラッシュメモリ	NAND型フラッシュメモリ PCBA (Printed Circuit Board Assembly)
インターフェイス	USB 2.0 規格 / Aタイプ。タブレット機などUSB micro-B規格の場合は、変換アダプタ等のご利用でご利用になれますが利用中に接続が解除される事があり推奨しておりません。また、USB3.0規格でも規格上はご利用になれますが、100%の互換性がない場合があります推奨しておりません。
製品保証期間	ご購入から1年間／無償修理または同等品との交換 ※保存されているデータの保証はありません。使い始め前に必ずバックアップを実行して下さい。
データ保持期間	約5～10年 ※利用状態により異なる
動作環境	推奨利用温度 5℃～40℃ (70℃以上にならない事) 推奨利用湿度 5%～90% (静電気が起きない事、結露が起きない事) ※冬場など静電気でUSB端子でスパークを起こし内部の回路が破損する事故があります。 ※高温の状態での長期利用は寿命が短くなります。
書き換え回数	約1,000～10,000回 ※容量や利用状態により異なる
注意事項	【静電気】強い静電気で内部の部品が破損する事があります。大量にUSBメモリを取り扱う場合は乾燥した室内を避け帯電防止対策を行って下さい。 【耐水性】なし。本製品を水に濡らさないで下さい。一部、COBタイプ(ミニサイズ)では耐水性のものがありますが完全乾燥が必要です。濡れたままでの利用はできません。
フォーマット	FAT32
容量	4G～64G ※32G以上は受注生産
対応OS	Windows 8.1/10/11 ※対応OS(Windows)以外では動作しません。 ※Windows XP / Vista / 7 も動作しますがマイクロソフト社のサポートが終了していますのでサポート対象外となります。古いバージョンのUSBをご利用の場合、2020/5以降に公開された新しいWindows10に未対応で動作しない場合があります。バージョンアップ https://www.abroad-sys.com/USB/2004/10_2004.html
ファイル容量制限	FATフォーマットの制限で1ファイル4G以上のファイルは保存できません。 正確には1ファイル4,294,966,784バイトが上限になります。(2 ³² -512バイト) ※この制限を超える場合はexFAT又は/NTFSなどにフォーマットが必要です。フォーマットを行った場合でもコピーガード機能は有効です。ただし、フォーマットを行うとUSBのシステムフォルダ(.cfg)が削除されますので利用の場合にはサポートまでご相談下さい。
対応していない機能	●対応していないOSや機器にはご利用できません。 ● コピーガード機能はあくまでローカル使用でスタンドアロン用です。ネットワーク経由のご利用には対応していません。 ●Windows以外のUNIX系、MacなどのOSやフォトフレーム等のデジタル機器には対応していません。 ●一部のセキュリティソフトウェアの誤検知でのシステムファイル削除や競合があり同時使用できない場合があります。この場合は当社のサポートまでお知らせください。セキュリティソフトベンダへ当社サポートより改善申し入れを行います。
製品機能の保証	●本製品のコピーガード機能はWindowsの基本操作でコピーができない事を確認しておりますが、全てのアプリケーションソフトや解析手法において絶対にコピーができない事は保証しておりません。 ●別名保存の禁止機能は、全てのソフトウェアで禁止できる事を確認していません。確認を行っていないソフトでは、別名保存の禁止が動かない場合があります。 ●USBメモリは書き換え回数やデータ保持期間は無限ではなく寿命があります。Windows ReadyBoostやキャッシュなどそれに類する激しく読み書きを繰り返す様な利用方法には対応していません。キャッシュ利用や類似する動作のソフトウェアのご利用は保証対象とはなりません。



認識しない／トラブルシューティング

安全な取り外し

USBメモリを取り外す場合は、操作が必要です。いきなり抜くとUSBが認識しなくなったり、保存されているファイルが破損する事があります。特にUSBのインデックス領域書き込み中にUSBが取り外されると全体が読めなくなる可能性があります。これを防ぐためにUSBの取り外し操作を行って下さい。

フォルダ名やファイル名の文字化け

原因：FATのインデックス領域に破損

解決：①バックアップの復元より修復②禁止設定を解除後、保護領域をフォーマットする。バックアップされていない場合は保護領域側のコンテンツは復元はできません。

特定のパソコンでUSBメモリが認識しない

原因：USBドライバが一時的に停止されている

解決：Windowsのデバイスマネージャーを表示してエラーの出ているドライバのプロパティを開き「このデバイスを有効にする」ボタンをクリックする。

特定のパソコンでUsbStar実行後にUSBが認識しない

原因：保護領域側を認識しているUSBドライバが一時的に停止されている

解決：UsbStartを実行後、USBが認識していない状態でWindowsのデバイスマネージャーを表示してエラーの出ているドライバのプロパティを開き「このデバイスを有効にする」ボタンをクリックする。

複数のパソコンでUSBが認識しない

原因：USBのシステム領域の破損

解決：修理扱いでメーカーサポートにお問合せ下さい。この場合はお客様側で復帰できる方法はありません。この領域は通常の取り扱いでは破損しません。ご利用ソフトなどをお知らせください。

空き容量がない

原因：①管理ソフトUsbManageの「空き容量をゼロにする」がONになっている。②非保護領域になっている

解決：①管理ソフトUsbManageの「空き容量をゼロにする」のチェックを外す。②UsbStartを実行して保護領域を表示します。USBは1本に2つの領域があり切り替えて表示しています。USBをパソコンに挿入して最初に表示されている領域は非保護領域と呼んでいます。この領域は、コンテンツを保存する領域ではありません。空き容量をゼロにする機能があり空き容量がありません。

UsbStartを実行すると保護領域に切り替える事ができます。

UsbSetting設定

バックアップ
バックアップ復元
自動起動
チェックディスク

UsbSettingからUsbStartを実行する

UsbSetting/UsbStart



保護領域を表示するには、UsbStartを実行します。
UsbSettingを表示している場合は、メニューの” UsbStart起動” を選んで下さい。

UsbSetting.exe



UsbStart

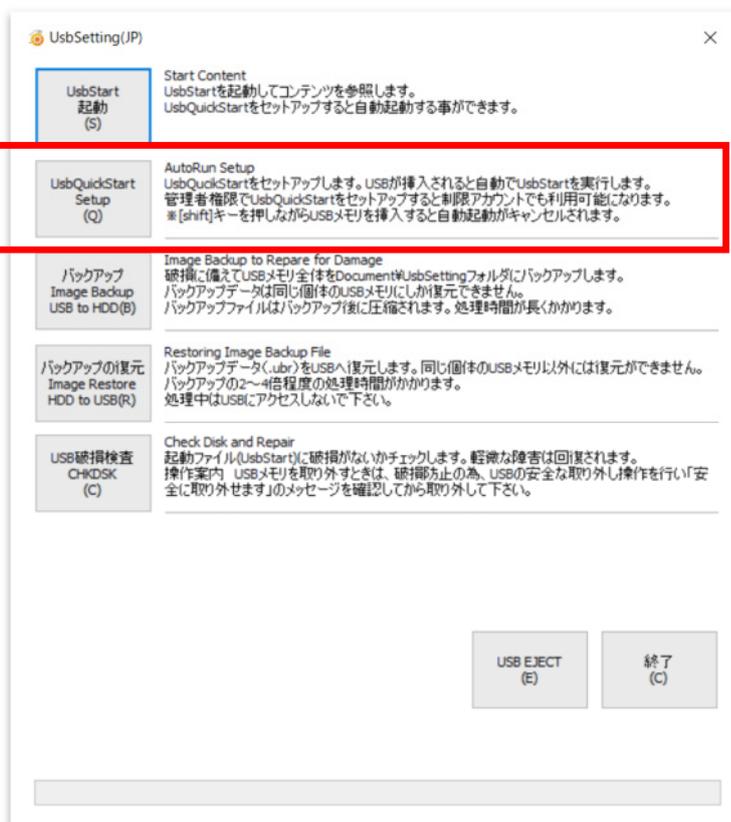
USBの自動起動 UsbQuickStart

UsbSetting/UsbQuickStart



UsbSetting.exe

自動起動させたい場合はUsbQuickStartをセットアップします。
UsbQuickStartは各パソコンに設定します。
制限アカウント（※1）のパソコンは管理者権限でUsbQuickStartをセットアップして下さい。



UsbQuickStartの セットアップ

管理パスワードが初期値“admin”の場合は選択できません。
設定するパソコンには自動起動は設定しないで下さい。

制限アカウント

大きな企業や学校では、LOGINアカウントに制限をかけて運用されている場合があります。ソフトウェアのセットアップや実行を制限されている場合は制限のあるアカウントで利用されています。
この場合、UsbQuickStartをパソコンに設定すると制限アカウントでも利用できるようになります。UsbQuickStartをセットアップする場合、管理者権限（管理者パスワード）が必要ですのでパソコンを管理している情報システム部門にご相談いただくか、制限のかかっていないパソコンでご利用下さい。
⇒P.51

UsbQuickStartの直接セットアップ/アンインストール

SETUPフォルダにあるUsbQuickStartがあります。直接実行するかUsbSettingメニューから実行して下さい。既にセットアップされているパソコンで実行するとアンインストールされます。

※ネットワークで複数端末に設定する場合は、コマンドラインより /Nをつけて実行すると応答メッセージを表示しません。

UsbQuickStart.exe /N

■管理者/パソコンにはUsbQuickStartを設定しない

管理ソフトUsbManageを実行するパソコン、つまりUSBを設定するパソコンは自動起動は設定しないで下さい。**管理パスワードが“admin”になっている場合は、UsbQuickStartは設定できません。**また、UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでは管理ソフトUsbManageの実行ができません。

イメージバックアップで破損に備える

UsbSetting/イメージバックアップ



1. SETUPフォルダ内にあるUsbSettingを実行します。
2. メニューの“バックアップ/Image Backup”を選択します。
3. バックアップ終了までUSBにアクセスせずにお待ちください。

UsbSetting.exe



イメージバックアップ

ファイル破損や初期状態に戻したい場合に備えてバックアップを行います。バックアップは処理時間が長くなります。4GBのUSBメモリの場合5～20分ほどかかります。(パソコン速度、保存されているコンテンツ量に影響します。)

破損の原因

ファイル書き込み中にUSBを取り外すとファイルが破損します。USBメモリを取り外すときは、USBの安全な取り外し操作を行って、取り外しのメッセージが表示されてから抜いてください。

※書き込みを行っていないと思われる場合でもWindowsが復元情報の書き込みを行っています。軽微なものは修復できますがタイム

29

バックアップ

ファイル破損に備えてイメージバックアップ（セクタ単位の全バックアップ）を行います。設定情報を含めすべてがバックアップされます。バックアップファイルは、圧縮して保存されますがCドライブには一時的にUSBと同じ空き容量が必要です。

バックアップデータの保存場所

ドキュメントフォルダのUsbSettingフォルダ内に拡張子(.ubr)で保存されます。
C:\Users\%(アカウント名)\Documents\UsbSetting

処理時間

一度、USBメモリと同じ容量のイメージデータのバックアップを取ります。その後、圧縮されます。バックアップはHDDよりはSSDの方が速く、圧縮は速いパソコンの方が時間短縮ができます。



バックアップ／トラブルシューティング

SetupフォルダまたはUsbSettingが見つからない

原因：保護領域を表示している。

解決：UsbSettingの実行は、UsbStartを実行する前に行います。

UsbStartを実行されるとコンテンツ領域に切り替わるのでsetupフォルダはありません。自動起動のUsbQuickStartをセットアップしている場合、USBが挿入されると自動でUsbStartを実行します。この場合、TOOLフォルダがある場合は UsbBackを実行します。

バックアップデータが無い（見つからない）

原因：ドキュメントフォルダ/UsbSettingフォルダに保存されています。

解決：ドキュメントフォルダは通常Cドライブですが設定で他のドライブに設定された場合はどのドライブを探して下さい。

C:\Users\%（ログインID名）\Documents\Usbsetting\%xxxxxxxxx.ubr

拡張子.ubrが無い場合は最後に行ったバックアップが途中で中断されています。バックアップファイルは他の場所へ移動できますが、復元するときには元の位置に戻して下さい。

バックアップが失敗する

原因：①USBメモリのファイル破損②USBメモリの物理的な破損③UsbSettingのバージョン問題またはお使いのセキュリティソフトでUsbSettingの動作が止められている。

解決：①CHKDSKを行い修復を試みる。軽微な場合は修復できます②新しいUSBメモリに交換してコンテンツの入れ直しが必要です。一部分の破損の場合は破損クラスタ検査などで修復できる事もありますがメーカー修理が必要です。③UsbSettingのバージョンアップ/入れ直しやセキュリティソフト側の設定（誤検知登録/復元操作など）

バックアップ処理に長く時間がかかる

原因：①バックアップ処理が途中で止まっている②パソコンが遅くなっている。③32G/64Gなど大容量USBの場合

解決：①バックアップが途中で止まっていないか、保存先のデータファイルのサイズを確認して下さい。方法は以下の通りです。

①-1. ドキュメントフォルダを開きUsbSettingフォルダを開きます。

①-2. バックアップデータ(.ubr)を確認してファイルサイズが増えているか確認して下さい。

②バックアップはバックアップデータのイメージデータ全てを保存先にコピーします。USBメモリと同じ大きさのイメージファイルを圧縮します。パソコンによって速度差が大きくなります。HDDよりもSSDの方が処理は早くなります。

③記憶容量が大きなUSBメモリ（32GB/64GB）は2～4時間程度のバックアップ時間がかかります。バックアップ中にパソコンがシャットダウンやWindowsUPDATEが入るとバックアップが失敗します。失敗した場合はもう一度バックアップを実行して下さい。

バックアップ中、USBメモリへアクセスをしなければ、ホームページ閲覧、メール受信など他のパソコン操作は可能です。

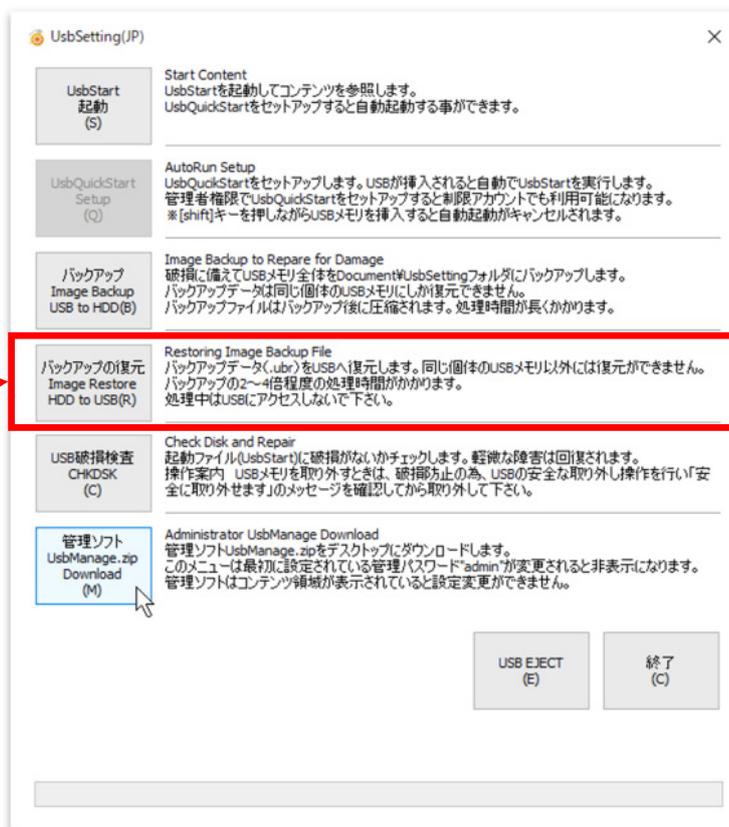
イメージバックアップの復元(リストア処理)



UsbSetting.exe

ファイルの破損などでバックアップデータを復元する場合は以下の方法で行います。

1. SETUPフォルダ内にあるUsbSettingを実行します。
2. メニューの“バックアップの復元/Image Restore”を選択します。
3. 復元処理が終わるまでUSBにアクセスせずお待ちください。



バックアップの復元処理

復元はバックアップした同じ個体のUSBメモリにバックアップデータを戻します。同じタイプのUSBで複数のバックアップを行っても個別にバックアップデータが作られています。同じ個体のバックアップデータが使われますので選択する必要ありません。

USBメモリはメディアの特性で読み込みは速いのですが書き込みが遅いので復元処理の方が時間がかかります。復元にかかる時間は暗号化圧縮を解凍する時間と書き込みを行う時間になります。書き込み時間は同じですが速いパソコンでは解凍時間が短いので合計の復元時間は短くなります。

31

バックアップを行った同じ個体にしか戻せません

バックアップデータはUSBの個体単位で管理されています。強制的に書き込んでも動きませんので同じタイプ、同じ容量でも個体が違っていると復元はできません。

バックアップデータの復元

バックアップファイルは、圧縮して保存されています。復元するとき解凍されますのでCドライブには**一時的にUSBと同じ空き容量が必要**です。空き容量がないとエラーになります。

バックアップデータの保存場所

ドキュメントフォルダのUsbSettingフォルダ内に拡張子(.ubr)で保存されます。
C:\Users\%(アカウント名)\Documents\UsbSetting



バックアップの復元／トラブルシューティング

イメージバックアップで復元できない

原因：①バックアップデータとUSBメモリの個体番号が違う②復元するバックアップデータが規定のフォルダにない③保護領域を表示している。④USBが物理的に破損している。

解決：①バックアップを行った同じ個体のUSBメモリに復元してください。他の個体には復元できません。②バックアップデータは次の場所にあります。ドキュメントフォルダ/UsbSettingフォルダ拡張子 (.ubr)のファイルがある事を確認して下さい。
③UsbStartを実行せずに非保護領域の状態での復元をしてください。
④復元先のUSBメモリが物理的に破損している場合は復元ができません。この場合はメーカー修理を依頼してください。お問合せ先 support@abroad-sys.com

複数のバックアップデータがある。

原因：違う個体のUSBメモリのバックアップを行った。問題はありません。

解決：バックアップを行った同じUSBメモリへ復元されます。1台のパソコンで複数のバックアップ管理ができます。

イメージバックアップの復元時間が長すぎる

イメージバックアップの復元はバックアップした時間の2～4倍程度かかります。4GBのUSBメモリの場合は40～60分程度の時間がかかります。64GBの復元は2～4時間時間がかかります。保存コンテンツが少ない場合は復元時間は短くなります。数時間あっても処理が終わらない場合は、復元するUSBメモリの物理的な破損が考えられます。support@abroad-sys.comにご相談下さい。

処理時間は 圧縮ファイルの解凍時間+USBメモリへ書き込み時間が必要です。

圧縮ファイルの解凍は保存されているコンテンツ量やパソコンの処理速度に影響します。書き込み時間は USB2.0タイプのUSBメモリの場合はバックアップの4倍程度、USB3.0の場合は2倍程度の時間がかかります。

USB2.0 書き込み速度 約4Mbps

USB3.0 書き込み速度 約40Mbps

最初のバックアップデータに戻せない

原因：最後にバックアップしたデータのみが保存されます。毎回、1つ前のバックアップデータに上書きされますので世代管理はできません。

解決：ドキュメントフォルダ/UsbSettingフォルダにバックアップは作られます。世代管理を行いたい場合は、毎回常に同じ名前の上書きされますので、次のバックアップ前に他へコピーしてください。復元時にもとの位置に戻せば復元できます。

UsbBackup/インターナル(内部)バックアップ

“Internal Backup” ボタンが表示されない → データコンテンツガード以外で実行すると表示されません。

復元(Restore)ができない → バックアップデータが無い、バックアップデータが破損している、フォーマットやUSBの管理領域破損でバックアップ保存先の“.reset”フォルダが消えている。

この場合は“イメージバックアップの復元”を行って下さい。

チェックディスク 非保護領域の破損検査



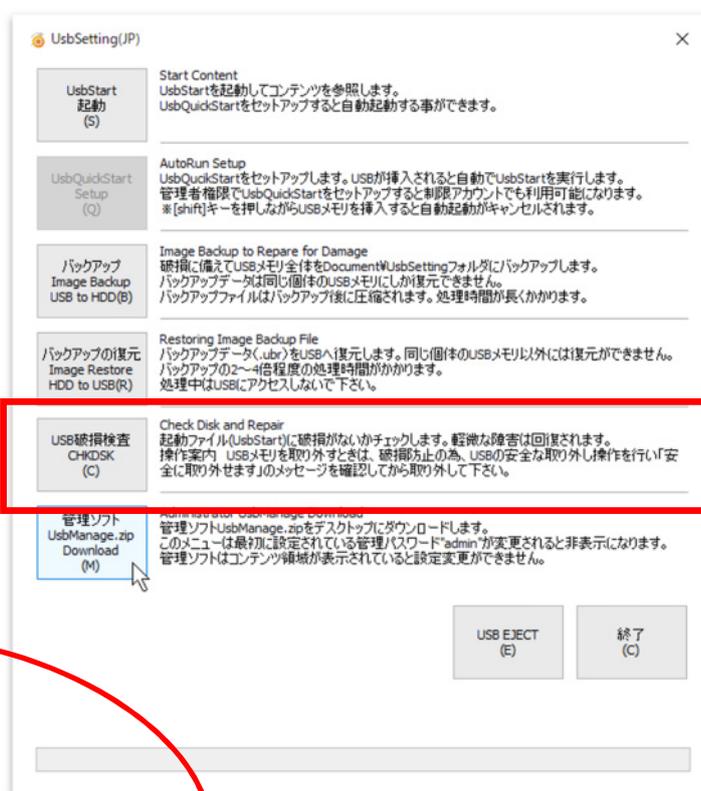
UsbStartを含むデータ領域の破損検査を行います。

破損検査は2つの起動方法があります。

利用者が検査する場合 → UsbSetting「USB破損検査」メニュー

管理者が検査する場合 → 管理ソフトUsbManageのパスワード画面、右下

UsbSetting.exe



破損検査は起動ドライブ（非保護領域）のUsbStartを含むUSBのシステムファイルの検査、修復機能です。

コンテンツ側（保護領域）の破損検査はできません。

保護領域を含む全体の普及はバックアップ/バックアップの復元で行います。

破損する原因

USBへファイル書き込みを行った場合、USBの安全な取り外しの処理が完全に終了していないときに、USBを抜くとインデックスデータが不整合になり、設定コピーやUsbStartの実行ができない場合があります。

書き込みを行っていない場合でもWindowsが復元情報の書き込みなどを行っています。軽微な破損はチェックディスク機能で回復できます。

破損検査
CHKDSK



管理ソフト
UsbSetting.exe



非保護側にファイルが追加できない場合に検査を行います。追加できないケースは、空き容量が無い（空き容量ゼロ）場合とファイルの一部が破損している場合です。空き容量が無い場合は、追加してから前回データが削除される為、上書き保存もできません。

CHKDSK（チェックディスク）

設定コピー機能やセキュリティーソフトの誤検知でUsbStartが移動されるとタイミングによりファイル位置を管理するインデックスデータが破損する事があります。

CHKDSKでは破損検査を行い、実際のファイル位置からインデックスを作り直します。

※CHKDSKは保護領域（保存したコンテンツ）の修復機能はありません。

UsbStart等のUSBのシステムファイル検査に有効です。

管理ソフト UsbManageの使い方

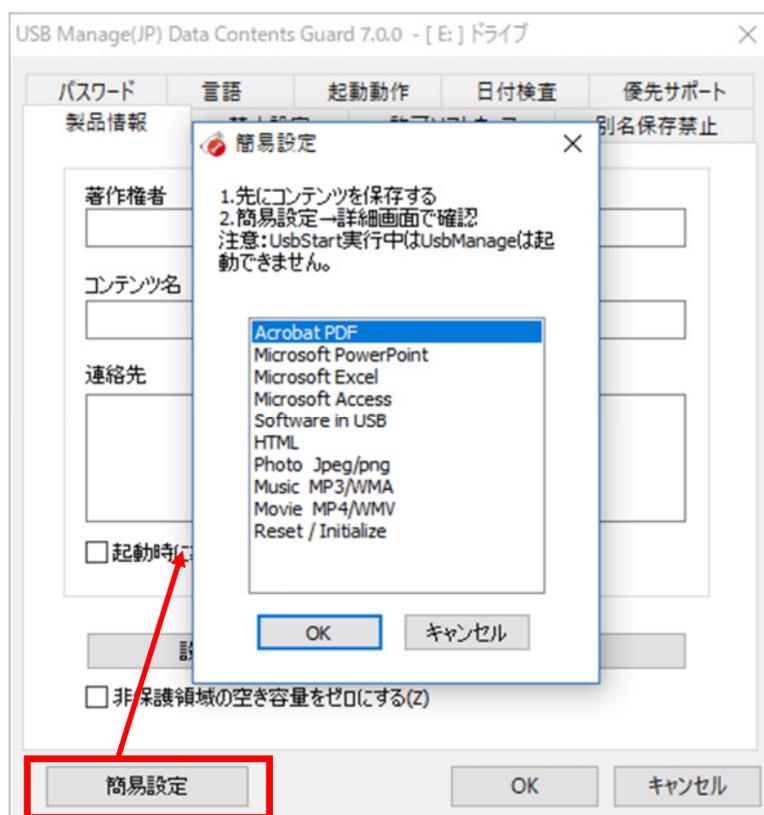
簡易設定



UsbManagae／簡易設定

はじめての設定／簡易設定画面

- はじめて管理ソフトを実行した場合は 「簡易設定」画面が表示されます。
- 管理設定後に詳細画面で利用期限や利用回数など追加の設定を行います。
- 管理パスワードが設定されていない場合（管理パスワードが“admin”）に表示されます。



注意事項

● **コンテンツを保存してから設定を行って下さい。設定を行うとコンテンツの追加ができなくなるケースがあります。**

● 保護領域を表示していると設定できません。UsbStartを実行する前に設定して下さい。

● 管理パスワードが未設定の場合は最初に「簡易設定」画面が表示されます。

● 保存するコンテンツ種類を選択

● 簡易設定で推奨値をセットする

● 詳細画面で変更可能

● 複数選択

簡易設定では推奨値が設定されます。簡易設定後に詳細画面が表示されますので内容を確認して下さい。著作権情報など簡易設定では設定されない項目がありますので詳細画面で入力してください。管理パスワードが“admin”から変更されていない場合は簡易設定が自動的に表示されます。



UsbManagae / 簡易設定

はじめての設定 / 簡易設定画面

- 管理パスワードは必ず設定が必要です。
- 管理者メールを登録するとパスワードを忘れた場合、メールで設定情報を受け取れます。
- 設定変更をするときに管理パスワードが必要です。

- 管理パスワードを設定します。
- 表示チェックボックス：見ながら管理パスワードを設定します。
- ヒント：管理パスワードのヒントを入力します。(任意設定)
- 管理者メールアドレス：パスワードを忘れた場合に登録されているメールアドレスに設定情報送信します。
- テスト送信ボタン：設定されたメールアドレスに設定情報が届くかどうかテストします

簡易設定は、詳細画面に推奨される初期設定を行う機能です。管理パスワードを設定すると自動表示されません。

再設定を行う場合は「簡易設定」ボタンをクリックします。

36

テスト送信

パスワードを忘れた場合に登録されているメールアドレスに管理パスワードや設定情報を送信することができます。テスト送信では正しくメールが送れるかを確認できます。

LostPassword機能では、登録されている管理メールアドレスの入力が必要です。



簡易設定ではできない項目

著作権者の登録は簡易設定では設定されません

著作権者／コンテンツ名／連絡を「製品情報」タブで設定してください。表示／非表示は設定できます。製品情報は非表示でも登録は必要です。



著作権情報、コンテンツ名の登録を「製品情報」タブで設定して下さい。

表示／非表示も設定できます。USBのメーカーサポートを受ける際に必要です。

利用制限の設定

利用回数、利用日数、有効期限の設定は簡易設定では設定されていません。これらの設定は「起動設定」タブで行います。また、日付チェックを行う場合は、「日付検査」タブでに厳密性を設定します。

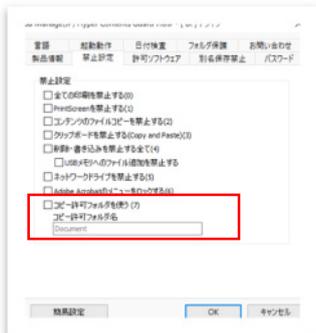


利用日数、利用回数、指定期日の制限を設定できます。

日付チェックも柔軟に設定
インターネットを使った日付の厳密
チェック、オフラインでの柔軟性を持た
せた設定

コピー許可フォルダ／利用ソフトのアクセス制限解除

- ・コピー禁止はUSB全体に適用されます。コピー許可フォルダは、渡したい説明書などを保存するフォルダです。コピー許可フォルダを使うとコピー禁止中でも指定されたフォルダにあるファイルは全てコピー禁止が解除されます。この設定は簡易設定ではできません。
- ・USBをアクセスするソフトを設定する必要があります。これによりコピーを目的にしたソフトを排除しています。アクセス制限を解除するには「実行を許可するソフトを制限しない」をチェックします。



■コピー許可フォルダ
コピーを許可するフォルダの設定

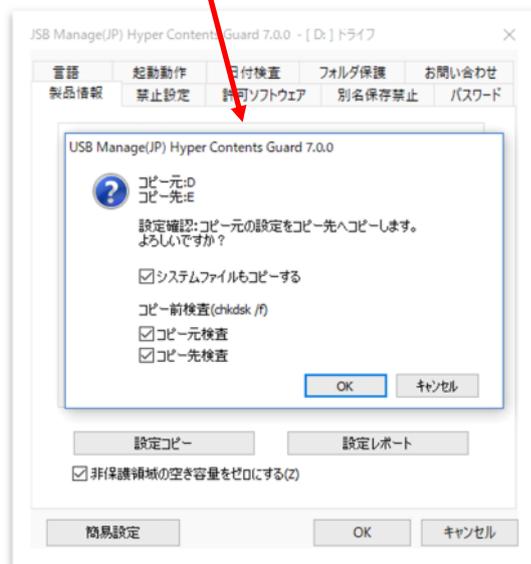
■利用ソフトを制限しない
許可ソフトの登録を解除する。

管理ソフト UsbManageの使い方

詳細設定



同じ設定のUSBを作る



設定コピーができないケース

- コピー先が” admin” 以外のUSBメモリ
 - コピー先の管理パスワードがコピー元と違う場合
 - バージョンが違う場合
- ※バージョン以外の少数点以下のリビジョン番号が違う場合は設定コピーができます。

設定コピー機能

製品情報タブにある「設定コピー」ボタンをクリックすると設定情報が複製できます。

準備と確認

1. 設定情報の複製のみでコンテンツはコピーされません。先に全てのUSBメモリにコンテンツをコピーして下さい。
2. 管理パスワードチェック
コピー先の管理パスワードが違っているとコピーができません。コピーができるのは、2本が同じ管理パスワードまたはコピー先が” admin” になっている場合です。

手順

設定コピー機能ではコンテンツをコピーする機能はありません。先にすべてのコピー先USBにコンテンツをコピーします。設定は最後に一括して行います。

1. マスタUSBにあたるコピー元のUSBを挿入してUsbManageを実行します。管理パスワードを入力して「起動設定」タブを開きます。
2. 設定をコピーするコピー先USBメモリをパソコンに挿入して2本差しの状態にします。
3. 起動設定タブにある「設定コピー」をクリックします。

OKをクリックするとコピー元からコピー先へ設定情報がコピーされます。

連続した設定コピー

コピーが終わるとコピー先USBメモリに対して安全な取り外し処理が行われます。そのままコピー先USBを抜いて、次の新しいUSBメモリを挿入してからOKボタンをクリックします。この操作を繰り返します。

システムファイルをコピーする

コピー元のシステムファイルをコピーすると同じバージョンに統一できます。非保護領域側にPDFなどのファイルがある場合は、それらもコピーされます。

コピー先検査、コピー元検査

連続操作でコピーが終わるとコピー先のUSBを抜きますが、同じ形状のUSBメモリなので誤ってコピー元を抜いてしまう場合があります。この場合、安全な取り外しが行われていないのでコピー元が破損する場合があります。念の為、コピー元とコピー先のUSBメモリに対して検査と修復を行います。

※コピー先のUSBは、USBの延長ケーブルを使うと作業がやりやすく、間違いも軽減できます。



UsbManage／製品情報

.....
 著作者情報の登録／設定コピー／設定レポート

製品情報の登録

諸作者者／コンテンツ名／連絡先を登録します。

「起動時に製品情報を表示する」のチェックボックスをONにします。製品情報の表示は任意ですが、USBメモリのメーカーサポートを受ける際に必要な情報です。製品情報は必ず登録して下さい。

非保護領域の空き容量をゼロにする。

ウィルス感染やUSBメモリでのデータ持ち出しが懸念する場合は、非保護領域の空き容量をゼロにします。ファイルを追加するときは一時的にOFFにしてファイル追加を行い、もう一度ONに戻します。

「起動時に製品情報を表示する」にチェックを入れるとUsbStart実行時に表示されます。表示をしない場合でも製品情報の登録は行って下さい。



UsbStart

利用者がUSBメモリを利用するときに表示されます。



UsbManage／禁止設定

コピー禁止の設定



禁止設定

禁止事項のチェックボックスにチェックを入れると、その動作が禁止されます。

利用していたファイルを閉じてUSBを取り外すと禁止設定は解除されます。

必要最低限の禁止を推奨

禁止動作を不要に行うとパソコンが使いずらくなります。

USB利用中全ての操作に影響します。禁止は必要最低限を設定して下さい。

例えば、クリップボードを禁止すると全ての操作でコピー＆ペーストの操作ができなくなります。動画閲覧でクリップボードの禁止や印刷禁止は不要です。

●全ての印刷を禁止する・・・USBメモリ利用中は印刷を禁止します。USBメモリ以外のファイルの印刷も禁止されますのでご注意ください。動画など印刷禁止が不要な場合はOFFにします。PDFはPDFセキュリティーで印刷禁止を設定できますのでコンテンツ別に印刷禁止を設定して下さい。USBメモリの印刷禁止はコンテンツ単位で印刷禁止を制御できません。

●プリントスクリーンを禁止する・・・画面キャプチャー機能を停止にします。画面キャプチャーソフトも禁止した場合は、別名保存の禁止設定でImageを保存禁止にして下さい。

●コンテンツのファイルコピーを禁止する・・・USB→HDDなどのファイルコピーを禁止します。データコンテンツガードではHDD→USBは許可されています。禁止したい場合は書き込みを禁止します。

●クリップボードを禁止する・・・コピー＆ペースト操作をできない状態にします。

●削除・書き込みを禁止する全て・・・USBメモリへの書き込みを禁止します。

●ネットワークドライブを禁止する・・・USBを共有設定してコピーされる事を禁止します。常にONにしてください。OFFにするとネットワーク経由でのコピーが許可されます。

※本USBメモリはスタンドアロン用の製品です。ネットワーク公開するとネットワーク先のパソコンでのコピー防止には対応していません。フォルダ保護機能と併用するとネットワーク公開してコンテンツを守る事ができる場合があります。

●Adobe Acrobatのメニューをロックする・・・PDFコンテンツの場合はONにしてください。

●コピー許可フォルダ・・・ファイルコピーの禁止を行っている状態でも、指定フォルダのコピーは許可できます。初期値” Document” 配布したいコンテンツを保存します。この機能はOFFにできます。



UsbManage／許可ソフトウェア

許可したソフトウェア以外のアクセスを禁止します。

重要：この設定を行わないとUSB内のファイルを開く事ができません

データコンテンツガードでは、コピー行為を防止する為にUSBメモリへアクセスするソフトを事前に登録する必要があります。登録されていないソフトはUSB内にあるソフトを開く事ができません。USBメモリ内から実行するソフトは、許可ソフトに自動登録されています。登録が必要なソフトは、PCにセットアップされているソフトです。選択リストから選び [] ボタンで許可リストに移動します。一覧にない場合は、追加リストに実行形式ファイル（拡張子が.exeのファイル）を登録します。

この設定は左下にある[簡易設定]ボタンでも可能です。ファイル種類を選択すると自動で許可ソフトも設定されます。自動設定後に、左記画面で編集も出来ます。

■ポイント

- 許可ソフトウェア設定が必ず必要
- USBから実行するソフトは設定不要
- 簡易設定ボタンでも設定可能

USBメモリ内から実行するソフトは許可ソフトとして自動許可されます。登録の必要はありません。許可リストに登録するのは、USB以外から実行されるソフトウェアです。

追加リスト

選択リストにないソフトやオリジナルのソフトは、追加リストに設定します。実行形式(.exe)を登録して下さい。



- 製品リストのカテゴリ・・・コンテンツ種類を選んで選択リストに表示します。
- 選択リスト・・・予め登録してあるソフトウェアの一覧を表示します。
- 許可リスト・・・現在許可されているソフトウェア
- [>]・・・追加ボタン、選択リストを選択してクリックすると許可リストに追加されます。
- [<]・・・削除ボタン、許可リストを選択してクリックすると選択リストに戻ります。
- 追加リスト・・・選択リストにないソフトを登録します。拡張子.exeのみ登録できます。
- ホワイトリスト登録・・・許可ソフトが大量にある場合に設定します。(次ページ参照)

※許可ソフトに登録されていないソフトはUSBメモリ内のファイルにアクセスができないのでエラーになります。インストーラなどで実行形式プロセス名が不明な場合は、上位版のハイパーコンテンツガードをご利用下さい。※保障期間内（1年）であれば差額分+送料で商品交換を行えるサービスがあります。製品サポート support@abroad-sys.com にご相談下さい。



UsbManage／ホワイトリスト登録

許可ソフトウェアの拡張機能

ホワイトリストの登録

許可ソフトウェアの拡張登録。許可リストに登録できるソフト数は20程度です。沢山のソフトの登録が必要な場合はホワイトリスト登録に設定を行います。



ホワイトリスト登録

登録するのは、拡張子が.exeのみです。DLLや各スクリプトファイルは、本体の実行形式(.exe)からアクセスされるので登録は必要はありません。WhiteListの登録文字数制限は2000バイトです。先頭文字が半角のセミコロン; と半角//はコメント行と見なします。

この機能は特殊なソフトウェアの起動で関連プログラムが複数あり、どのソフトがUSBメモリへアクセスするのか不明な場合に設定します。

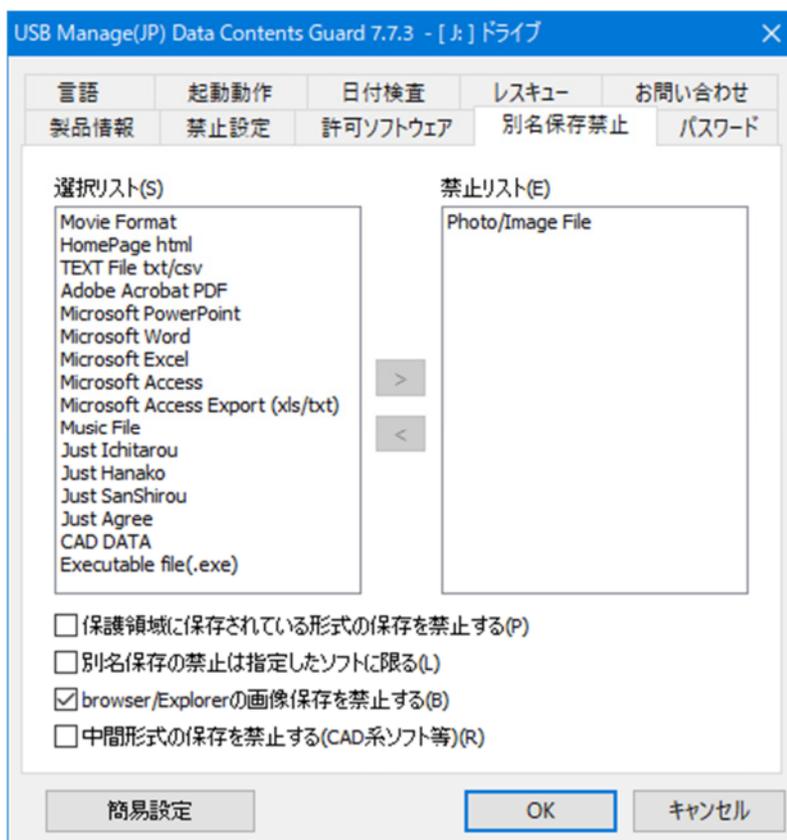
許可リストとしてユーザーソフトウェアなどのプロセス名称(.exe名称)を登録します。追加リストとの違いは、選択リストや追加リストはユーザーにアクセスできないUSBメモリの管理領域に保存されますのでフォーマットなどの影響を受けません。WhiteListで登録された許可プロセスは設定ファイルとして非保護領域内に保存されます。非表示ファイルで保存されていますので利用者からは見ることはできませんがフォーマットなどの操作を行うと削除される可能性があります。





UsbManage／別名保存禁止

各利用アプリにある別名保存でデスクトップ等への保存を禁止します。付属ソフトClickViewなどの閲覧専用で保存機能がないビューワーソフトは不要です。ファイル保存機能があるアプリ利用は設定して下さい。



この機能は指定された形式の保存を全面的に禁止します。

USBと関係のない利用中のアプリも影響があります。設定にはご注意ください。

設定ヒント

動画：“Movie Format”を設定すると、動画キャプチャソフトを使った画像抜き取りにも対応ができます。

PDF：すべてのソフトでPDFの保存が禁止されます。PDFは印刷メニューで生成できるのでこの機能は有効です。ただし、メール添付でPDFがある場合も保存ができませんのでエラーになります。USBを抜いてから再受信するようにご案内ください。

- 選択リスト・・・予め登録してあるファイル種類の一覧が表示されています。
- 禁止リスト・・・現在設定されているファイル形式のリストです
- [>]・・・追加ボタン、選択リストを選択してクリックすると禁止リストに追加されます。
- [<]・・・削除ボタン、禁止リストを選択してクリックすると選択リストに戻ります。
- 保護領域に保存されている形式の別名保存を禁止する

USBメモリに保存されている形式を認識するのはフォルダ表示が必要です。表示されていないフォルダにあるファイル形式は禁止になりません。禁止リストで指定する事を推奨します。

※他製品（ハイパーコンテンツガード、ハイパープラス）では指定フォルダにある形式を認識させる事ができます。データコンテンツガードはルートフォルダまたは表示されたフォルダのみ認識します。

- 別名保存の禁止は指定したソフトに限る・・・許可ソフトで個別設定した場合に選択できます。PDFは、許可ソフトにAdobeAcrobatを設定し、このチェックボックスをONにするとAdobeAcrobatのみPDF保存を禁止できます。

● Browser/Explorerの画像保存を禁止する（UsbManage7.5以降）

ブラウザの画像保存を禁止にします。禁止リストに“Photo/Image”を選択している場合に選択できます。画像の保存を禁止したい場合はチェックして下さい。ブラウザを利用しない場合は不要です。

● 中間形式の保存を禁止する（CAD系ソフト）

ご利用のソフトによって、データを保存するときに一旦中間形式のデータに保存して保存が成功すると名前を指定された名前に変更するソフトがあります。動作中に中間形式の保存を禁止するとファイルが開けない場合があります。主に大きなデータを保存するCAD系ソフトに見られます。



UsbManage／パスワード

管理パスワード／ユーザーパスワード 2つのパスワード設定

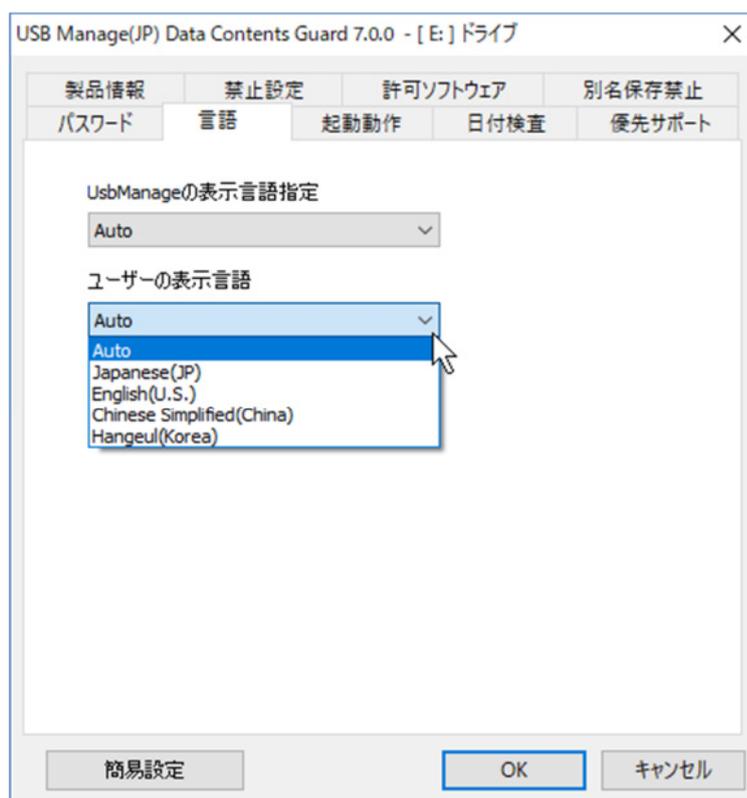
利用者がユーザーパスワードを設定する場合は、保護領域のTOOLフォルダにあるUsbPWを使います。
⇒P.47

- 英数混在・・・ユーザーパスワードを変更する場合、英語と数字混在を必須とします。パスワード文字数指定もできます。
- 不適合ロック回数・・・パスワードのミス回数を設定します。ミス回数を超えるとUSBがロックします。解除するには、回収してUsbManageでリセット操作が必要になります。
- パスワード・・・UsbStartを実行したときに表示するパスワードを設定します。**何も設定していない場合はユーザーパスワード画面は表示されません。ユーザーパスワードは管理パスワードでも許可されます。**
- パスワードヒント・・・ユーザーパスワードの画面でチップヘルプを表示できます。
- 管理パスワードの変更・・・管理パスワードを設定します。
管理パスワードは必ず“admin”以外に変更してください。
- 管理者メールアドレス・・・メールアドレスを事前に登録しておく与管理パスワードがわからなくなった場合にお知らせする機能があります。Lost Password機能
Lost Password機能を使うには事前登録されているメールアドレスの入力が必要です。
[複数メールアドレスの登録](#)
メールアドレスは半角で入力します。複数メールを登録する場合は半角カンマで区切ります。スペースや全角文字などメールアドレスで利用できない文字が入っているとエラーになります。



UsbManage／言語

日本語／英語／韓国語／中国語の切り替え



エラーメッセージなどの表示言語設定

管理ソフトとユーザー表示の言語を別々に設定できます。

通常は” Auto” を選択してください。言語によってサポートが困難になる場合は個別の言語を設定するとメッセージが統一できます。

言語設定はユーザー言語とUsbManageの動作が違いますのでご注意ください。

UsbManageの言語設定

指定した言語で強制的に表示します。例えば、日本語を選択した場合、中国語Windowsを使っている場合でも強制的に日本語で表示します。Autoの場合は適切な言語を自動判別します。未対応言語は英語で表示されます。

ユーザーの言語表示

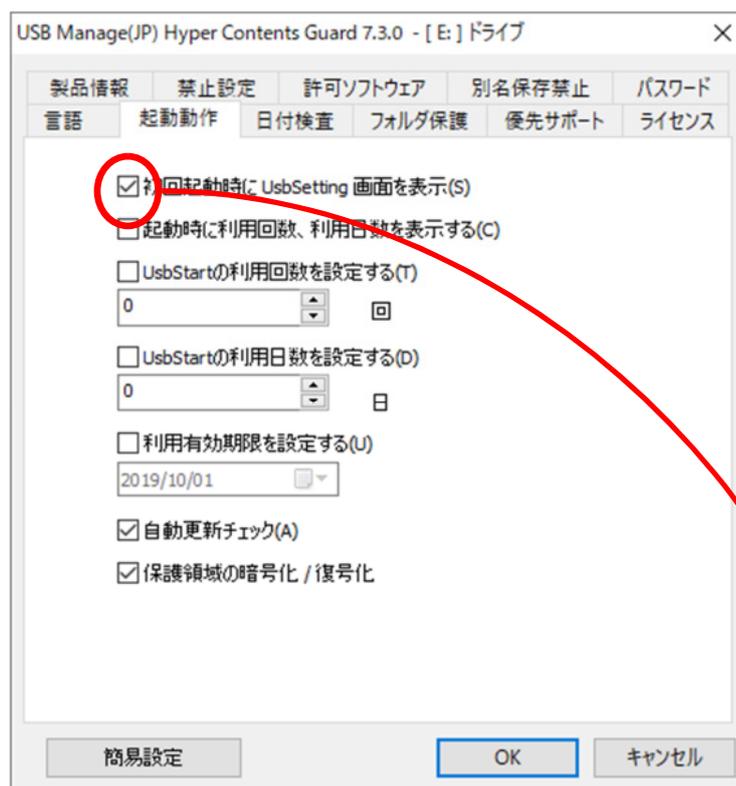
Autoの場合はユーザーメッセージを適切な言語で自動判別します。未対応言語は英語で表示します。国によってメッセージが異なるとサポートなどで面倒です。この場合は指定言語を設定してください。

表示言語を指定すると利用するWindowsの言語が一致している場合に指定言語で表示します。不一致の場合は全て英語表記になります。例えば、ユーザー言語に日本語が設定されている場合、日本語Windowsのみエラーメッセージなどを日本語で表示しますが、未サポート言語を含め韓国語や中国語Windowsを利用すると全て英語が表示されます。日本語Windowsをはじめ全て英語表示が良い場合はEnglishを選択します。



UsbManage／起動設定

UsbStartの初期動作／利用回数の制限



起動動作では、UsbStartの開始時の動作を設定します。

UsbSetting画面の表示、利用回数、利用日数、自動更新チェックなどを行う事ができます。

日付のチェックは、パソコンの時計と比較されます。厳密な日付検査が必要な場合は「日付検査」タブで設定できます。

●初回起動時にUsbSetting画面を表示・・・UsbStartを実行したときに右記の画面を表示する。表示させない場合はチェックボックスのチェックを外します。ただし、パソコンにより制限アカウントの場合でUsbQuickStartのセットアップが必須の場合は、このスイッチに関わらず表示されます。

※Windowsのログイン時に制限アカウントで利用されているパソコンはUsbQuickStartのセットアップが必要です。セットアップされていない場合は、起動画面が必ず表示されます。



●起動時に利用回数、利用日数を表示する・・・利用制限を設定する場合に設定します。

●UsbStartの利用回数を指定する・・・利用回数制限を設定する場合は設定します。

●UsbStartの利用日数を指定する・・・利用日数を制限する場合は設定します。

●利用有効期限を設定する・・・固定日の利用期間を届けたい場合に設定します。

●自動更新チェック・・・USBメモリの自動更新機能をONにします。

新しいWindowsやWindowsUPDATEなどでUSBが利用できない場合に更新情報を配布します。

緊急性が少ない場合は自動更新データを配布していません。この場合は手動でバージョンアップを行います。

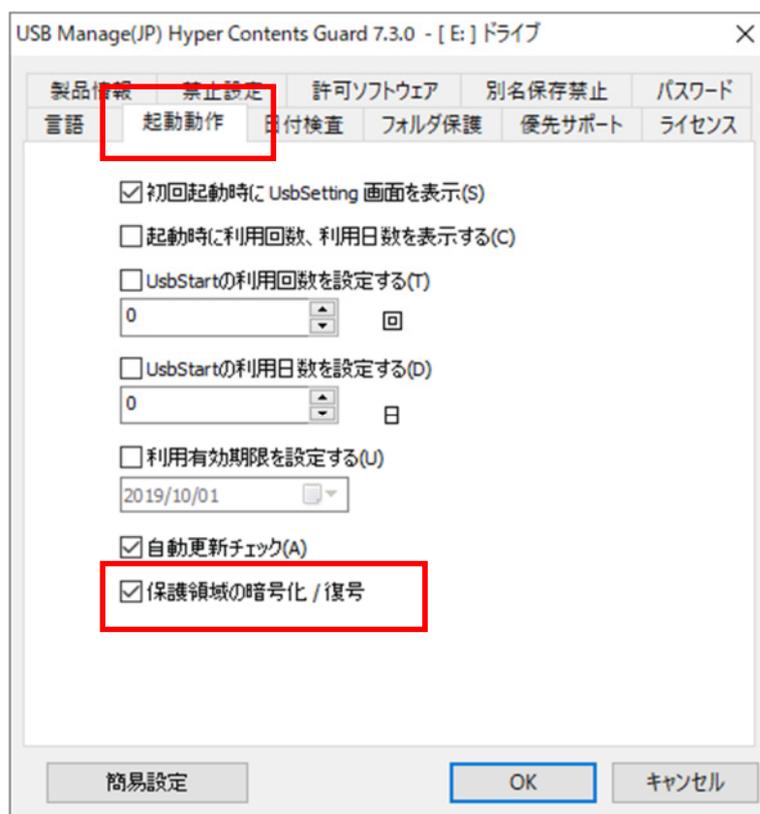
利用回数や日数の制限は副誤条件で設定ができます。

例えば、初回お試し期間は初回利用から30日間、最高10回まで ただし2025年を上限とするなどの設定ができます。



UsbManage／起動設定（暗号化）

.....
 コンテンツの暗号化（UsbManangeVer7.3以上が必要）



データファイルを暗号化する

コピーガードUSBメモリのVer7.3以降に搭載された機能です。

保護領域へデータ保存する時に暗号化してファイルを保存します。データを強制的に抜き出しを行う行為に対してセキュリティを強化できます。

復号（ふくごう）とは、暗号化されているデータを元のデータに復元する事。

48

保護領域の暗号化/復号

配布するコンテンツを暗号化する事でより保護レベルを高める事ができます。暗号化を有効化した後に、保護領域へファイルを保存すると暗号化されて保存されます。許可ソフトで指定されているソフトでは暗号化を解除したデータ（復号データ）が自動で受け渡されます。

暗号化のチェックボックスを変更した場合は、コンテンツの入れ直しが必要

ご注意：ファイルを保存した後で暗号化を変更するとファイルが正しく読み取れません。

暗号化ON→OFF

暗号化ONの状態、保護領域へファイルを保存した場合は自動で暗号化されます。暗号化をOFFにした場合、複合（暗号化解除）せずにファイルを読み込む為、エラーになります。

暗号化を解除した場合は、コンテンツを再度上書きしてください。ファイルを上書きする場合は、「禁止設定」タブのファイルコピー禁止と保存禁止を一時的に解除してください。

暗号化OFF→ON

既にファイルが保存されている状態で暗号化をONにした場合も自動で暗号化ファイルには変換がされません。暗号化OFFでファイルを保存した場合は、暗号化されないでファイルが保存されています。暗号化ONにすると暗号化されていないファイルを複合するのでエラーになります。



暗号化でエラーになるケース

暗号化が原因でエラーが表示される形式

初期出荷では暗号化がONで出荷されています。

保存したファイルが開けない場合は、以下の除隊になっているか確認します。以下のケースになっている場合は暗号化をOFFにして、再度ファイルを入れ直して下さい。

暗号化が原因でトラブルになる形式	補足説明
メモ帳(NotePad.exe)の利用 仮想アドレス領域を使っているソフト	USBの暗号化を行っている場合、テキストファイルをメモ帳(NotePad.exe)で開く事はできません。これは、メモ帳が仮想アドレス領域を使っているソフトによる為です。 ※一般的なエディタソフトは仮想アドレス領域は使われておりません。他のソフトを利用するかPDFやリッチテキスト(.rtf)など他の形式で保存して下さい。
既に暗号化されている形式 電子キーの情報 パスワードで保護されているファイル	既に暗号化されている形式は2重暗号化になってしまいデコードが失敗し開けなくなる場合があります。 例) 電子入札のキー情報、パスワード付のPDF、Excel、Word、PPTX (PPTS)等 パスワードで暗号化されて保存される形式
圧縮ファイル ZIP形式など	暗号化するとZIP形式などを解凍せずに、ZIP直接の開いて表示や実行する事ができません。 例) Pythonのライブラリ等
実行形式 EXE / .DLL / .OCX以外の実行形式	拡張子がEXE / .DLL / .OCX以外の実行形式 上記の形式はシステムで予約されており暗号化されません。上記以外の実行形式は暗号化すると動かなくなります。 ・テキストファイルで供給されるスクリプトなどは動作します。

上記のファイル形式などUSBの暗号化が原因でファイルが開けない場合は、暗号化をOFFの状態でご利用下さい。この場合は、管理ソフトUsbManangeの「起動動作」タブの“保護領域の暗号化/復号”のチェックボックスを外して、暗号化を解除してファイルを入れ直して下さい。

●元ファイルがない場合の暗号化解除

管理ソフトの暗号化をOFFにしても既に保存されているファイルの暗号化は解除されません。暗号化OFFの状態、もう一度ファイルを上書き保存して下さい。

上書きする元ファイルが無い場合は、暗号化ONの状態のコピー禁止を解除して、ハードディスクにコピーして暗号化解除所状態のファイルを取り出して下さい。暗号化ONの場合、ファイルを開いたり、ファイルをハードディスクに戻した時に復号化（暗号解除、デコード）されます。

暗号化ONの状態ファイルを取り出すと暗号化は解除されています。この状態で一旦取り出したファイルに戻します。



UsbManage / 日付検査

利用制限を設けた場合

日付の厳密検査を行う事ができます。

日付の検査はパソコンの内臓タイマーで行っています。

日付検査設定を行う事で、インターネット上の日付検査を行い厳密にチェックできます。

50

- インターネットを使った厳密な日付検査を行う・・・NTPという仕組みで日付の厳密検査を行います。
(NTP:Network Time Protocol)
通常はパソコンの内臓タイマーでチェックを行います。日付を変更された場合は、日付チェックを回避する事ができます。
- NTP Server 1、2・・・日付検査を行うインターネット上のNTP Serverを指定します。
通常は変更不要です。外国での利用の場合は、その国で公開されているNTPServerを指定した方が反応が早い場合があります。
- NTP検査を必須とする・・・インターネット環境が利用できないケースが予想される場合はOFFにしてください。ONにするとNTP Serverに接続できない場合はコンテンツが利用できません。
日付制限を設けて且つインターネット接続が必須のコンテンツの場合はONにします。
- テスト・・・NTP Serverの接続テストを行います。



UsbManage／優先問合せ

USB Manage(JP) Data Contents Guard 7.0.0 - [E:] ドライブ

製品情報	禁止設定	許可ソフトウェア	別名保存禁止
パスワード	言語	起動動作	日付検査
			優先サポート

お名前 your name

宛先のメールアドレス support@abroad-sys.com

返信先のメールアドレス your E-Mail osaka@abroad-sys.com

添付ファイルリスト

CCのメールアドレス

質問のカテゴリ (100),エラー対応

質問内容 *同時にUSBの設定内容も送信されます

お問合せ機能

USBの製品サポートへ質問する場合はこのお問合せ機能をご利用下さい。この画面から問い合わせを行うと、管理者からのご質問という事で優先的に応答されます。

※ご利用製品名「データコンテンツガード」とバージョン情報「Ver7」をお知らせください。

※電話サポートは行っておりません。

- お名前・・・お客様の会社名、お名前などを入力します。
- 返信先のメールアドレス・・・お客様のメールアドレスを入力してください。
※できるだけパソコンやタブレットのメールアドレスをご記入下さい。スマートフォンのメールアドレスはお避け下さい。
- CCのメールアドレス・・・質問の内容を他にも送りたい場合はメールアドレスを入力します。
- 質問のカテゴリ・・・任意設定 該当の質問がわかれば設定してください。設定された方が応答が早くなります。
- 添付ファイルリスト・・・画面の写真など添付ファイルなどがある場合は添付してください。
※別に送信されたい場合は、お名前を記載の上 support@abroad-sys.comにお送りください。
- 質問内容・・・ご質問内容を詳しくご説明ください。

解答は平日の営業時間内にいただいたご質問はできるだけ当日に回答をしています。

営業時間 平日（土日祝日、年末年始を除く）10:00～18:00

営業時間を越えた場合は翌営業日に回答をしています。



UsbManage／レスキュー画面の表示

期限を設定したUSBで期限切れや利用回数制限を超えた場合はレスキュー画面が表示されます。レスキュー機能は、閲覧期限設定などで閲覧ができないパソコンでUSBメモリを使えるようにする機能です。ただし、根本的な制限を解除する仕組みではありません。解除するにはUSBメモリを回収して再設定を行って下さい。この機能はレスキューコードを設定したパソコンに対して、制限のチェックを行わないというもので暫定的に解除する機能です。レスキューコードはパソコン毎に発行が必要で他のパソコンでは解除されません。

レスキュー ×

閲覧有効期限を過ぎました。

マシーンコード
AX-06031

著作権者

コンテンツ名

連絡先

レスキューコード発行には次の3つが必要です。
1.同じ管理パスワードのUSBメモリ、2.管理ソフトUsbManage、3.上記に表示されているマシーンコード(AX-XXXXX)の情報

レスキューコード(R)

|

次へ 閉じる

- レスキュー画面が表示されるパターン
- ・設定されている閲覧期限が切れた場合
- ・設定されている利用回数が切れた場合
- ・強制コピーされたUSBメモリを使った場合
- ・一部のパソコンのUSB3.0ポートで誤判定される場合(ETRON社 EJ168)

EJ168(2014-2015)の部品を採用しているパソコンはUSB規格どおりに動作しない為、USBの基本情報取得ができません。“information error”が表示されます。

→次ページ参照

●レスキューコードの発行

レスキューコードはパソコンに表示されるAX-XXXXXのマシーンコードとUSBメモリに設定されている管理パスワードとの組み合わせで発行されます。つまり、レスキューコードを発行するのは同じ管理パスワードのUSBメモリがもう1本必要です。レスキューコードは数字9桁で発行されます。

発行された数字9桁の番号を伝え、レスキューコード欄に登録すると該当のパソコンは制限チェックが行われない状態になります。レスキューコードはパソコン単位(マシーンコード単位)に発行されるので他のパソコンでは利用できません。



UsbManage／レスキューキーの発行

閲覧期限設定など設定された条件で制限でエラーの場合、レスキュー画面が表示されます。
 エラーの表示されているパソコンで表示されているAXから始まるマシンコードを連絡していただき
 マシンコード欄に入力します。(AX-12345等)
 [作成]ボタンをクリックすると同じ管理パスワードのUSBメモリに対するレスキューコードを発行しま
 す。表示されている 9桁の数字を エラーが表示されている方へ連絡します。

- “レスキュー” タブは古い USBメモリバージョンでは表示されません。
- Information Errorの強制回避 2015-2016年頃に発売された特定のパソコンのUSB3.0の差込口を使った場合に、“information Error”が表示される事があります。該当パソコンで利用する場合USBの個人情報検査を停止する事ができます。USB2.0ポートでは発生しませんのでUSB2.0側をご利用下さい。Etron社製 USB部品EJ-168搭載マザーボードでAsrock社などのマザーボードで採用されている場合があります。 ※USBコントローラのファームウェア更新で動作エラーの改善は可能ですがUSB認識や速度が極端に遅くなります。

53

USB3.0で “information error” が表示されるケース
 USBメモリの全体を強制的にコピーされた場合、レスキュー画面が表示される事があります。この場合、“infomatio error” になります。これはUSBメモリの個体認証チェックで、オリジナルUSBではない（強制的にコピーされたUSBメモリの場合）と判断されエラーとして表示されます。

一部のパソコンでUSB3.0ポートでこのチェックで誤判定の場合があります。具体的にはWindowsデバイスマネージャーで確認できるUSBホストコントローラというUSBの制御部品があります。このUSBデバイスコントローラがEtron社 EJ-168(2014-2016年) の場合、誤判定されます。

このチップを採用しているパソコンはUSB3.0規格どおり作られておらず、USBの状態確認ができない為、誤判定されます。このチップを搭載されているパソコンの場合、多くはUSB2.0も搭載されていますのでUSB2.0側では正しく動作します。USB3.0とUSB2.0の見分け方は、多くの場合、USB接続口の色がUSB3.0が青、USB2.0は黒で判断ができます。 ※ただし、色は規格では無いので機種により違う場合があります。

付属ソフト その他の設定について



UsbPw／ユーザーパスワード変更



保護領域/TOOL/UsbPw.exe

ユーザーパスワード

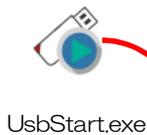
利用開始前にパスワード画面を表示する事ができます。ユーザーパスワードは管理パスワードと別に管理されています。

パスワード画面の表示

ユーザーパスワードを設定します。設定はUsbPwで利用者が設定するか事前にUsbManageで設定します。利用者にパスワード変更を許可しない場合はUsbPwを削除してください。

パスワード画面の非表示

ユーザーパスワードを消して登録してください。何も設定されていないとパスワード画面は表示されません。



UsbStart.exe

この画面は設定状況によっては表示されない場合もあります。

ユーザーパスワードが設定されている場合に表示

ユーザーパスワードを入力
(管理パスワードでも許可されます)

- ユーザーパスワードの設定はUsbPwで行う。
- ユーザーパスワードは管理ソフトでも設定・修正ができます。
- ユーザーパスワードを削除するとパスワード画面は表示されません。(初期値)
- UsbPwは保護領域内から実行して下さい。非保護では実行できません。
- UsbPwは保護領域/TOOLフォルダにあります。移動可能
- ユーザーパスワードを忘れてしまった場合、利用者が調べる方法はありません。

管理ソフトUsbManageのLostPassword機能で管理者へ設定内容をお知らせする事はできます。UsbManageで再設定も可能です。



UsbRemove/Usb安全な取り外し

USBを取り外す時の注意事項

USBメモリの取り外しは操作が必要です。
右下に「安全に取り外せます」のメッセージを確認してからUSBを取り外して下さい。

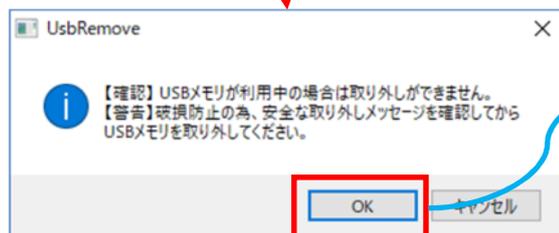
USBメモリにアクセスしていると取り外しができません。利用していた場合は利用しているソフトを終了させてファイルを閉じて下さい。
この状態でUsb安全な取り外し.exe又はUsbRemoveを実行します。

UsbRemove

UsbRemoveとUsb安全な取り外し.exeは名前が違いますが同じソフトウェアです。複数の場所に保存されています。
※Usb安全な取り外し.exeは日本語Windows以外では文字化けをしてしまうので正式名のUsbRemoveで保存されています。



非保護領域/setup/UsbRemove.exe
保護領域/TOOL/UsbRemove.exe
保護領域ルート/UsbRemove.exe (非表示)



右下に「安全に取り外せます」のメッセージを確認してからUSBメモリを抜いてください。

56

画面が消えていても取り外せないケース

利用していたソフトの画面が消えた状態でも しばらくの間書き込み処理が終わっていないケースがあります。この場合は、USBメモリを利用している旨のエラーが表示されます。少しまってもう一度Usb安全な取り外し操作を行って下さい。

強制取り外し

エラーがどうしても消えない場合は、パソコンをシャットダウンして電源の切れている状態でUSBメモリを取り外すか、Windowsの標準機能で操作を行って下さい。
USBを選択して右クリック→「取り外し」→エラー表示→「続行」ボタンをクリックする。

イメージバックアップの実行

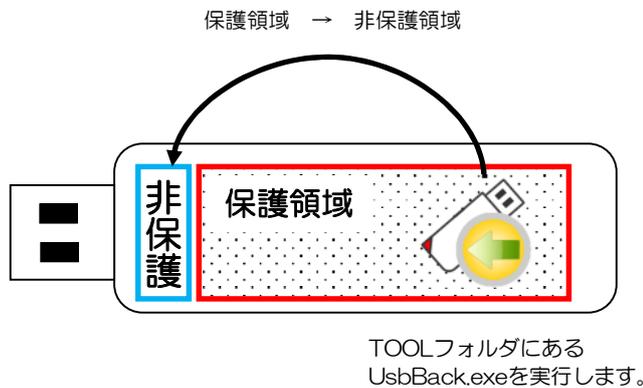
書きこみ中にUSBを取り外すとタイミングによりUSBのインデックス部分が不完全になり全ての保存データがアクセスできない状態になります。復帰方法はイメージバックアップの復元処理しかありません。書き込みが必要なコンテンツの場合は特に注意が必要です。
利用開始前には必ず1度はイメージバックアップを実行して下さい。



UsbBack/非保護領域の切り替え

設定を行うときは非保護領域を表示する

管理ソフトUsbManagerは、保護領域を表示していると設定ができません。設定を行う場合は、TOOLフォルダにあるUsbBackを実行して非保護領域を表示します。UsbBackが見つからない場合は、“USB安全な取り外し”を実行してUSBを取り出します。再挿入すると非保護領域になります。「しばらくお待ちください」の表示がされる場合は「キャンセル」してください。



TOOLフォルダの削除

UsbBackは設定を行う場合に保護領域と非保護を切り替えるので便利ですが、設定後は利用者ではそれほど使いません。

この場合はTOOLフォルダやUsbBackを削除してもかまいません。

UsbBackは手作業で行うか、保護領域のルートに同じものが非表示で保存されています。パソコンの設定を変更（⇒P.58 **非表示フォルダの表示**）してから非表示のUsbBackを利用する方法もあります。

UsbBackと手作業の操作

UsbBackは、USBメモリを取り外して再挿入する動作ソフト的に進んでいます。手作業で抜き差しをしても非保護領域を表示する事ができます。

UsbQuickStartのアンインストール

自動起動のUsbQuickStartがセットアップされている場合は、USBが挿入されると自動でUsbStartが実行され「しばらくお待ちください」の表示になります。

「キャンセル」ボタンで中止をしてからsetupフォルダにあるUsbQuickStartを実行してアンインストールをしてください。既にUsbQuickStartがセットアップされているパソコンで実行するとアンインストールモードになります。⇒P.51



AutoStart.exe



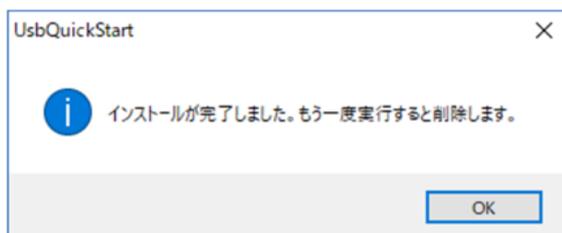
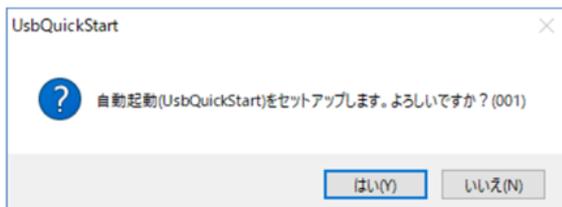


UsbQuickStartのセットアップ

非保護領域/setup/UsbQuickStart.exe

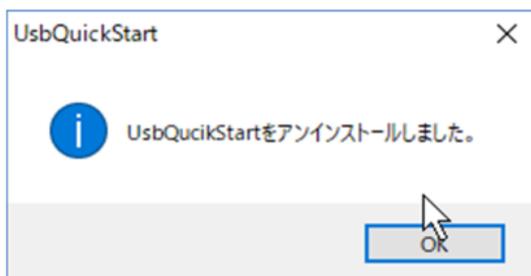
UsbQuickStartのセットアップ

setupフォルダ内のUsbQuickStartを実行するか、UsbSettingのメニューから実行します。(⇒P.24)



アンインストール

既にUsbQuickStartがセットアップされているパソコンでもう一度、UsbQuickStartを実行するとアンインストールします。



UsbStartの自動起動

USBを挿入するとすぐに保護領域（コンテンツ側）を表示させたい場合は、UsbQuickStartをセットアップします。

コンテンツの自動実行

AutoStart(⇒P.50)に自動的に開きたいファイルやソフトを設定すると自動で開くことができます。

制限アカウント（標準ユーザー）での利用

大きな会社や大学などでは、Windowsのログインに制限を設けて運営されている場合があります。この場合、管理者に許可されていないソフトの実行ができません。このような環境で本USBメモリを利用する場合は、制限のないパソコンでご利用になるか事前に情報システム部門に、UsbQuickStartの設定をお願いして下さい。UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでは制限アカウントでも本USBメモリを利用する事ができます。制限のあるパソコンでUsbQuickStartを設定するには、管理者権でログインして設定を行うか設定時にパスワードの入力が必要が必要です。

UsbQuickStartのネットワーク一括設定/Nオプションを付けて実行すると応答画面を表示しません。この場合はUSBメモリ以外でも実行できます。

UsbQuickStart.exe /N



UsbQuickStartの自動実行キャンセル

管理祖ソフトUsbManageで設定変更を行う場合は、UsbQuickStartがセットアップされていないパソコンで行うかUsbQuickStartのアンインストールが必要です。

UsbQuickStartをキャンセルする操作はいくつか用意されています。
UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでは管理ソフトUsbManageが起動しませんので、管理者パソコンにUsbQuickStartがセットアップされている場合は、アンインストールをしてください。UsbQuickStartのセットアップ/アンインストールは何度も行う事ができます。運用によっては、設定変更時にUsbQuickStartのアンインストールを行い、普段はUsbQuickStartのセットアップをしている状態での運用もできます。

シフトキーを押しながらUSBメモリを挿入

UsbQuickStartをセットアップしているパソコンでは、USBが挿入されるとすぐにUsbStartが実行されます。設定変更や非保護側にある説明書を参照するときには、自動実行を一時的にキャンセルしたい場合があります。この場合は「しばらくお待ちください」の表示中にキャンセルボタンをクリックします。また、USBメモリを挿入するときにシフトキーが押されていると自動実行は一時的にキャンセルされます。

「しばらくお待ちください」で「キャンセル」ボタンをクリック

UsbStartが起動すると「しばらくお待ちください」のウィンドウが表示されます。このときに「キャンセル」ボタンをクリックすると「終了しますか？」が表示されます。「はい」を選択すると 非保護領域を表示します。



ユーザーパスワード画面でキャンセル

ユーザーパスワードが設定されている場合は、パスワード画面が表示されます。正しいパスワードが入力されるまでは、非保護領域を表示していますのでユーザーパスワード画面をキャンセルすると非保護領域を表示する事ができます。

UsbQuickStartのアンインストール

UsbQuickStartが入っているパソコンでは自動で保護領域を表示してしまうので設定変更ができません。TOOLフォルダのUsbBackで非保護領域を表示するか、UsbQuickStatを一時的にキャンセルして非保護領域にあるsetupファイルだを表示します。

UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでもう一度、UsbQuickStartを実行するとアンインストールされます。(⇒P.51)

付属ソフトについて

付属ツール一覧

データコンテンツガードには、幾つかのソフトが付属しています。設定に必要なソフトや配布コンテンツで利用者で使うソフトがあります。削除できないソフトはUsbStartのみになります。コンテンツ配布の際に付属されると便利なソフトもありますが、付属させる場合は説明が必要になると思いますので、付属の有無は任意です。UsbManageは管理ソフトですが、社内配布コンテンツでは付属させる場合もありますが、通常は設定後に削除します。

保存場所	名前	説明	削除可否
非保護領域	UsbStart.exe	保護領域を表示するソフト 非保護領域→保護領域へ切り替えるソフトです。	×
非保護領域/setup	UsbQuickStart.exe	USBメモリが挿入されると自動的にUsbStartを実行する。 制限アカウントログインでの利用 セットアップされている状態で実行するとアンインストールします。	△
デスクトップ等	UsbManage.exe	各種制限設定を行う管理者ツール http://www.abroad-sys.com/USB/V7/UsbManage.zip	○
保護領域	AutoStart.exe	保護領域側のコンテンツを自動的に開くソフト UsbQuickStartがセットアップされていると実行される。Shiftキーを押しながら実行すると設定モードになります。	○
保護領域	Usb安全な取り外し.exe	UsbRemoveを日本語名に変更したもの	○
保護領域/TOOL 非保護領域/setup	UsbRemove.exe	WindowsのUSB安全な取り外し機能呼び出すソフトです。 Usbメモリを取り外す場合に実行します。Windowsの標準操作(右クリック→取り外し)で代行できますので削除してもかまいません。	○
保護領域/TOOL	UsbBack.exe	保護領域から非保護領域へ切り替えるソフトです。設定を行う場合は、非保護領域の状態を設定する必要がありますのでUsbBackで非保護領域へ戻る必要があります。	○

○：削除可 ×：削除不可 △：削除しない事を推奨

付属ソフトについて

保存場所	名前	説明	削除
保護領域	ClickView.exe Ver7.3以降付属	コンテンツビューワーソフト パソコン環境にかかわらずコンテンツを表示可能 P.105	○
保護領域	UsbReset.exe Ver7.3以降付属	初期出荷ファイルの復元 簡易バックアップ/復元機能。利用者がバックアップを行っていない場合に有効 P.118	○

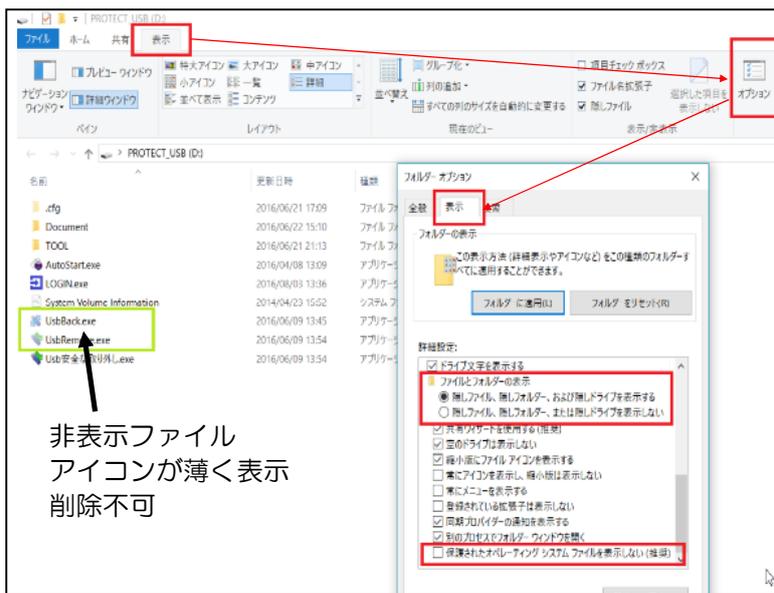
ご利用にあたっての注意事項

- 本製品はフォーマットの必要はありません。フォーマットを行うと動作に必要な管理情報が削除されますので注意が必要です。詳しくは「保護領域のフォーマット」についての解説をご参照ください。
- 本製品を電源のついているパソコンから取り外す場合は「USBの安全な取り外し」操作を行ってください。
正しい手順で取り外されない場合はファイルの破損や次回のアクセスができなくなる可能性があります。
本製品をはじめてパソコンに挿入した場合、Windows標準の大容量ディスクドライバがセットされる為、10秒程度時間がかかる場合があります。しばらくお待ち下さい。(この動作はWindowsバージョンによってセットアップ時間が変わります。新しいWindowsバージョンほど待ち時間が短くなります。1)ドライバセットアップは初回のみ動作です。2回目以降はこの動作はありません。
ドライバセットアップ中に取り外すと認識ができなくなります。
- パソコン側のドライバセットアップはUSBメモリの個体単位で行われます。同じ種類のUSBメモリでも個体が違う場合は毎回ドライバセットアップが行われます。
- 本製品の保証はハードウェア部分のみになります。製品の不具合により消失・破損したデータや間接する費用に関しては、当社は一切の責任を負いかねます。
- 本製品を湿気や埃の多いところで長時間使用しないでください。
- お手入れの際には乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。
- 本製品にはデータの保持期間と書き換え回数に寿命があります。
- パソコン側のUSB接続口が緩い、または硬い場合があります。無理にUSBメモリを挿入すると接続不良や抜けなくなる場合があります。そのような場合は他のUSB接続ポートを使用して下さい。
- USB延長ケーブルやUSBハブを経由して接続する場合は発熱する場合があります。この場合、発熱する機器のご利用は中止して下さい。
- 本製品の部品や仕様は予告なく変更される事があります。
- 静電気などの影響で内部電気回路がショートする可能性があります。冬場の乾燥時期などで大量にUSBメモリを取り扱う場合は、イオナイザー(静電気除去装置)の利用や湿度などに注意して静電気対策を行って下さい。
- 本製品は耐水製品ではありません。水濡れした場合は完全乾燥を確認してからご利用下さい。濡れたままの状態でご利用された場合は破損します。
- USBメモリとパソコンを接続する場合は、パソコン側のホストコントローラーと通信が行われます。エトロン社製の一部のUSB3.0ホストコントローラードライバでは動作しない場合があります。
- 本製品はUSB2.0規格です。上位規格であるUSB3.0でも規格上はご利用可能ですが全てのUSB3.0で互換性が100%補償されている訳ではありません。USB2.0規格がある場合は、USB2.0側でご利用下さい。
判別方法はUSB2.0は端子の内部が黒または白ですがUSB3.0は青になっています。ノートパソコンの機能で電源OFF時にスマートフォンの充電供給ができるなど特殊な機能がある場合はUSB3.0でも動作しない事があります。



非表示フォルダを表示する

エクスプローラーの表示オプション変更



エクスプローラ表示オプションの変更
以下の2か所を変更すると表示フォルダ
や非表示ファイルが見えるようにな
ります。

- オプション→表示オプションタブ
- ①「隠しフォルダ、隠しファイル、および隠しドライブを表示する」にチェックを入れる。
 - ②一番最後の項目「保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない（推奨）」のチェックを外す。

■上記に加え管理ソフトの「フォルダ保護」機能が設定されていると“.cfg”フォルダは表示されていません。上記の設定を行い更に、管理ソフトのフォルダ保護設定→「ピリオドから始まるフォルダを表示しない」のチェックを外します。

非保護領域

システムに必要なフォルダとファイル。

- “.cfg”フォルダ(ドットcfgフォルダ)・・・非保護側メッセージファイル
- SETUPフォルダ・・・ 付属ソフト
- UsbStart.exe ・・・ USBシステム本体

保護領域

システムに必要なフォルダとファイル

- “.cfg”フォルダ(ドットcfgフォルダ)・・・保護側メッセージファイル
- UsbBack.exe・・・保護→非保護切り替え
- UsbRemove.exe・・・Usb安全な取り外し

※ドットc f gフォルダは保護側/非保護側同じ名前ですが内容が異なります。

※UsbBack/UsbRemoveはTOOLフォルダと同じものを非表示で保護側ルートに入れてあります。先頭のルートフォルダにある非表示のUsbRemoveはUsbBackupなどUSB付属ソフトで利用されますので削除しないようにして下さい。

輸出書類について

非該当証明書（輸出書類）

鍵長512bit以上の暗号化製品など軍事転用可能な高度な情報化技術の製品を海外に輸出する場合、政府の許可が必要な場合があります。本製品は暗号化をっておらずアクセスコントロールでコピーガードを行っており規制対象の製品ではありません。

輸出する場合、輸出規制の対象ではない事を証明する為に税関または国際貨物取扱業者（フォワーダー）に「非該当証明書」の提出を求められる場合があります。

※データコンテンツガードは、お客様でコンテンツを保存するメディア（入れ物）です。保存するコンテンツが一般流通される市販のコンテンツや通常のデータ形式であれば問題ありませんが高度な暗号化を行うソフトウェアや軍事転用可能な規制対象の設計図を保存して輸出する場合は「該非判定書」（パラメタシートや項目別対比表）に基づき確認や申請が必要という事になっています。

※自己使用での海外輸出は規制対象外です。

※規制内容につきましては産業経済省や安全保障貿易情報センター（CISTEC）シートックにご確認下さい。

※データコンテンツガードを輸出する場合は以下の「非該当証明書」をご利用下さい。

http://www.abroad-sys.com/USB/HC7_Export_document.pdf

http://www.abroad-sys.com/USB/HC7_Export_document.doc

輸出入の際に必要な国際的な分類番号(HSコード)

HSコード:8523.51.000 不揮発性半導体記憶装置

USBメモリバージョンと対応Windows

■USBメモリのバージョンと対応Windows

Ver7.6	利用者選択で言語表示を任意切替（外国利用）、ExeMaker追加（ClickView拡張機能）
Ver7.5	半角カナファイルまたは一度に大量なファイルを追加した場合のキャッシュオーバーフロー対策、別名保存の禁止機能に“ブラウザでの画像保存対策”を追加、Windows11対応
Ver7.4	Windows10 2004(20H1)/20H2対応/レスキュー画面追加(7.4.4)
Ver7.3	7/8/8.1/10 暗号化処理の追加/ClickView/UsbReset追加
Ver7.2	XP/Vista/7/8/8.1/10 Win10（32）/Excel履歴コピーに対応
Ver7.1	XP/Vista/7/8/8.1/10 ライセンス機能追加(Hyper製品のみ)
Ver7.0	XP/Vista/7/8/8.1/10 バックアップ機能追加、アイコン変更、他
Ver6.9	Ver6製品 Windows10 2004/20H2対応（2020/6公開）保守対応バージョン
Ver6.8	旧バージョン出荷版/非保護領域15Mに拡張(Ver7と同じ)
Ver6.7	XP/Vista/7/8/8.1/10 安全な取り外し処理改善
Ver6.5	XP/Vista/7/8/8.1/10 設定コピー機能追加
Ver6.4	XP/Vista/7/8/8.1/10 Windows10 Anniversary Update対応
Ver6.2	XP/Vista/7/8/8.1/10 Ver1511対応
Ver6.0/6.1	XP/Vista/7/8/8.1/10
Ver5	XP/Vista/7/8/8.1
Ver4.5	XP/Vista/7/8
Ver4	XP/Vista/7

■新しいWindows10のバージョン 2020/6、Windows11

Windows10 Version2004(20H1)/20H2/21H1以降はWindowsの仕様変更になりVer6.9又はVer7.4未満は無応答になりご利用できません。この場合はオンライン更新又は、手動でバージョンアップを行って下さい。
https://www.abroad-sys.com/USB/2004/10_20H2.html

■最新バージョンへの更新

Ver7は自動更新機能や更新ソフトを使ったバージョンアップは可能です。全てのUSBメモリはVer7.6への更新を推奨しています。自動更新はOS対応など大きな更新のみ配布されます。Ver4～5、Ver6.0～6.4のUSBメモリをVer7以降へ更新する場合、初期化作業が必要になりお客様側でのバージョンアップができません。修理扱いの有料のバージョンアップ対応になります。

Ver6.0～6.4は2021年6月以降の新しいWindows10を使うためのVer6.9に更新は可能です。Ver6.9は2020年に公開された新しいWindows10に対応させる更新用の配布バージョンですがWindows11には未対応です。全てのUSBメモリは修理対応で最新バージョンにする事ができます。詳しくは support@abroad-sys.comにご相談下さい。

■WindowsXP/Vista/7

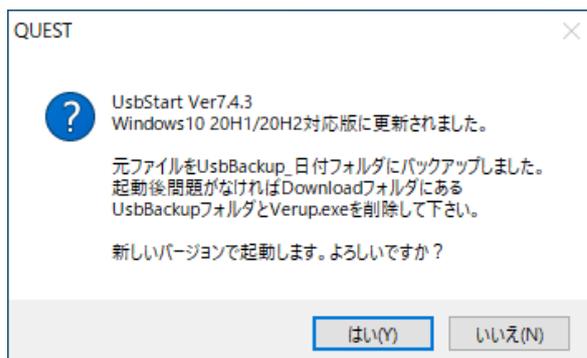
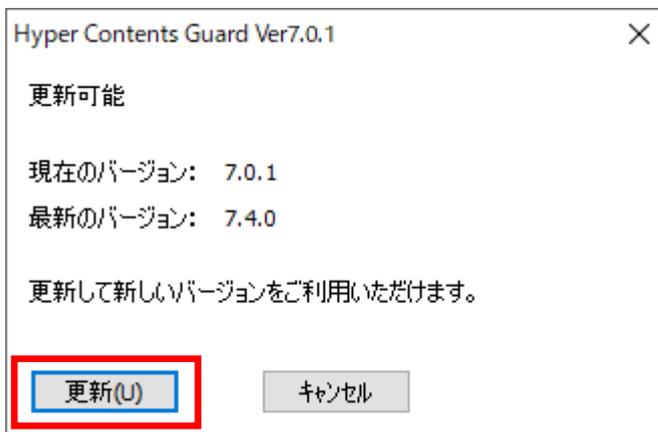
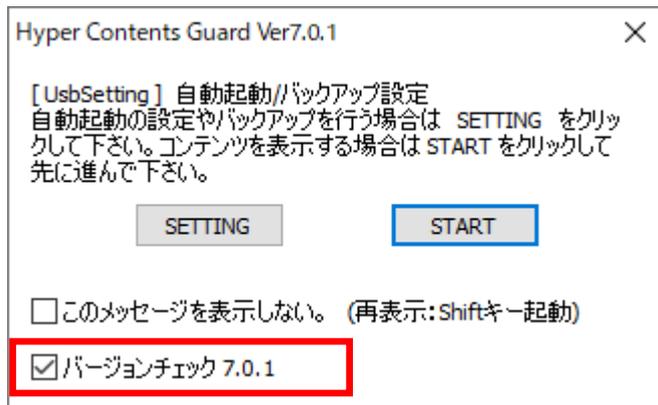
マイクロソフト社のサポートが停止されているOSは、USBメモリのサポートができません。OSのサポート停止に伴いウィルスセキュリティソフトのサポートが停止され、これに関連したトラブル改定が行われませんのでWindows10以降のWindowsをご利用下さい。これに伴いUSBメモリのバージョンアップを行いWindows11対応版のVer7.5以降へバージョンアップを行って下さい。

USBメモリのバージョンアップ(DC)

オンラインで更新する方法

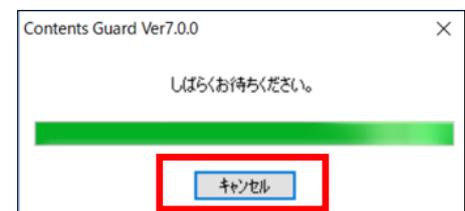


UsbStart



●この画面が表示されない場合

- ①シフトキーを押しながらUsbStart.exeをダブルクリックで起動します。
- ②自動起動のUsbQuickStartをセットアップしたパソコンでは表示されない場合があります。この場合は「しばらくお待ちください」のウィンドウ画面が消える前に[キャンセル]ボタンをクリックして中断します。



キャンセルができましたらUSBメモリを開いてUsbStartをダブルクリックして下さい。

この画面はUSB管理者の設定や利用者の操作により非表示になっている事があります。この場合は上記①又は②の方法で表示します。

67

Windows10のバージョンがVer2004/20H2以降の場合、Ver7.4未満のUSBメモリのバージョンでは動作しません。

詳しくは下記URLでも解説しています。

https://www.abroad-sys.com/USB/2004/10_20H2.html

●手動でのバージョンアップ

オンライン更新は便利ですが企業や大学などのパソコンのセキュリティが厳格な場合、ソフトウェアの自動ダウンロードが禁止されている場合があります。この場合は、社内ネットワークに接続されていない一般的なセキュリティ環境で実行するか、手動で更新ソフトをダウンロードしてバージョンアップする方法があります。次ページ参照

USBメモリのバージョンアップ (DC)

バージョンアップソフトをダウンロードして更新する方法

●バージョンアップソフトを使った方法

①更新対応製品の確認

お手物のUSBメモリの製品名が“Data Contents Guard”になっている事を確認します。

→USBメモリのマーキング/「しばらくお待ちください」のタイトル画面/管理ソフトUsbManangeのタイトル/製品パッケージ等を確認して下さい。

※更新ソフトはハイパーコンテンツガード専用です。違う製品の場合は、更新ができません。

②更新ソフトのダウンロード

https://www.abroad-sys.com/USB/DC_VerUP_V7.6.1.zip

このバージョンはVer 7.6.1です。年2~4回程度新しいバージョンが公開されています。最新の更新ソフトのURLは support@abroad-sys.com にご確認下さい。Windows10の場合、通常はダウンロードフォルダにダウンロードされます。

③更新ソフトVerUp.exeの実行

“DC_VerUP_V7.6.1.zip”をZIPファイル解凍します。解凍したフォルダに更新ソフト“VerUp.exe”がある事を確認して下さい。

■更新先USBドライブを探す

更新ソフトは、先にUSBメモリを挿入してからバージョンアップソフトVerUpを実行します。VerUpは実行されると直ぐにUSBメモリを検索してドライブ名を設定します。起動後にUSBメモリを挿入した場合は、更新先のUSBドライブが設定されていないので[再表示]ボタンをクリックして再構築を行います。

■バージョンダウン

バージョンアップソフトは、強制的に指定バージョンを上書きします。ダウングレードも可能です。

●沢山あるUSBメモリのバージョンアップ

複数のUSBメモリのバージョンアップを行う場合は、Verupを使うか管理ソフトUsbManageの設定コピー機能が便利です。どちらも連続実行ができるように設計されています。

違いはVerupは利用者が更新する事を前提とおり必要最低限のシステム書き換えを行います。

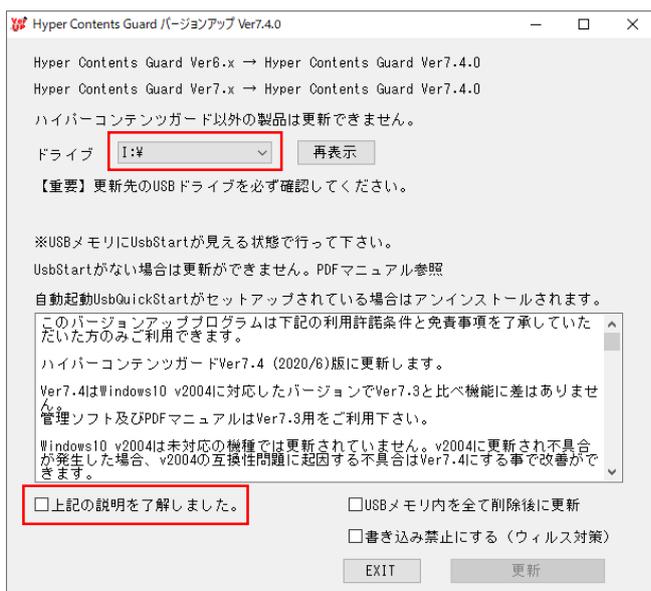
管理ソフトUsbManageの設定コピー機能は、マスタとなる元USBと同じバージョンにする機能です。

コピー元となるUSBメモリを更新してから、USBを2本差しの状態でコピーする機能です。システムファイル、フォルダ、設定情報を全てコピーします。この方法でもバージョンアップは可能です。

ただし、コンテンツファイル(保護領域側)にあるファイルはコピーされません。

設定コピー機能は“製品情報”タブにあります。

→P.39



指定がない限り“USBメモリ内を全て削除に更新”のチェックは入れないで下さい。setupフォルダやPDF等の説明書がある場合は削除されます。誤って削除指定した場合はVerupと同じ場所にバックアップがとられていますので復元して下さい。

トラブルの原因と対策

復旧方法について

FAQ（よくある質問と回答）

質問内容	原因と対応方法
データを保存する前にUSBメモリを抜いてしまった。	データコンテンツガードでは、データベースなどの上書き保存は許可することができます。データを保存する前にUSBメモリを取り外した場合は、保存する方法はありません。これらのミスが連続する場合は、Hyper SecurityまたはHyper Plusのご利用を推奨します。Hyper SecurityやHyper Plusにはレスキュー機能があり、Excelなどのデータに関しては“別名保存の禁止”を一時的に解除することができます。
ウイルスには感染しませんか？	※Windows-XP(SP2)以降のパソコンでは、USBを介しての自動感染対策はとられています。Windowsの機能やウイルスセキュリティソフトの導入で万が一混入があってもUSBメモリからは自動実行ができない仕組みになっています。コピーガードUSBメモリでは更に以下の追加対策があります。 1. 空き容量をゼロにしてウイルスの混入やデータ持ち出しができない対策 2. 保護領域側の書き込み禁止 3. 暴露ウイルスによるデータ抜き取り（許可ソフト以外のアクセス排除） 4. 遠隔操作によるデータ抜き出し（コマンドラインによるアクセス排除）
パスワードは必ず必要ですか？	ユーザーパスワードは任意設定で何も設定されていない場合はパスワード入力画面は表示されません。パスワードは必須ではありません。パスワードを設定していなくてもコピーガード設定は有効です。
ユーザーパスワードを入れても進まない	・全角半角、アルファベットは大文字小文字を確認して下さい。設定されているパスワードと完全一致が必要です。 ・ユーザーパスワード欄はユーザーパスワード以外に管理パスワードでも許可されます。ユーザーパスワードを忘れた場合は、管理者であれば管理ソフトを使い再設定可能です。
別名保存が禁止されない	別名保存の禁止設定がされていない ・「保護領域に入っているコンテンツの別名保存を禁止する」がOFFになっている ・別名保存禁止の登録リストに登録されていない ・ソフトウェアによっては別名保存機能が停止できない場合があります。
メールでエラーになる	別名保存の禁止をした場合で「別名保存を許可ソフトウェアに限定する」がOFFの場合、メールや他のソフトで保存ができません。この機能をONにすると許可プログラムだけ指定形式の保存を禁止します。USBメモリを抜いた後にメールの再受信を行って下さい。
特定のプログラムでファイルが開かない	実行を許可するプログラムに登録されていない。→UsbManage「許可ソフトウェアの登録」参照ソフトの起動時に作業用フォルダを使うソフトは別名保存の禁止機能が働き、中間ファイルなどの生成ができずにエラー表示される事があります。別名保存機能を一時的にOFFにして確認して下さい。
フォーマットを行いたい	フォーマットは不要です。希望する動作ができない場合は、設定に関する事が多くフォーマットとは無関係です。フォーマットは可能ですが注意がありますので製品サポートまでご相談下さい。
コピー&ペーストができない	UsbManageの保護設定で「クリップボードの禁止」がONになっている。クリップボードの禁止はWindowsのクリップボード機能を禁止していますので 全ての操作でコピー&ペーストが動きません 。制限はUSBメモリを取り外すと解除されます。
印刷ができない	印刷禁止を設定している場合は、USBメモリ内のコンテンツ以外でも印刷が禁止されます。許可ソフトウェア設定で登録リストに登録されている場合は、登録されたソフトの印刷が禁止されます。許可ソフトウェアを限定しない設定の場合は全ての印刷が禁止されます。

フォルダやファイルの文字化け

フォルダが“uuuuuu”などになってアクセスできない場合はフォルダ名やファイル名を管理しているインデックス領域が破損した状態です。この場合、以下の方法でフォーマット操作などをおこない復元して下さい。

フォルダ名破損の場合の原因と対応

USBメモリはFAT（File Allocation Table：ファイル・アロケーション・テーブル：ファット）というフォーマット形式で初期化されています。FATではデータ部とインデックス部があります。インデックスは本の目次にあたる情報が保存されています。このインデックスを書き込んでる最中にUSBメモリを取り外すと、インデックスが破損しフォルダやファイル名が文字化けする事があります。これらの破損が起らないようにUSBメモリの取り外しでは、Windowsの取り外し操作（USBメモリを選択して右クリック→「取り外し」の操作）や付属ソフトのUsbRemove（Usb安全な取り外し）などの利用を推奨しています。UsbRemoveは、WindowsのUSBメモリ取り外し機能を呼び出している便利ツールでWindowsの取り外しと同じ処理を行っています。

USBメモリ取り外しのポイント

USBメモリへのデータ書き込みでは、画面上で書き込みが終わったとしても、実際に書き込みが終了するまで1～2秒程度のタイムラグがあります。アクセスランプがあるモデルでは、アクセスランプが点灯していない事を確認してから取り外しを行って下さい。アクセスランプがないモデルでは、書き込みが終了して直ぐに取り外さず一呼吸おいて取り外しをお願いします。フォルダやファイルを破損した場合はフォーマットを行うと修復する事ができません。

非表示フォルダのバックアップ

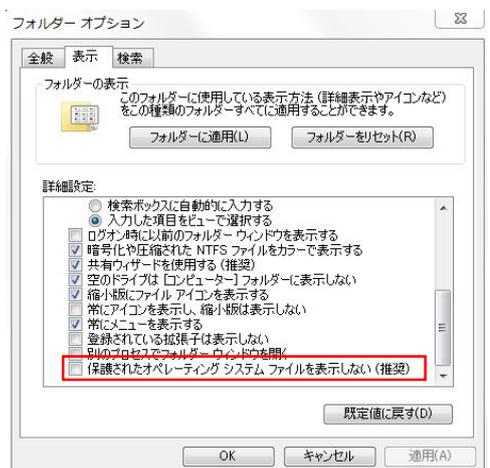
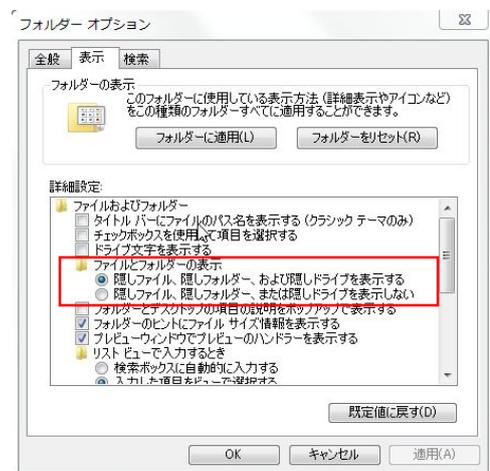
データコンテンツガードには、管理用の非表示フォルダ“.cfg”が保存されています。フォーマットを行うと、この“.cfg”フォルダが消えてしまいますので事前にバックアップをとります。複数のUSBメモリを設定している場合は同じバージョンのUSBメモリから取り出す事もできます。管理用の非表示フォルダや保存されているファイルは同じバージョンでは共通です。

非表示フォルダの表示方法

非保護領域、保護領域には管理用のフォルダ“.cfg”フォルダが保存されています。このフォルダには、エラーメッセージや動作に必要な情報が含まれています。通常は見えない状態になっていますので、パソコンの設定で非表示フォルダを見る様に設定変更して下さい。

<非表示フォルダを表示させる操作>

Windowsのファイル操作画面エクスプローラー)メニューより[ツール]→[フォルダオプション]→[表示]タブを選択し、詳細のチェックボックスやラジオボタンで以下の2つの項目の設定を変更します。
①「隠しフォルダ、隠しファイルを表示する」にチェックを入れる。



フォルダオプションを変更して非表示フォルダを表示する

保護領域のフォーマット

②「保護されたオペレーティングシステムを表示しない（推奨）」のチェックを外す。

上記2つの項目を設定すると非表示の“.cfg”フォルダを表示する事ができます。非表示フォルダは薄いアイコンで表示されます。

“.cfg”フォルダのバックアップ 注意事項

“.cfg”フォルダは保護領域と非保護領域に同じフォルダ名がありますが内容が違いますので注意して下さい。必ず、保護領域側の“.cfg”フォルダをコピーして下さい。保護領域はUSBメモリのボリューム名が“PROTECT_USB”になっています。この状態の“.cfg”フォルダをコピーします。前ページの操作で保護領域側の管理用フォルダの“.cfg”フォルダのバックアップコピーがとれましたらフォーマットを行います。

初期化作業（フォーマット）

フォーマットは、フォルダやファイル名の文字化けの現象のみの操作で行って下さい。それ以外の理由でのフォーマットは必要ありません。設定がうまくいかない、思うような動作をしない等の理由ではフォーマットは行わないでください。

Windowsでのフォーマットは論理フォーマットと呼ばれており完全に初期化できるものではありません。

この為、フォーマットを行ってもUsbManageで設定している情報には影響がありません。完全に初期化を行うには、物理フォーマット（ローレベルフォーマット）を行います。通常は不要な操作でWindowsの標準機能には付属していません。物理フォーマットを行うとお客様側での復元操作はできなくなります。

フォーマット手順

保護領域に切り替えてからフォーマットを行います。以下の順番で操作を行って下さい。

①保護機能の解除

UsbManageを使い禁止設定を全て解除します。

②UsbStartを実行して保護領域に切り替えます。

③USBメモリ（PROTECT_USB）を選択して右クリック→フォーマットを選択します。

クイックフォーマットのチェックを外して、設定値が右図のようになっているか確認して開始ボタンをクリックします。

④管理用フォルダの“.cfg”フォルダのバックアップを戻します。前ページでバックアップしてあった“.cfg”フォルダをコピーで戻せば作業は終了です。

フォーマット形式の選択

USBメモリはフォーマット形式は初期値はFAT32になります。データコンテンツガードVer4以降は、フォーマット形式に依存しませんので、他のフォーマット形式でも動作します。



アロケーション・ユニット・サイズ

通常は“セクタ長さ”と呼ばれている項目です。ファイルはセクタと呼ばれるブロック単位で管理されています。セクタ長さ4096でフォーマットした場合、100バイトデータでも1セクタ消費します。5000バイトのデータの場合は2セクタ消費されます。

小さなファイルが多い場合はセクタ長さを小さく設定します。動画など大きなファイルを保存する場合はセクタ長さを64Kなど大きな値を設定すると読み書きの速度も速く効率よく管理ができます。

クイックフォーマット

インデックス部分のみフォーマットを行います。フォーマット時間を短縮できますが、データ部分はフォーマットされません。FAT以外の違うフォーマットをする場合や不明な場合はチェックを外して下さい。

※フォーマット終了時にエラーが表示される場合があります。この場合でもフォーマットはされています。

フォーマットで使われる用語と意味

フォーマット形式について

USBメモリはフォーマット形式は初期値はFAT32になります。データコンテンツガードは、保護領域、非保護領域共に初期出荷状態ではFAT32フォーマットで出荷されています。データコンテンツガードVer4以降は、フォーマット形式に依存しませんので、他のフォーマット形式でも動作します。

FAT32（出荷時）

USBメモリの標準的なフォーマット形式。1ファイル4G以下という制限がありますのでハイビジョン動画などで1ファイルで4G以上のファイルを保存する場合は、exFATなどのフォーマットにする必要があります。推奨のアロケーションユニットサイズは4K(4096)バイトです。FAT32はXP以降のOSは全てサポートされています。

exFAT

大容量SDカード（SDXC）などに採用されているフォーマット形式。FAT32の容量制限を改善した新しいフォーマット形式です。USBメモリで1ファイル4G以上のファイルを保存する場合は、exFATでフォーマットを行います。exFATは初期値でアロケーションユニットサイズが32Kバイトになっていますので小さなファイルを保存する場合は非効率です。小さなファイルが多い場合はアロケーションユニットサイズを4K(4096)バイトにしてください。exFATはVista以降でサポートされています。XPで利用する場合はexFATドライバーのセットアップが必要です。

NTFS

主にHDDやSSDで利用されています。キャッシュが大きくアクセス速度も早いのですがUSBメモリでは、安全な取り外し操作を行わないと破損の可能性が高くなるので推奨していません。XP以降のOSは全てサポートされています。

フォーマットを行う場合の注意事項

フォーマットを行うとデータコンテンツガードの管理情報が消えてしまいますので事前に管理情報のバックアップが必要です。（前頁参照）UsbManageで設定した保護内容はフォーマットなどには影響しませんので管理パスワードなどは同じです。※初期化ツールなどを使ったローレベルフォーマットは行わないで下さい。ローレベルフォーマットを行った場合は、お客様側で復元処理はできません。

アロケーション・ユニット・サイズ

アロケーションユニットサイズとは、データを管理するブロックあたりのサイズです。USBメモリやHDDでは、ブロック（箱番号）で管理されています。フォーマットではブロック単位のサイズを指定します。初期値では1ブロックで4096バイト(4K)です。小さなテキストファイルで100文字程度のファイルでも記憶容量としては1ブロックの4K(4096)バイト分が消費されます。5000文字の場合は2ブロックの8Kが使われます。逆に映像データなど大きなデータを保存する場合は、64Kなどの大きなブロックの方が管理個数が減るので書き込み速度が速くなったり管理データ部も減るので効率的になります。

ハードディスクで表示されていた容量とUSBメモリへ保存したときに必要な容量に差がある場合があります。これは、フォーマット種類の違いやアロケーション・ユニット・サイズの違いによるものです。

USBメモリが急に認識しなくなった

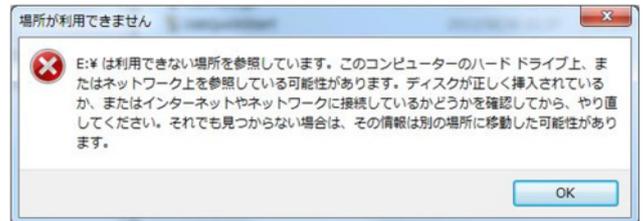
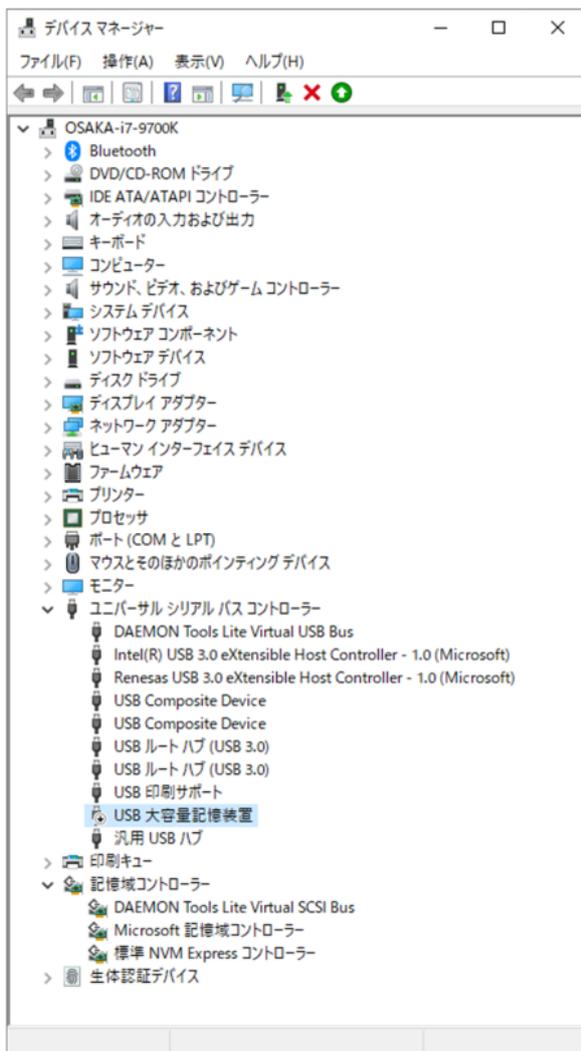
症状：USBを挿入したのに認識しない。UsbStartを実行してもコンテンツの入っている領域が表示されない。この場合は、デバイスマネージャーでUSBドライバーが正常動作しているか確認して下さい。停止されている場合は復帰操作を行います。

■デバイスマネージャー

WindowsにはUSBメモリなどの接続機器を管理するWindowsデバイスマネージャーがあります。USBの接続トラブルなどで一時的に停止されている場合があります。

ユニバーサル・シリアル・バスコントローラ

(=USBの事) 認識しないUSBを挿入した状態、又はUsbStartを実行してエラーが表示されている状態で確認して下さい。デバイスマネージャーのユニバーサルシリアルバスコ



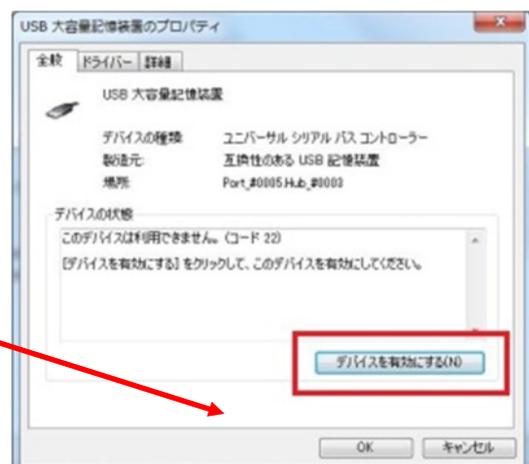
ントローラの項目を開きます。USB大容量記憶装置の行で下矢印のアイコン又は黄色の！アイコンがある場合は、正常に働いていません。場合によっては、USB大容量記憶装置の項目がなく “ ”

USBメモリの抜き差しを繰り返していると、タイミングによりWindowsのデバイスマネージャーで一時停止をされUSBメモリが認識されない場合があります。

この場合は、認識しないUSBメモリをパソコンに差し込んだ状態でデバイスマネージャーを確認します。黄色のアイコンが表示されている場合は、停止しています。この場合、黄色のアイコンを右クリック→プロパティ→「デバイスを有効にする」をクリックすると再開します。

■この現象の確認

- ①特定のパソコンのみUSBメモリを挿入しても何も反応しない。
- ②他のUSBメモリは正常に利用できる。
- ③該当のUSBメモリは他のパソコンでは利用ができる。



USBメモリが急に認識しなくなった

USBメモリのドライバセットアップで失敗

パソコンにUSBメモリを挿入すると初めてのUSBメモリの場合は、USBメモリの大容量記憶装置ドライバがセットアップされます。このセットアップ作業中が失敗しているとUSBメモリが認識しません。

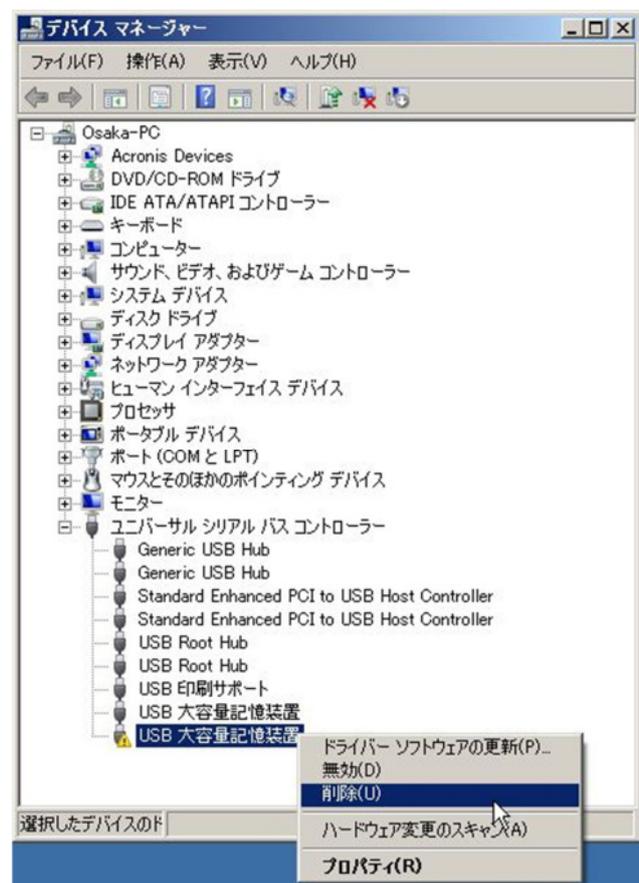
ドライバとはパソコンに接続する全ての機器に必要な、機器を個別に制御する為の管理ソフトです。USBメモリやマウス、キーボードなどはWindows標準ドライバが自動セットアップされてから利用する事ができます。削除しても再度セットアップされます。

USBメモリのドライバは1つではなく複数セットアップされます。通常は2~3つの程度のドライバがセットアップされますが、バックアップソフトなどを使っている場合は更に追加される場合があります。複数のドライバがセットアップされる場合、セットアップ中にUSBメモリが抜かれると完全にセットアップが完了されない為、デバイスマネージャーで停止されている場合があります。この場合は、デバイスマネージャーを開き、該当のドライバが黄色のマークがついていますので削除して下さい。削除した状態でUSBメモリを再挿入するとドライバが再セットアップされます。

セットアップにかかる時間はパソコン性能やWindowsバージョンによって変わる。

USBメモリのドライバは個体ごとにセットアップされますので、同じ種類のUSBメモリを使っても個体が違えば毎回セットアップされます。

このセットアップ時間は新しいOS程短くなります。例えばXPパソコンの場合は30秒~1分程度かかりますがWindows7では10秒程度、Windows8やWindows10では2~3秒程度でセットアップされます。



エラーメッセージに(RC)が表示される



エラーメッセージや画面の表記に(RC)が表示されている場合は、USBメモリに保存されている言語表示ファイルが読み込めない場合です。USBのシステムフォルダが消えている。又は、ファイル破損があり読み込めない場合です。

この場合は、システムの環境ファイルをダウンロードして上書きすると修復でいますが、言語設定ファイルがも読めない状況は他のシステムファイルが読めなくなっている可能性があります。USBの破損検査を行ってから操作を行います。

操作 1. USBの破損検査

USBに対してWindowsのチェックディスクコマンドで修復検査を行います。破損があった場合は同時に修復されます。

①Windows Power Shellの起動

該当のUSBを挿入して、左下のWindowsスタートアイコンを右クリックして” Windows Power Shell” を選択します。

②キーボード操作でコマンドの入力

Windows Power Shellが起動すると濃紺のウィンドウが表示されます。マウスで画面を1回クリックして前画面にカーソル点灯を確認します。キーボードより以下のコマンドを入力します。(仮にUSBドライブがE:ドライブとして説明します。ドライブ名はパソコンやUSB差込口で変わります。)

chkdsk E: /F

※英数半角で入力。大文字・小文字不問、スペースは半角で1文字以上空けてください。上記はE：ドライブを検査して破損が見つかったら修復（/F）するという命令です。

「問題は見つかりません」または「修復されました」のどちらかが表示されます。

→次頁へ続く



USBの破損

USBアクセス中にUSBを抜いてしまうとタイミングにより保存されているファイルの破損が発生します。特に書き込み中または書き込みの最後のタイミングでUSBが抜かれるとファイルを管理しているインデックス情報書き込まれないまたは、不完全で記録される事があり全ファイルが読めなくなる場合もあります。chkdskはこの状態を調べて、インデックス情報の再構築を行います。取り外す時は、USBの赤のアクセスランプが点灯してない事を確認したり、USBの安全な取り外し操作をお願いします。

エラーメッセージに(RC)が表示される

操作2. パソコンの表示設定を変更する。 (非表示フォルダが見える様にする)

修復するフォルダで“.cfg”フォルダがありますが、削除されると動作ができなくなりますので非表示設定されています。通常は表示されていませんので、パソコンの表示設定を変更して見える様になります。

エクスプローラ表示オプションの変更

以下の2か所を変更すると表示フォルダや非表示ファイルが見えるようになります。

オプション→表示オプションタブ

- ①「隠しフォルダ、隠しファイル、および隠しドライブを表示する」にチェックを入れる。
- ②一番最後の項目「保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない(推奨)」のチェックを外す。

詳しくは P.69 「非表示フォルダを表示する」を参照して下さい。

操作3. システムファイルのダウンロード

http://www.abroad-sys.com/USB/DC7.6.1_NON_ProtectArea.zip

DC7.6.1_NON_ProtectArea.zipがダウンロードできましたらZIPファイルを解凍して下さい。

※上記のバージョンはデータコンテンツガードVer7.6.1です。support@abroad-sys.com に適用の可否や最終バージョンかどうかを確認して下さい。

解凍したDC7.6.1_NON_ProtectAreaフォルダ

“.cfg” フォルダ

UsbStart.exe ファイル

“setup” フォルダ

(RC)のエラーは上記の“.cfg”フォルダが読めなくなっている場合に発生します。USBへ“UsbStart.exe”と“.cfg”フォルダの2つを上書きすると改善します。

“UsbStart.exe”と“.cfg”フォルダは対になっています。必ず一緒にコピーして下さい。

※書き込みができない場合：USBが空き容量がゼロになっている場合は、上書きができません。USBにある“.cfg”フォルダやUsbStart.exeを削除してから上記の2つをUSBへコピーして下さい。

※“.cfg”が見えない場合はP.69 「非表示フォルダを表示する」を参照して下さい。

●他のUSBへバージョン情報をコピーする

古いUSBが破損した場合、上記の方法で新しいバージョンへ更新すると改善されますが、複数のUSBを使っている場合は、他のUSBも同じバージョンにする事を推奨しています。バージョンアップは、個別にする方法もありますが、管理ソフトUsbManageの設定コピー機能を使うと便利です。設定コピー機能は、USBを2本差しの状態でシステムファイルや設定情報を転送する機能です。

詳しくは P.40 「同じ設定のUSBを作る」を参照して下さい。

ウィルスセキュリティソフトの誤検知

■セキュリティ対策ソフトでファイルが削除される

お使いのウィルスセキュリティソフトによっては、本USBメモリのシステムファイルが削除されたり本システムの動作を抑制される場合があります。

ウィルスセキュリティソフトには、ウィルスパターンでの検知方法と「ふるまい検知」と呼ばれるウィルス特有の動作を検知する機能があります。ふるまい検知はベンダーによっては「ヒューリスティック分析」や「ジェネリック検知」と呼んでいる場合もあります。「ふるまい検知」の精度を高くしている場合や自動更新される更新パターンのミスで本USBメモリの付属ソフトがウィルスセキュリティソフトで誤検知され削除される事があります。

誤検知で附属ソフトのUsbStartなどのソフトが削除される場合、当社側から対象のウィルスセキュリティソフトメーカーに誤検知の報告を致します。

当社からの報告が受理されると次回ウィルスセキュリティの更新処理で反映され誤検知が修正されます。もし、ファイルが消えてしまう事がありましたら当サポートまでご連絡下さい。申請が反映されるまでは、ウィルスセキュリティソフトを一時停止してご利用下さい。

■セキュリティソフトでの不具合(avast)

セキュリティソフトのAvast（有料版）での障害が報告されています。avastでも正しくお使いの場合はご利用になれますが、重大なトラブルの可能性があるので、当社では推奨しておらず製品バージョンVer5.0以降でavast警告を表示しています。

当社で把握している現象は検査時間が長い（15秒）、ミス操作を誘導しやすい（検査中にUSBメモリをはずすとファイルが消える）、他社製の何らかのソフトとの組み合わせでブルーバックスクリーンになりフリーズする等の報告があります。2014/04



[avast警告詳細]

avastをセットアップしているパソコンではUsbStart

実行時に警告メッセージを表示しています。

検証バージョン:avast!アンチウイルス2015、avastプレミア2015

検証時期:2015/9

avastでUSBメモリ内のプログラムを実行する場合、仮想空間(avastSANDBOXフォルダ)に移動され仮実行し検査が終わると復元される動きがあります。初期値では「**アバスト ディープスクリーン**」という機能が有効になっています。毎回、15秒程度検査時間がかかりますが終わるまではクリック操作等は行わないで下さい。

<現象>

処理中に処理を止めるとファイルが消える又は名前が復元されていない等の現象になる。

UsbStartやUsb安全な取り外し(UsbRemove)を実行するとブルーバックでフリーズする等の報告があります。（当社では確認はできておりません）avastについての**情報はネット検索で“avast ブルースクリーン”などのキーワードで検索**を行って下さい。

※当社で検証を行っているavastは2015年版ですが障害は過去バージョンでも確認しています。2014年など旧バージョンのavastをご利用の場合は、誤操作でトラブルになりやすいので2015年度版など新しいバージョンに更新して下さい。

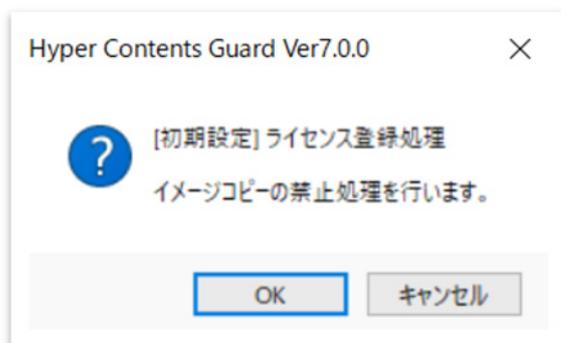
avastの**サンドボックス（砂場）機能**とは、日本語では仮想実行環境と訳されています。**ディープスクリーンをON（初期値）すると仮想実行環境で検査されます。**サンドボックスとは隔離された安心な砂場（場所、フォルダ）に検査対象のファイルを移動して検査を行う意味です。**サンドボックス検査機能は有料版のみの機能でフリーソフト版にはありません。**

ディープスクリーンをONのまま利用した場合。UsbStartなどの検査対象のファイルのリネームを行いavastSANDBOXフォルダにコピーされます。検査が終了すると元ファイルの名前を戻して再実行されます。

問題点は検査中にUSBメモリを取り外すと元ファイルの名前が復元しない事や仮想環境で実行後にもう一度本実行されるので2回実行されるような動きになり違和感があります。

avastのフリーソフトバージョンには、ディープスクリーン機能がありませんので問題ありませんが、データコンテンツガードのシステムで利用バージョンの判定ができまないのでフリーソフトバージョンでも警告が表示されます。

ライセンス登録操作画面



初回UsbStartを実行した時にライセンス登録処理の画面が表示される場合は[OK]ボタンをクリックして下さい。ライセンス登録は、USB個体単位に対して行われます。多くの場合、この画面は表示されませんがUSBの利用登録がされていない場合は表示されます。表示された場合はOKをクリックして先に進んで下さい。キャンセルした場合は、[OK]がクリックされるまで毎回表示されます。

ライセンス登録は出荷履歴を管理する為や個体承認の開始に必要です。OKをクリックするとインターネット経由で出荷履歴が登録されます。

※この画面はOEM契約でUSBデュプリケーターで大量生産を行いたい場合やカスタマイズ製品等で表示される場合があります。

デバイス更新エラー

UsbStartを実行したときに、保護領域が表示できない場合「デバイス更新エラー」が表示される事があります。この場合は、手動切り替え画面が表示されますので指示に従って下さい。デバイス更新エラーが表示されるのは、非保護領域と保護領域の切り替え動作が遅かった場合に表示されます。

■デバイス更新エラーについて

UsbStartを実行したときに保護領域を表示する為に、USBメモリの取り外しと再挿入をソフト的に行っています。一定時間がたってもソフト的な取り外しができなかった場合にデバイス更新エラーが表示されます。



■デバイスの更新エラーの原因

USBメモリのソフト的な取り外しに時間がかかっている場合に表示されます。原因はご利用パソコンによって様々で特定した原因はありません。一例ではパソコン側のUSBホストコントローラの問題やはじめてUSBメモリをパソコンにUSBメモリを挿入した場合、USBメモリ個体単位でドライバーセットアップが行われます。この動作が完了していない場合にも表示されます。また、セキュリティーソフトや仮想OS等の他のソフトウェアの影響でUSBメモリの動作が遅い場合に発生します。ハードウェアが原因ではない場合、2回目以降はデバイス更新エラーが表示されない場合もあります。

■デバイス更新エラーの対応

エラーが表示される場合は、ソフト的にUSBメモリの取り外しができないので手動でUSBメモリの取り外しを行って下さい。取り外しは画面の指示に従って下さい。



上記の画面が表示されたら「OK」をクリックしてください。

他のソフトの影響など原因がわかっている場合は、「キャンセル」をクリックして影響を与えているソフト終了させたから細動UsbStar実行して下さい。



手動切り替えを選択した場合は、「USBメモリを取り外して下さい」のメッセージが表示されます。

上記のメッセージが表示されましたらUSBメモリを抜いて下さい。すぐに「USBメモリを接続して下さい。」のメッセージが表示されま



すので取り外したUSBメモリを再挿入して下さい。

手動切り替えが毎回表示される場合は、ハードウェアの問題があります。影響を与えている原因が他のソフトウェアが原因の場合は該当ソフトのバージョンアップやパソコン側のUSBホストコントローラが原因の場合はファームウェア更新で改善する事があります。

Macでの利用

本製品はWindowsで動作するように設計されていますのでWindows以外のOSでは動作しません。

MacにWindowsをセットアップすると本製品をご利用可能です。

Intel版のMacにはWindowsをセットアップできるBootCamp（ブートキャンプ）という仕組みがあり、切り替えてMacOSとWindowsを利用することができます。※WindowsはIntel社製のCPUのOSです。M1 マックはCPUが異なりWindowsは動作しません。

また、Parallels Desktop（パラレルズ デスクトップ）等の仮想OSの利用するとMacOS内でWindowsを動かす事ができます。

- MacにWindowsをセットアップすると利用可能
- MacでWindowsを動かす場合は標準のBootCampを使う方法とParallels Desktop を使う方法がある
- Windowsが動作できるのはIntel版マックのみ。M1マックはWindowsが動作しません。
- Windows11は原則Mac未対応（PC本体にTPM2.0のセキュリティーチップが必要）Parallels で仮想TPM2.0がサポートされる可能性があります。

■BootCamp（ブートキャンプ）

Boot Camp を使って、Mac に Windows 10 をインストールし、Mac を再起動する際に macOS と Windows を切り替えることができます。この場合は、純粋なWindowsとしてご利用ができサポートも受ける事ができます。

■仮想OS（サポート対象外）

パラレルズ社のParallels Desktop for Mac を利用するとMacOSとWindowsを同時に起動できます。

1台のMacでMacOSとWindowsを起動した場合、主メモリが8G以上(16GB推奨)必要です。

また、USBメモリ内のファイルを開くソフトはWindows側にセットアップする必要があります。例えば、USBメモリのコンテンツがパワーポイントやExcelの場合、Mac側のOfficeでは開く事ができません。Windows側にOfficeをセットアップする必要があります。

USBメモリを初めて挿入した場合、Mac側で認識するかWindows側で認識するか決める必要あります。この場合、Mac側で認識させるとWindowsでは認識できなくなりますので、必ずWindowsで認識させるようにしてください。

Macの仮想OSソフトはParallels社以外に VMware Fusion (VMware, inc) / Virtual BoX (Oracle) があります。

※仮想OSでトラブルの場合、問題特定が困難なので製品サポートを提供していません。このため、各仮想OSバージョンの検証確認を行っていません。

●Mac対応が必要な場合

クローンブロッカーというUSBメモリ製品が対応しています。クローンブロッカーはコピーガードの仕組みがありWindows/Mac/Android/iOSに対応しています。ただし、動画や写真など対応コンテンツの種類に違いがあります。本製品はファイル形式は概ね対応していますが、Windows専用になります。

フラッシュメモリの寿命

データコンテンツガードはフラッシュメモリという部品が使われています。フラッシュメモリは、USBメモリやSDカードなどでも使われており、スマートフォンやタブレットの記憶装置として広く使われています。

フラッシュメモリは、データ保持期間や書き換え回数に寿命があり無限ではありません。ご紹介するフラッシュメモリの寿命は一般的なUSBメモリの寿命に関する情報です。書き換え回数が少ないと寿命が長くなるとされていますので、閲覧専用のデータコンテンツガードUSBメモリは書き込みが少ないので寿命は長くなります。

■寿命は正確にはわからない

フラッシュメモリメーカーから個々の正確な製品寿命値の値が公表されていません。また、メモリは利用状況や生産ロットによる差がある事や利用状況によって差が大きすぎる為、正確な寿命利用回数や年数といった値はわかりません。

■データの保持期間

フラッシュメモリはデータ保持に電力を使いませんので長期間にデータを記録できますが無限にデータを保持できるわけではありません。データ保持期間は利用状況や保管温度などの利用環境にも影響されますが約10年～数十年とされており、いつかは失われます。また、書き換え回数が多い場合は、データ保持期間も短くなります。データ書き込みが少ないデータコンテンツガードUSBメモリはこの点において有利です。

■フラッシュメモリのエラー

フラッシュメモリが寿命などでエラーが増える場合は、メモリ容量全体が使えなくなる状態ではありません。

もし、全体が使えなくなっている場合は、パソコン側の問題で一時的に利用できなくなっていたり、静電気や水没での回路ショートなど物理的な破損でフラッシュメモリの寿命とは無関係です。ただし、書き込みを激しく行うソフトウェアの利用などはフラッシュメモリの消耗を早め短期間で寿命に達し全体が読めなくなる事があります。

フラッシュメモリが寿命に近づいている場合、

記憶素子の1つづつが読み込み不良になり徐々にエラーが増える状態になります。例えば、ある1つの写真やPDFが途中から切れてしまう現象があり、他のファイルはその時点では問題なく表示できますが時間の経過とともに読めなくなるファイルが少しずつ増えるという現象になります。

■書き換え回数

USBメモリには上書きして書き換える事ができ何度も利用ができます。繰り返しの書き換え回数には寿命があります。条件により1,000～1万回程度になりますがこれは実用的には十分な回数です。新規に書き込む「書き込み回数」ではなく、削除や上書きして書き換える「書き換え回数」です。フラッシュメモリには分散書き込み機能が備わっており、同じ箇所に記録が集中しないようになっています。(※2)

例えば、4Gのメモリに1Gのデータを4回書き込んだ場合は、書き込み数は1回としてカウントします。この計算ですと1,000回の寿命は、記憶容量4GのUSBメモリに毎日、記憶容量いっぱいの4Gのデータを書き込んだ場合に約3年で寿命に達するという計算になります。

同じデータを容量が2倍の8GのUSBメモリに書き込んだ場合は、寿命も倍の6年になる計算です。

バックアップなど毎日大量データを書き込みする用途には適していませんが一般的な利用では、容量いっぱいに書き込みをする事はありませんので実用的には十分です。同じファイル名を上書きした場合、空き容量がある場合は、書き換えではなく新規の追記書き込みになります。この動作は採用しているUSBコントローラーチップによっても違いがあります。

■コンテンツカードUSBメモリの寿命

データコンテンツガードUSBメモリは、閲覧専用で書き込み回数が少ない為、通常の場合1,000回の寿命に達する事はありません。

ただし、中間ファイルを多く使う科学計算ソフトやWindowsのキャッシュ機能であるReadyBoostは寿命を極端に短くする為、USBメモリを消耗品

※1)Windows ReadyBoost(ウィンドウズ レディブースト)は、

Windows Vista以降の機能の一つ。フラッシュメモリなどの外部メモリーを、キャッシュとして利用することで、ソフトウェアなどの読み込みを高速化する機能のこと。

Windows ReadyBoostはメモリ寿命を極端に縮めるのでUSBメモリは消耗品として利用となります。

データコンテンツガードUSBメモリはReadyBoostやキャッシュ目的の利用はできません。※これらの使い方は保証対象外になります。

※2)分散書き込みは不要

ハードディスクにはデフラグという処理があります。1つのデータが分散して書き込まれると回転しているディスクでは読み込みが遅くなってしまうので整列させる為の機能です。USBメモリに関してはデフラグは不要です。回転をしていない事とデフラグを行っても分散書き込み機能がある為効果はありません。また、書き込み回数を発生させるだけで寿命が短くなるだけです。

フラッシュメモリの寿命

と割り切った使い方になります。

■読み取り回数

読み取り回数には公表値がなく制限は設定されてはいませんが、接続端子部の磨耗やUSB筐体の耐久回数の目安として抜き差し回数10,000回としています。

これらの寿命に対する値は、実際にはメモリのタイプ（種類）や製造ロットの問題、利用環境に大きく左右され固体によって違いがある為、目安という事でご理解ください。

メモリの種類 SLC/MLC/TCL

フラッシュメモリには3つの種類があり寿命に関係します。ただし、各タイプで品質やエラー補正機構などが日々改善されていますので一概に品質を確定できるものではありません。

■SLC

フラッシュメモリはデータを1ビット単位で記録する記録素子が使われています。最初に開発されたフラッシュメモリでは1ビット記録するのに1素子が使われていました。この1素子の単位をセルといいます。このタイプのメモリはSLC（シングル・レベル・セル：Single Level Cell）といい寿命が長く高品質です。

現在のMLC/TLCと比べ10倍以上の価格差があり、現在のUSBメモリでは使われていません。出始めのUSBメモリが容量が少なく高価だった理由はSLCが採用されていたからです。

■MLC/TLC

現在、主流なタイプは1素子に複数ビットを記録できるMLC（※1）というメモリです。最近では1素子に3ビットを記録できるTLC（※2）というメモリが主流です。

同じ面積に沢山の情報を記録できると言う事は、フラッシュメモリの低価格化に大きく影響しています。低価格で普及が進み大量生産で更に価格が安くなっています。ただし、高かった時代のSLCメモリと安くなった最近のTLCメモリでは同じ物ではなく耐久性には違いがあります。

現在、一番小さな容量は8Gになります。8G以下

のメモリは8Gのメモリを工場出荷段階で小さな容量として設定され出荷されます。ハードウェア的には同じものです。（※3）

この為、4Gと8Gのメモリではあまり価格差がありません。価格差が小さな場合は、分散書き込み機能により容量の大きな方が寿命が延びる傾向にありますので大きな容量の方がメリットが大きくなります。

年々メモリ自体の品質の向上や補正機構の向上でエラーに対する状況が改善されています。このため、最近ではTLCが主流になっており価格面で不利なMLCの流通量が少なくなっています。

データコンテンツガードUSBメモリ

4G/8G/16G	MLC
32G/64G	TLC

■寿命に関する補足情報

製品寿命が正確にはわからない事は、利用方法や利用環境の影響以外に、日々改良されているフラッシュメモリの開発速度にもより変わります。

明らかに品質が劣っていた数年前のTLCと品質が良くなった最近の寿命公表値が同じです。

公開されている情報は特定の実験環境での値なので実際の利用環境ではありませんが目安としては使えます。これらの状況で寿命に関する情報は不明で正確にお伝えできる事が出来ておりません。

ただし、2010年のVer1を出荷時点から寿命で使えなくなった事例は、科学計算ソフトなどでキャッシュファイルを書き込んだ事例がありますが、一般的なコンテンツ配布ではありません。

破損は水濡れや物理的な破損、静電気が原因と思われる内部回路の破損のみです。

（※1）MCLはマルチレベルセル（Multi Level Cell）の意味で1つの素子に複数ビット（2ビット）を記録できるタイプです。

（※2）TCLはスリーレベルセル（Three Level Cell）またはMCL-3など呼ばれています。MLCは年々流通量が少なくなり主流はTLCになってきています。

TLCは1素子で3ビットを記録しますのでSLCに比べ3倍の書き込みと読み出しが発生します。これは寿命に大きく影響します。MLC/TLC共に1素子で複数ビットを記録するメモリはエラーが発生するので補正機構がついています。

（※3）フォーマット、コピー、検査作業にかかる時間は2倍になりますので価格は違いがあります。

デジタルコンテンツの販売を考えられている方へ
名入れとパッケージ



コンテンツの販売

デジタルコンテンツを販売する方へ

データコンテンツガードUSBメモリは、情報漏えい防止の目的以外に有料コンテンツを販売する事ができます。個体承認方式のデータコンテンツガードUSBメモリは、サーバー承認などを必要としないデジタルコンテンツの著作権保護ツールです。データコンテンツガードUSBメモリにデジタルコンテンツを入れて販売する場合は名入れやパッケージングを行い商品価値を高める事ができます。

■コンテンツとは

コンテンツとは、内容や中身の意味します。文書、映像、音楽、プログラムなどのファイル等はデジタルコンテンツと呼ばれています。コンテンツを作成するにもコストがかかりますがコピーができる為、採算分岐点を超えると利益率が高いというメリットがあります。

刷る事ができます。USBメモリへのロゴ、社名などの印刷は「**名入れ**」と呼んでいます。名入れは他には無いオリジナルコンテンツという事をアピールし、企業ブランドや商品価値を高めます。

■プリスターパック

プリスターパックとは、透明なプラスチックシートを真空成型で品物の形状に包み込むような形状で作られる包装パッケージの一つです。プリスターとは“水ぶくれ”の意味で薬の個別包装などでよく使われています。安価で商品を衝撃や傷などから守ることができます。

■違法な海賊版対策

デジタルデータはコピーが簡単で海賊版を作りやすく商品価値を下げて機械損失につながります。オークションなどでは、コンテンツの共同購入という名目やシアール販売、ソフトの中古販売という事で悪質な海賊版が販売されています。コピーガードをかけて販売したり会員サービスや紙の資料などをつけるなど、海賊版対策も必要です。

■デジタルコンテンツの製品価値を高める

映像やドキュメントなどのデジタルコンテンツは、情報なので形がなく物理的なものではありません。手渡しすることもできず販売するには面倒です。ダウンロード販売やストリーミング放送といった方法では、オンラインでのDRM（デジタル著作権管理）の仕組みが必要で維持管理にもランニングコストが発生します。高額コンテンツの場合は、メディアで所有したいというニーズもあります。

データコンテンツガードUSBメモリは、物理的なメディアとして以外に有料コンテンツ販売の為にコピーガード機能やパッケージ化や名入れサービスを提供しています。

USBメモリケースにはロゴや社名、製品名を印

※1) ネット共有ソフト
Napsta/Gnutella/WinMX/
BitTorrent/Winnyなどのフリーソフトを使うと、同じソフトをもっているパソコン同士でファイル共有が行われます。

動画、写真、音楽、ソフトウェアなど著作権を無視した違法コンテンツがインターネット上に流れています。ユーザー数が多いため、一度拡散してしまうと削除する事ができません。日本では海賊版コンテンツのダウンロード行為は禁止されており違法です。

データコンテンツガードUSBメモリでは、ネット共有ソフト対策がとられており解除する事はできません。



コンテンツの販売

USBケースへのマーキング（名入れ）

名入れとは

USBメモリの外装ケース（筐体：きょうたい）は金属製またはプラスチック製です。紙以外の印刷になりますので、特殊な印刷が必要です。

レーザーマーキング

データコンテンツガードUSBメモリの外装ケース（筐体）は、アルミ製とプラスチック製があります。アルミ製の場合は、レーザーマーキングで刻印を行います。レーザーマーキングとは着色や防汚加工をするためにアルミにアルマイト加工をしていますが、このアルマイトを熱で剥がす（焦がす）方法でマーキングを行うものです。版が不要で小ロット印刷に適しています。色は白1色になります。データは2階調の黒100%(RGB:#000000)にしか反応しませんので、カラーやグレー階調は印刷する事ができません。

レーザーマーキングはインクを使っていないので揮発性のクリナーでも刻印がきえないというメリットがあります。短納期対応やシリアル番号印刷も可能です。

溶剤系インクジェット印刷

プラスチック製の筐体の場合は、溶剤系（ソルベント）のインクジェット印刷を行います。メリットとしては数十本単位の小ロット印刷が可能で、製版が不要、短納期対応、シリアル番号を印刷できる事です。デメリットとしては、溶剤系のインクジェット印刷ではカラー印刷ができますが4色印刷なのでカンパニーカラーのような厳密な色指定には対応できません。有機溶剤を含んだクリーナーで色落ちする事があります。金属にも印刷は可能ですがUSBメモリの場合は、表面に傷や汚れがつかないようにアルマイト加工を行っており定着性が悪いのでインクジェット印刷は適していません。

シルク印刷

シルク印刷は、主に紙以外のプラスチックや金属などに文字などを印刷する方法で広く使われています。シルク印刷は、固定治具の作成や色ごとにシルク版が必要なので初期費用が発生します。この為、小ロットには適しておらず1000本以上の比較的大きなロットの印刷に適しています。納期は2～3週間程度かかります。

色ごとに版が必要なので写真などのフルカラーも得意ですが、メリットとしてはDIC指定などの厳密な色指定ができる事、大量の場合はコストが安くなる事、溶剤系インクジェットよりインク強度がありマーキングが落ちずらい事です。溶剤系インクジェットでは、製版が不要ですがあらかじめ決まっている4色（CMYK）で重ね塗り印刷を行いますので、写真などはきれいに発色できますが、企業ロゴなど厳密な色指定はできません。

例えば、緑色を表現する場合、シルク印刷では指定色の緑色のインクを作ってペイントしますが、インクジェット方式では黄色50%、青50%の細かな粒点を塗り色を表現します。



コンテンツの販売

生産時のコンテンツコピー

生産時のコンテンツコピー

データコンテンツガードUSBメモリは、製品の特長であるコピーガード機能があり保護領域側のコピーを行う事ができません。同じものを作る場合は、コピー禁止を解除してからコピーを行い1本づつ禁止設定を行って下さい。大量の作成が必要な場合は、工場出荷段階で設定と指定コンテンツを入れて出荷依頼をします。

手作業で1本づつ同じコンテンツを入れて同じ設定を行うのは20本以下が推奨数です。20本以上の場合やファイル数が多い場合はミスが発生する確率が高くなりますので推奨していません。手作業でファイルコピーをした場合は、完全にファイル書き込みを終了させる為に完全に書き込みが終わった段階でも、アクセスランプがあるUSBメモリの場合はアクセスランプ点灯がない事を確認するか一呼吸置いてから取り外しを行って下さい。

※1) 巡回冗長検査

Windowsのファイルコピーでは、巡回冗長検査(CRCチェック)という検査が行われます。CRCチェックでは、不良セクターなどの物理的に書き込みができなかった場合の検査は行われています。データコンテンツガードUSBメモリは、出荷時の検査で不良セクターの検出は行っておきますのでCRCエラーになるような事例は過去ありません。

コンテンツコピーは専用のコピーツール(SaftyCopy)のご利用が工場でのコンテンツを入れた状態での出荷サービスをご依頼下さい。工場で事前にコンテンツを入れる作業にはボリュームコピーの禁止前段階で専用の機械で複製と検査が自動的に行われます(有料オプション)。手作業より効率的で時間が短縮できる、費用が安くなるメリットがあります。機械での複製作業が終わった段階で1本づつの検査とライセンス登録作業を行い出荷されます。

※コンテンツを入れて出荷する場合は有料になります。

※SaftyCopyは標準付属ソフトではありません。

Windowsのコピー&ベリファイ

Windowsのコピーは検証機能(ベリファイ)がありません。(※1)

大量のファイルをコピーする場合は正しくコピーされているかどうかの補償がありません。実際一度に1000ファイル以上など大量にコピーを行った場合はコピーでファイル破損が見受けられる場合があります。CD/DVDのライティングソフトでは、ベリファイやコンペアといった書き込み検証機能がありますが、USBメモリに対しては利用できません。

フリーソフトなどのファイルコピー専用のソフトでは、ベリファイなどの検証機能がありますので、これらのツールを利用する方法もあります。Windowsではコマンドラインでのファイル比較は可能ですが、データコンテンツガードUSBメモリの場合、コマンドラインで実行する機能は排除されますのでWindows標準機能での比較検査はできません。



コンテンツの販売

利用事例

■USBメモリでのコンテンツ販売メリット

- ・1本でも設定可能なので小ロット生産が可能
- ・大容量コンテンツでも1本のUSBに入れて持ち運べます。
- ・コンテンツを選ばない。ソフトウェアからデータコンテンツまで幅広い対応

■教材(映像、音声)

MP4やWMVといった映像コンテンツをそのまま配布できます。

音声データの配布にはMP3等の形式も配布可能です。オンラインでのストリーミング配信を行っている場合でも脱退会員に映像コンテンツを提供できるケースで利用されています。

■プログラムとスクリプトファイル

プログラム配布では、セットアップなしですぐに利用できる事がメリットです。また、複数パソコンでの利用やライセンス管理も不要でパソコン買い替えでもUSBを差し替えるだけです。

オンラインの著作権管理では、1人が複数のパソコンを利用しているのか？複数人で利用するのかを判断する事ができません。

物理的に配布できるUSBメモリは、ライセンス管理がシンプルでわかりやすいのがメリットです。

■商品カタログの配布

PDFやHTML、JPEGファイルなどで作られる商品カタログの配布で利用されます。大量な写真や商品情報などは、ネット流出や同業者への流出などは避けたいものです。データコンテンツガードUSBメモリへ保存するだけでコピーガードを付けた状態で配布する事ができます。USBメモリ

です。書き換え可能で新製品の追加や差し替えなども可能です。

USBメモリならノートブックパソコンなどCDドライブをもっていないパソコンでも閲覧できます。

■設計図などの配布

生産工場への設計図や指示書、保守マニュアル、設計図の配布に利用されます。例えば、造船など大型の製造物でネコン構造で関係業者が多く国籍や派遣登用などが管理できない場合が増えています。近年、設計図や保守マニュアルは電子化されておりコピーが簡単です。

ホームページ作成で使われているHTMLの基になっているSGMLやXMLなどは元々、航空機や軍事で利用される保守マニュアル用の電子文書からはじまっています。従来は膨大な紙資料でしたので物理的な持ち出しは、逆に管理ができませんでした。最近ではPDFなどで電子化がすすみUSBメモリに大量データをコピーできるので機密性を保持するのが難しくなっています。データコンテンツガードUSBメモリは、色々なコンテンツに対応できるので保守マニュアルの配布には最適です。

■社内用途、作業マニュアル

業務用の作業マニュアルを配布する場合に利用されます。

社員教育用ビデオ、惣菜チェーンの動画レシピ、営業マニュアルなどノウハウが詰まった社内用の資料はコピーを禁止したいニーズです。また、原価が入っている見積積算システムの営業マン配布用でも利用されています。

データコンテンツガード

設定例

PDF



PDFの設定

許可ソフトウェアの設定

PDF Portable Document Format (ポータブル・ドキュメント・フォーマット)

1993年にアドビシステムズ社が開発、提唱した電子文書の形式。2008年にアドビ社が特許を無償としてISOで国際的な規格として標準化された。Windowsを発売しているマイクロソフト社ではXPSという独自の電子文書形式を公開していた為、PDFを閲覧できるPDFビューワーを標準付属したのはWindows8以降です。XPS自体は認知度が低く、それほど普及しているとは言えない状況です。

PDFはPDFを生成できるソフトをセットアップすると印刷メニューにPDFが登録されます。PDFを作る場合は、印刷メニューからPDFを選択します。PDF形式に標準で対応しているソフトでは別名保存でPDF形式を選択できる場合もあります。

印刷禁止はPDFセキュリティで行う

PDFでコンテンツを配布する場合、PDFのセキュリティ設定で印刷を禁止する事ができます。印刷禁止を行うとPDFから印刷機能でPDFを生成されません。USBメモリの機能にも印刷禁止がありますが、USBメモリ利用中は保護コンテンツ以外の全てのユーザーPDFも印刷ができなくなります。これを防ぐためには細かな設定ができるPDFセキュリティで印刷禁止の設定を推奨しています。

別名保存の禁止でPDFを設定する

簡易設定では許可ソフトとしてAdobe PDF Reader以外にWindows Readerも登録されます。Adobe PDF Readerをセットアップする事が前提条件にできる場合は、Windows Readerを削除します。

許可ソフトウェア：Adobe PDF Reader

別名保存の禁止：PDF

禁止設定：印刷禁止ON

※PDFセキュリティで“印刷を許可しない”で作成された場合は、印刷禁止をOFFにしてください。
 ※Adobe PDF Readerをセットアップしていない場合は、Adobe社のホームページからAdobe PDF Readerのセットアップを行う様にご説明ください。
 ※PDF ReaderはAdobe社以外にフリーソフトなどがあります。中にはPDFセキュリティを無視するようなPDF Readerもありますが、これらのソフトは許可ソフトで登録されていなければ保護領域にアクセスはできません。



PDFの設定

許可ソフトウェアの設定

■WindowsバージョンとサポートされているPDFビューワソフトの関係

PDFを閲覧するのは、[付属のClickView\(クリックビュー\)](#)の利用を推奨しています。
ClickViewを使わない場合は、許可ソフトに“Acrobat Reader”の設定が必要です。

Windowsバージョン	PDFビューワソフト
Windows XP/Vista/7 ※2020/1にサポート終了	Windows標準では付属されていない Acrobat Readerが必要
Windows8/8.1 ※2023/1にサポート終了	Windows Reader XPSビューワソフトWindows Reader でPDFもサポートされています。 Windows10以降付属していません。 Windows8をサポートする場合は、許可ソフトの設定で“Windows Reader”を許可して下さい。
Windows10/11	Windows Edeg (エッジ) Windows標準ブラウザ ※USB内の保護コンテンツのPDFを Acrobat や Windows Edeg で閲覧する事は推奨していません。

■USB内蔵PDFビューワClickView(クリックビュー)の利用

USB Ver7以降 USBメモリ付属ソフトとしてClickViewが付属しています。
このソフトはPDFや動画などをUSB内蔵ソフトで表示させるものです。古いUSBメモリバージョンを御利用の場合は、ダウンロードして利用することができます。詳しくはP.112「EXEメーカーをVer7.6未満で使う」又は、セットアップの注意事項がありますので製品サポート(support@abroad-sys.com)にご相談下さい。

■PDF閲覧で発生する問題と対策

Acrobat Reader

Acrobat Readerはパソコンによってセットアップされていない事、Acrobat を終了して画面から見えなくなっても2分程度メモリに常駐しており、一定時間USBの取り外しができない、保護が解除されない等の問題があります。保護が解除されない問題は、[Acrobatを終了して2分程度で解除されます](#)。PDFが表示できない場合は[Acrobat Readerをセットアップする](#)。または、[付属のClickviewを使う](#)と概ね解決できます。

Windows Edeg

Acrobat がセットアップされていないパソコンの場合、PDFはWindows Edegで開かれます。この場合、許可ソフトにWindows Edegが設定されない場合は、EdegがUSBのアクセスができないのでエラーになります。この場合も[Acrobat Readerをセットアップすると解決できる場合があります](#)。

AcrobatとEdeg共通の問題

コピーガードはUSBを取り外すと自動解除されますが、[許可ソフトとしてWindows Edegを設定されている場合は、Windows Edegが終了するまでUSBの保護が解除されません](#)。

例えば、印刷やネットワーク利用を禁止していた場合は、USBが抜かれてもAcrobatやEdegが終了するまで保護が継続します。この2つのソフトはメモリ常駐型で画面から消えても完全に終了しないので問題が発生します。[この問題を回避する為にUSB内蔵のビューワソフトをご利用下さい](#)。

データコンテンツガード

設定例

User Application



User Application

許可ソフトウェアの設定

ユーザーソフトの場合の許可ソフトウェア登録

データコンテンツガードは、保護領域をアクセスするソフトを事前登録する必要があります。USBメモリの保護領域内からユーザーソフトを起動する場合は設定は必要ありません。一般的に利用されるソフトウェアに関しては、選択リストに登録されていますので選択して登録してください。お客様の作成したソフトウェアまたはリストにないソフトウェアはユーザーソフトとして追加リストに登録する必要があります。

■USBメモリから起動するソフトは設定不要

USBメモリ内から起動するソフトは自動的に許可ソフトに登録されます。設定の必要はありません。

■実行形式 (.exe) のみ登録

許可ソフトウェアに登録が必要なケースは、USBメモリ以外から起動されるソフトウェアです。USBメモリの保護領域から実行されるソフトは許可ソフトとして自動登録されています。

Cドライブ等から実行されるソフトは、許可ソフトとして登録されていないと保護領域のファイルにアクセスできません。また、登録が必要なソフトは拡張子が“.exe”のファイルのみです。スクリプト、ADD-INソフトやDLLなどは、単体では動作しませんので追加リストに設定する必要はありません。

スクリプトやDLLは、それら呼び出している本体ソフトを登録してください。

■ホワイトリスト登録（追加リストの拡張）

ホワイトリスト登録は、登録したい許可ソフトが沢山ある場合に利用します。許可リストと追加リストに設定できるソフトウェア数は20個程度と制限があります。

ホワイトリストは、許可リスト、追加リストと便利に管理され、ホワイトリストで追加できる上限は100程度です。ゲームやCADで付属ソフトが多く、どれが本体ソフトか不明な場合は、拡張子“.exe”を全て登録します。

「実行を許可するソフトを限定しない」でも動作はできますがこの場合、コピーを目的としたソフトも許可されてしまいます。許可ソフトが限定できる場合は、一覧から登録できる「許可リスト」「追加リスト」に登録を行った方が複製されるリスクが減ります。追加リストは登録できる数が少ないので、ホワイトリストを併用してください。



ユーザーソフトの登録
USBメモリ以外にセットアップしているソフトは、許可ソフトとして追加リストまたはホワイトリストに設定します。USBメモリ内から起動するソフトは既に自動登録されていますので設定は不要です。



User Application

..... ファイルやフォルダの非表示化

実行形式で良く使われる機能

■ファイルやフォルダを属性設定で見えなくする。

コマンドプロンプトの命令でファイルやフォルダの表示属性を変更する事ができます。
コマンドプロンプトはWindowsスタート→Windowsシステムツール→コマンドプロンプトを選択します。 ATTRIBコマンドで設定します。

■事前準備

USBの保護領域に対してはコマンドプロンプトの命令が働きませんので、Cドライブや他のUSBメモリで設定してからUSBへコピーして下さい。フォルダは深い階層ですと操作がやりやすくなります。CドライブやDドライブ等HDDやSSDのルート（先頭フォルダ）へコピーして下さい。
また、操作前にパソコンの表示設定を非表示ファイルやフォルダを見えるようにして下さい。先に表示設定を行わないと設定したファイルが見えなくなります。⇒P.55 非表示フォルダを表示する

ATTRIBコマンドによる表示属性設定
EドライブのDATAフォルダの例

```
ATTRIB +S +H E:\DATA /S /D
```

スイッチ +S	System属性を設定する。
+H	Hide(非表示)属性を設定する
/S	サブフォルダ以下全てのファイルを対象とする
/D	フォルダ（ディレクトリ）も対象にする

全て半角でキーボードより入力します。

■ピリオドから始まるフォルダで見えなくする

データコンテンツガードではピリオドから始まるフォルダは非表示になります。
Windowsの操作画面（エクスプローラー）でピリオドから始まるフォルダは作れません。コマンドプロンプトのメイク・ディレクトリ(Make Directory)を使います。ディレクトリとはWindowsのフォルダの事です。

```
MKDIR E:\.folder Eドライブに“.folder”フォルダを作成する。
```

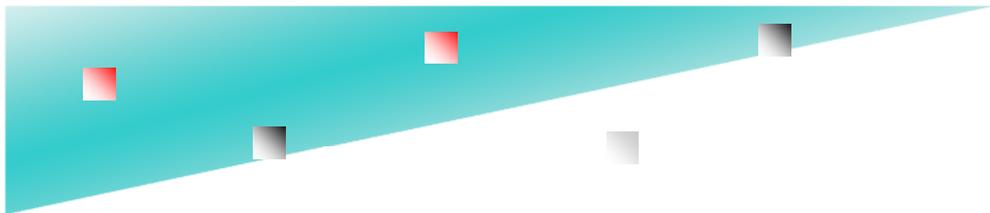
このフォルダに非表示属性を設定をする場合は
ATTRIB +S +H E:\.folder /S /D

※ただし、保護領域に保存する場合はピリオドから始まるフォルダは非表示になります。許可ソフトで直接非表示フォルダを開くことはできますので、その場合でも見せたくない場合は非表示設定をします。

■管理ソフトのフォルダ保護機能

管理ソフトUsbManageの「フォルダ保護」機能を使うと任意にフォルダを非表示にできます。
エクスプローラーでは見えませんがソフトウェアでフルパス指定であればアクセスができます。

コピー禁止設定ができない場合は、コピーされたくないファイルを適当なフォルダに入れてフォルダ保護機能でフォルダを見えない状態にします。PDFなどでリンクメニューなどを作って非表示フォルダのコンテンツを表示します。



User Application

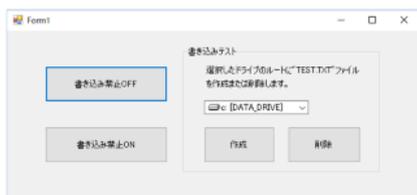
..... 書き込み禁止USBへ強制書き込みを行う

書き込み禁止USBへ対して 強制書き込みを行う場合は DLLを組み込みます。

■UsbWriteProtect.dll (無料)

UsbWriteProtect.dllはソフト開発で利用させるソフトウェア部品です。単体では利用できません。DLLが利用できる言語で利用可能です。

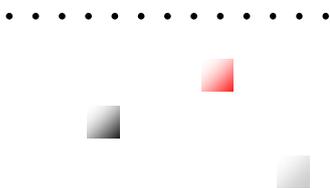
入手方法は support@abroad-sys.com に “UsbWriteProtectについて” としてご質問下さい。



VBのサンプルプログラム(ソース)付き

■UsbWriteProtect の利用用途

- 配布コンテンツの更新
- 保護設定済みのファイルにシリアル番号などの書き込み
- バックアッププログラムの作成など





動画の設定例

WMV/MP4

Windowsで再生できる動画形式は WMV(ウィンドウズ・メディア・ビデオ)形式です。
 これ以外の動画形式は、パソコンにコーデックという動画形式に対応したソフトのセットアップが必要です。
 Windows7以降であればMP4も再生ができます。
 WindowsXPなどでMP4が再生できない場合は、コーデックパックをセットアップするか、MP4対応の動画再生プレイヤーをセットアップして下さい。

動画形式	
再生に適している形式	WMV、MP4
再生に適していない形式	MOV Macの動画形式、Windowsで再生するにはApple Quick Time又はiTunesのセットアップが必要。全てのWindowsでは再生できません。

その他の動画形式も再生するには対応した映像コーデックのセットアップが必要です。
 同じ組織内や特定のパソコンで再生する場合は、どの動画形式でも問題はありませんが不特定多数に配布する動画形式としてはWMV,MP4以外は適していません。

動画は形式が複雑 コンテナとコーデック

動画は1つのファイルに映像ファイルと音声ファイルの2つが入っています。この1つにまとめた形式を“コンテナ”と呼んでいます。通常、動画ファイルと呼ばれているのはコンテナ形式の事です。

動画を再生するには、その動画で使われている映像コーデックと音声コーデックが必要です。
 WindowsXP/Vista/7などのパソコンではMP4で使われているコーデックがセットアップされていない場合があります。
 WMV (Windows Media Video) 形式はマイクロソフト社の動画形式なのでWindowsパソコンであれば再生可能です。

特定のパソコンで動画再生ができない

再生できない、音声のみ聞こえない、動画のみ再生できない場合は、コーデックがセットアップされていない場合があります。また、USBの設定で許可されているソフト以外を利用した場合も再生できません。映像ファイルを選択して右クリック→プログラムから開く→Windows Media Playerを選択します。この操作でも再生できない場合は、コーデック

がセットアップされていないパソコンです。
 この場合は、コーデックパックをセットアップするようにご案内ください。USBの管理ソフトで設定の見直しができる場合は、許可ソフトの設定にコーデック内蔵の動画再生ソフトGOM PLAYER、VLC media playerなどを加えて、閲覧ができないユーザーにはGOMやVLCを紹介する方法もあります。

MP4

DVDビデオの動画形式であるMPEG-2などに比べて圧縮率は2倍も高くMP4が人気です。ただし、MP4は形式が沢山ありますので注意が必要です。

.mp4は以下の組み合わせのコーデック圧縮が使えます。動画を作成(変換)するときはご注意ください。

推奨コーデック H.264/AAC

動画：H.264・Xvid・Divx・MPEG-4 など
 音声：AAC・MP3・Voribis・AC-3 など

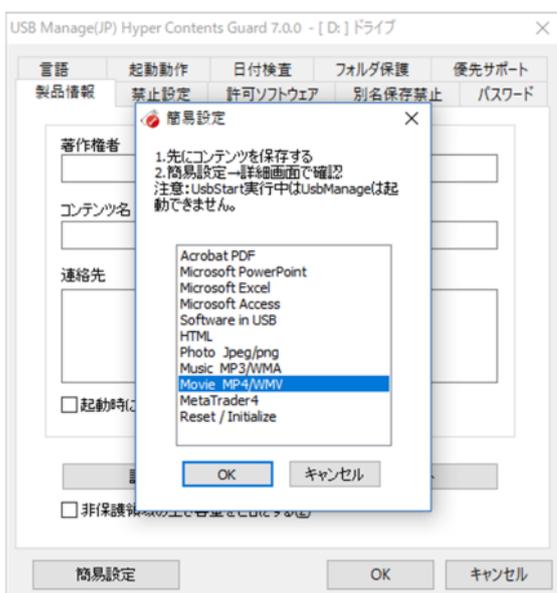
MP4(H.264/AAC)の動画が映らず音声しか再生できない場合は、そのパソコンにH.264コーデックが無い場合です。



動画の設定例

WMV/MP4

動画の場合は「簡易設定」をクリックして “Movie MP4/WMV” を選択します。
推奨値の保護設定が設定されます。



詳細設定／許可ソフトの確認

動画ファイルでWMV/MP4を再生するときには、最低限 “Windows Media Playr” と “GrooveMusic/ Movies&TV (Win10)” が設定されている事を確認して下さい。他の動画ソフトを許可しても問題はありません。Windows10では、MP4をクリックすると映像&テレビ (Movies&TV) という再生ソフトで再生されます。許可ソフトに登録されていないとWindows10でエラーになります。既に配布したUSBメモリでWindows10でエラーになる場合は、映像ファイルを選択して右クリック→プログラムから開く→Windows Media Playerで再生します。



ClickView クリックビュー

USB内蔵 コンテンツビューワソフト

■ClickViewのダウンロード

USBメモリバージョン7.3は標準付属しています。Ver7.0～Ver7.2をお使いの場合は以下よりダウンロードしてください。

<http://www.abroad-sys.com/USB/V7/ClickView.zip>

ClickView.zipを解凍すると

“ClickView” フォルダ、ClickView.exeがあります。

“ClickView” フォルダはUSBの保護領域へ保存すると見えなくなります。フォルダ保護機能で非表示になっていますが存在はしています。

※ClickViewはコピーガードUSBメモリ専用です。一般的なUSBメモリでは動作しません。

ClickView クリックビュー



ClickViewを使う事で利用者のトラブルを軽減、設定も簡単

ClickView（クリックビュー）はUSBメモリに付属させるビューワーソフトです。

1クリックで**動画、画像、音楽、テキスト、パワーポイントやExcle（※1）**を表示できます。

ClickViewを使うメリット

1. フォルダを非表示でコンテンツの保護を高める
2. ビューワーソフトによるトラブルを軽減（※1）
3. ClickViewには印刷や別名保存といった機能がない（完全に閲覧専用）
4. 1クリックでメニューが自動作成される。
5. 様々な便利機能

例）音声再生では スロー再生や早聞きが標準でサポート。動画ではシンプルな画面で全画面再生、リピート再生を出荷設定が可能。画像ビューワーでは連続で1クリックで大きな画面で表示等、ばわーぼいんとやExcelなども対応可能

ClickViewの自動メニュー作成機能

起動するとUSBメモリ内のファイルから自動でメニューが作られます。

No.	Category	Title	Type
1	Document	D0002021137_00000_V_000	Movie
2	Document	コピーガードUSBメモリ7簡易説明(要削除)	Document
3	Document	付属ソフトについて(要削除)	Document
4	illustration1	illustration1000	Image
5	illustration1	illustration1001	Image
6	illustration1	illustration1002	Image
7	illustration1	illustration1003	Image
8	illustration1	illustration1004	Image
9	illustration1	illustration1005	Image
10	illustration1	illustration1006	Image
11	illustration1	illustration1007	Image
12	illustration1	illustration1008	Image
13	illustration1	illustration1009	Image

画面の大きさや項目幅はマウス操作で自由に設定ができます。
手動設定を行うと、カテゴリやタイトルも自由に設定ができます。

（※1）様々なトラブル

PDFの例：Windows10では、標準ブラウザのMicrosoft Edge（エッジ）が使われます。Microsoft Edge（エッジ）でUSBメモリ内のPDFを参照するとUSBの取り外して、Edgeを終了していないとUSBの安全な取り外しができない。Acrobat Readのバージョンにより、クラウドへコンテンツを送信する機能があったり、USBのPDFを参照した後に安全な取り外しができない等の問題が発生する事があります。

ClickView クリックビュー



USBドライブ ¥Contenst
 ¥Contenst¥動画教材
 ¥Contenst¥動画教材¥教材1.mp4
 ¥Contenst¥動画教材¥教材2.mp4
 ¥資料
 ¥資料¥説明書.pdf
 ¥資料¥補足説明.pdf



自動メニュー
 フォルダ階層が深い場合でも
 再生するファイルの1つ上のフォルダ名が
 カテゴリとして表示されます。

No.	Category	Title	Type
1	資料	説明書	Document
2	資料	補足説明	Document
3	動画教材	教材1	Movie
4	動画教材	教材2	Movie



ClickViewで利用者トラブルの軽減

ClickView（クリックビュー）はUSBメモリに付属させるビューワソフトです。

動画、画像、音楽、テキスト、パワーポイントやExcel（※1）を表示できます。

上位版のハイパーコンテンツガードではコンテンツを見えないフォルダに入れて保護を高める事ができますがデータコンテンツガードではフォルダ保護機能がありません。データコンテンツガードでファイルを隠したい場合はファイルの非表示化を行ったものを保存します。（※2）

ファイルが見えていてもファイルコピー禁止が有効になっていれば、コピーはできません。

ClickViewの自動メニュー作成機能

起動すると自動でメニューが作られます。

Category:コンテンツの入っているフォルダ名
フォルダ階層が深い場合は、ファイルの1つ上のフォルダを表示します。

The screenshot shows the ClickView Viewer interface with a table of files. A red box highlights the 'Category' column, and another red box highlights the 'Title' column. A red arrow points from the 'Category' column to the text 'Category:コンテンツの入っているフォルダ名'. Another red arrow points from the 'Type' column to the text 'Type:コンテンツ種類 又は、設定で拡張子表示にもできます。'. A red circle highlights the search icon in the bottom right corner, with a red arrow pointing to the text '検索機能'. A text box in the middle of the table says 'Title:ファイル名 自動で作成されます。'.

No.	Category	Title	Type
1	Document	D0002021137_00000_V_000	Movie
2	Document	コピーガードUSBメモリ7簡易説明(要削除)	Document
3	Document	付属ソフトについて(要削除)	Document
4	illustration1	illustration1000	Image
5	illustration1	illustration1001	Image
6	illustration1	illustration1002	Image
7	illustration1	illustration1003	Image
8	illustration1	illustration1004	Image
9	illustration1	illustration1005	Image
10	illustration1	illustration1006	Image
11	illustration1	illustration1007	Image
12	illustration1	illustration1008	Image
13	illustration1	illustration1009	Image

USBメモリの保護領域内にフォルダに入ったコンテンツをドラッグ&ドロップ操作で保存します。

ClickViewはUSBメモリ内のデータファイルから自動でメニューを作成します。

管理ソフトUsbManage「フォルダ保護」でフォルダの非表示設定を行う事もできます。

※1）パワーポイントは、USBメモリ内にPowerPoint Viewer を付属させるかパソコン内にPowerPoint がセットアップされている必要があります。ClickView単体にPowerPointを表示させる機能はありません。

※2）ファイルの非表示化

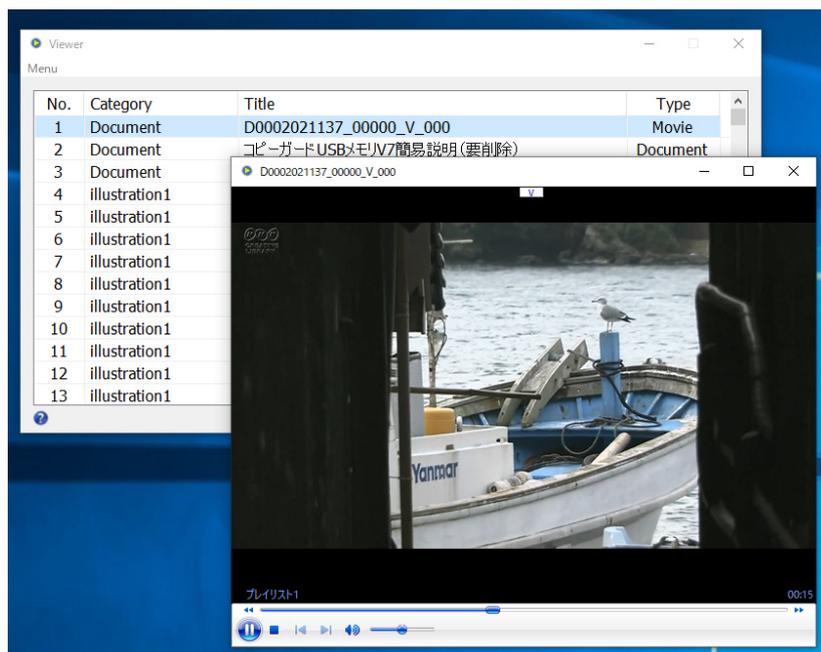
データコンテンツガードではフォルダ保護機能がありません。データコンテンツガードでファイルを隠したい場合はファイルを右クリック→プロパティを開き、属性の隠しファイルをONにします。また、高度に隠したい場合は、ATTRIBコマンド（P.88）でシステム属性をONにしてください。

ATTRIBコマンドは保護領域では実行ができません。ファイルの非表示化はUSBの保護領域で設定せずに、HDDなどで行ってください。

ClickViewで動画を再生する



動画形式をクリックすると動画ビューワーソフトで再生します。



102

ビューワーソフトはUSBメモリ内蔵のビューワーソフトです。
USBメモリ内から起動するソフトは自動で許可ソフトに登録されますので許可ソフトの設定は不要です。

動画形式は、WMV、MP4、Mpgに対応しています。
対応していない動画形式はメニューに表示されません。他の動画形式の場合は、Setting画面で動画拡張子を登録します。ただし、未対応の動画形式の場合は、再生するパソコンに動画コーデック (P.95) がセットアップされている必要があります。

[ESC]・・・終了

[F5]・・・全画面（フルスクリーン）表示

※Setting画面で最初に表示する状態を フルスクリーン表示、リピート再生の設定できます。

ClickViewでJPEGを表示する



画像をクリックすると画像ビューワーソフトで表示します。



写真を閲覧する場合

選択した写真が表示されます。

選択した写真のあるフォルダの一覧が左側に表示されます。クリックすると連続で写真を表示します。

ビューワーソフトはUSBメモリ内蔵のビューワーソフトです。

USBメモリ内から起動するソフトは自動で許可ソフトに登録されますので許可ソフトの設定は不要です。

写真はJPEG/TIFF/PNG に対応しています。

Fit 写真サイズを画面サイズに拡大または縮小して表示します。

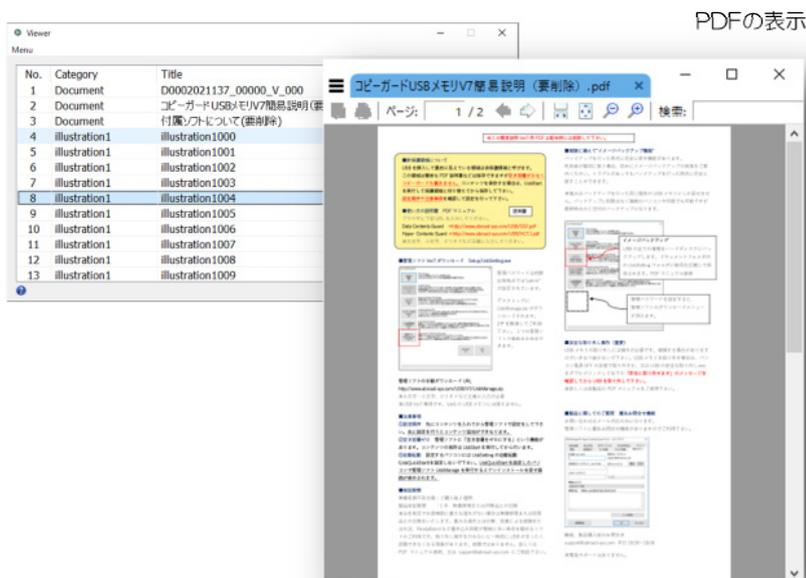
ファイル名、ファイルサイズ、写真の大きさ、ファイル日付を表示します。

検索機能：ファイル名の文字検索を行う事ができます。部分一致検索

ClickViewで PDFを表示する



メニューでPDFをクリックするとPDFビューワーソフトで表示します。



PDFの表示

ClickViewのPDF表示機能は、印刷や別名保存の機能がありません。

USBメモリ内のPDFビューワーで表示されますのでパソコン内のPDFビューワーは使われません。

PDF表示中のキー操作

次ページ：PageDown

前ページ：PageUp

拡大表示：+

縮小表示：-

終了：Q

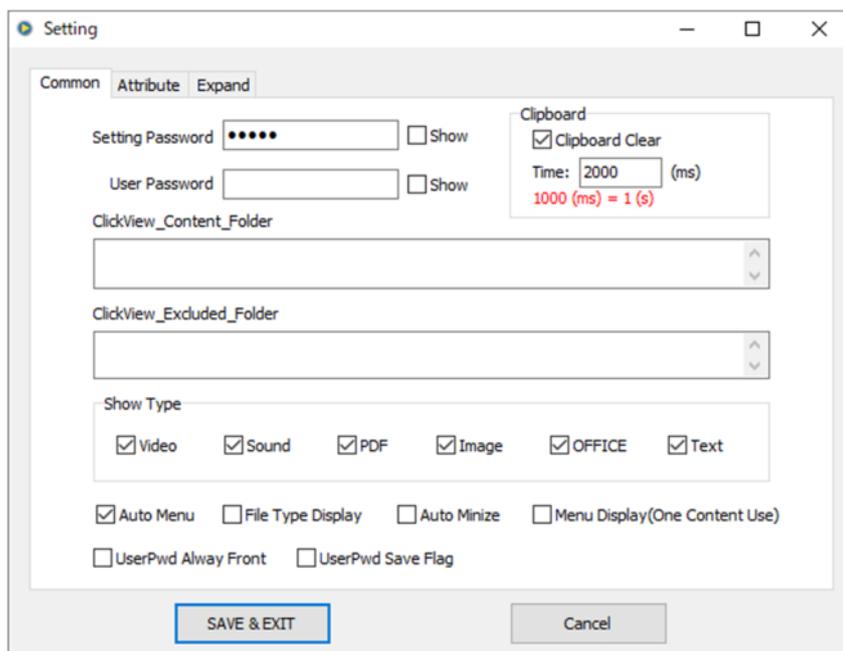
ツールバーの表示/非表示：F8

PDFの表示は、GPLV3ライセンスのソフトウェアSumatoraPDFを表示部品として採用しています。

ClickView クリックビューの設定

MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力

USBメモリの管理パスワード、個別に設定されるSetting/パスワード（初期値 “admin”）いずれかを入力します。

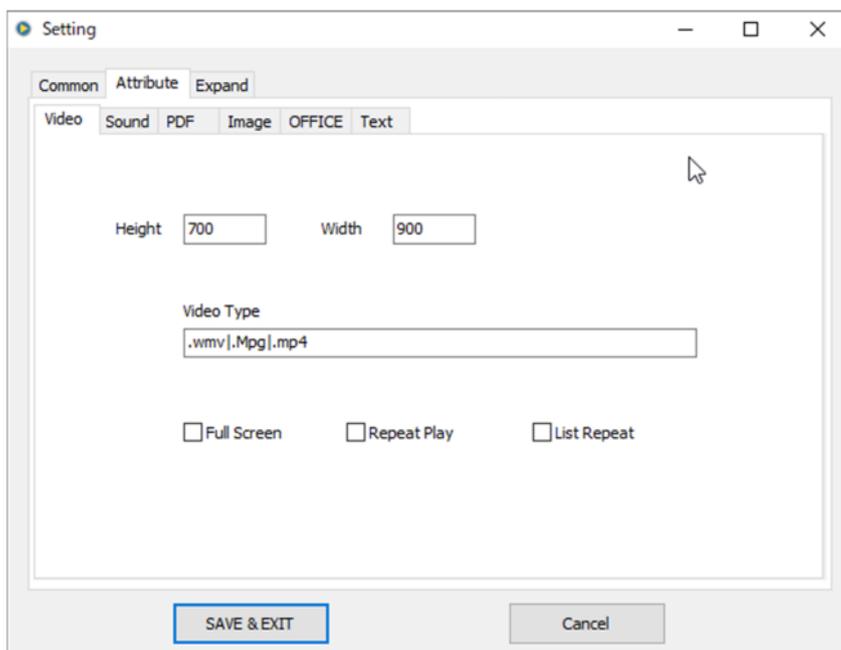


- SettingPassword : 個別で設定する管理パスワード（USBの管理パスワード可）
- UserPassord: ClickView起動時に閲覧/パスワードを設定する事ができます。（初期値OFF）
- Clipboard Clead: コピー＆ペーストを禁止する為に、クリップボードをクリアします。
- Time (ms) : 指定の時間をミリセカンド（1000ms=1秒）間隔でクリアします。
- ClickView_Content_Folder : 自動メニュー生成時に指定したフォルダのみ対象とします。
- ClickView_Excluded_Folder : 自動メニュー生成時に指定したフォルダを除外します。
- ShowType : 自動メニュー生成時に指定のファイル形式を対象とします。
- Auto Menu : メニューを自動作成します。手動でメニューを作成する場合は、Expandタブで行います。
- File Tipe Display : ファイル拡張子を表示します。
- Auto Minize : メニューが選択された場合、コンテンツを表示しメニューはタスクトレイに入ります。
- Menu Display : コンテンツが1つでも必ずメニューを表示します。通常は、表示するコンテンツが1つの場合はメニューを表示せずにコンテンツを即表示します。
- UserPwd Always Front : ClickViewを起動したときにユーザーパスワード画面を表示します。
- UserPwd Save Flag : ユーザーパスワード画面を表示したときにパスワード保存機能を表示します。ユーザーパスワードはパソコン内に保存されます。はじめて利用したパソコンは必ずユーザーパスワードの入力が必要です。2回目からパスワード入力を軽減させる事ができます。

ClickView クリックビューの設定/表示属性

MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力→Attribute（表示属性）

Attribute（属性）はコンテンツを表示する時に細かな設定を行う事ができます。



■Video

- Height/Width 動画の表示画面の大きさ指定
- Video Type 動画として表示する拡張子 他の拡張子は各PCに動画コーデックのセットアップが必要です。(P.95)
- Full Screen 動画を全画面で表示する
- Repeat Play 動画をリピート再生する
- List Repeat メニューに表示されている動画を順番に再生し繰り返す

■Sound

- Height/Width Sound再生画面の大きさ指定
- Video Type Soundとして表示する拡張子 他の拡張子は各PCに音楽コーデックのセットアップが必要です。
- Full Screen Sound再生画面を全画面で表示する
- Repeat Play Sound再生画面をリピート再生する
- List Repeat メニューに表示されているSoundListを順番に再生し繰り返す
- Ctrl Panel DisplaySound 再生画面上部に 速度調整パネルを表示する。低速再生～2倍速再生ができます。

(次ページへ続く)

ClickView クリックビューの設定/表示属性



MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力→Attribute（表示属性）

Attribute（属性）はコンテンツを表示する時に細かな設定を行う事ができます。

■PDF

Height/Width 動画の表示画面の大きさ指定

User Fixed App PDFを表示するソフトを内蔵PDFビューワーに固定する（パソコンに入っているPDFビューワーソフトを使わない）

List View 右横にPDF一覧を表示する（実行には管理者権限が必要です）

■Image

Height/Width Image再生画面の大きさ指定

画像表示を行う拡張子の選択： jpg/png/jpeg/tif/tiff

■OFFICE

ExcelやPowerPointを表示させる。

OFFICEで指定した拡張子は、ClickViewに内蔵されていません。表示させるにはパソコン内にExcelやPowerPointをセットアップされている必要があります。

■TEXT

テキストファイルを表示します。

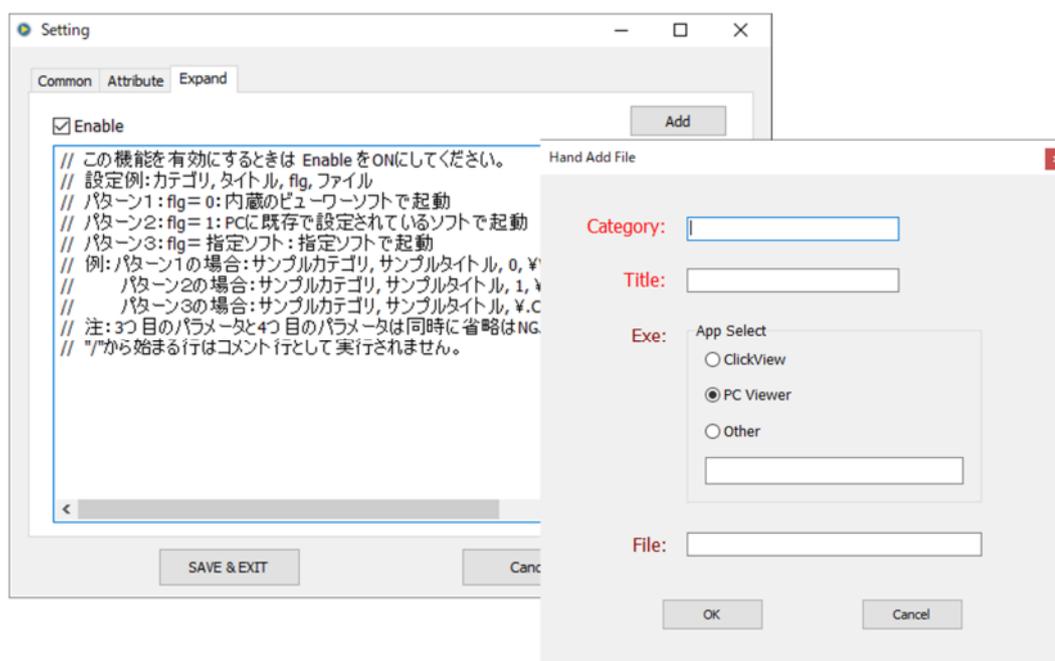
Text Type .txt/.csv/.tsv

TEncoding テキストエンコードタイプの指定

ClickView 手動メニューの設定

MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力→Expand (拡張メニュー)

Expand (拡張メニュー) はメニューを手動で作成します。自動メニューで対応できない細かな設定を行います。



Expand (拡張メニュー)

Enable 手動メニューを有効にさせる場合はONにします。OFFは自動メニューが優先されます。手動でメニューを記述するには、テキストボックスに記述します。[ADD]ボタンで設定する事もできます。

手動設定のパラメタ例

```
// 設定例: カテゴリ, タイトル, flg, ファイル
// パターン1: flg=0: 内蔵のビューワソフトで起動
// パターン2: flg=1: PCに既存で設定されているソフトで起動
// パターン3: flg=指定ソフト: 指定ソフトで起動
// 例: パターン1の場合: サンプルカテゴリ, サンプルタイトル, 0, ¥Video¥10082020.mpg
//      パターン2の場合: サンプルカテゴリ, サンプルタイトル, 1, ¥Video¥10082020.mpg
// 注: 3つ目のパラメータと4つ目のパラメータは同時に省略はNG、カンマの必ず3つ入れる必要がある。
```

"/"から始まる行はコメント行として実行されません。

ClickView 手動メニューの設定

MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力→Expand（拡張メニュー）

Expand（拡張メニュー）はメニューを手動で設定ができます。自動メニューではUSBメモリ内にある表示できる全てのコンテンツをメニュー化します。特定のコンテンツのみをメニュー表示したい場合は、手動で設定を行います。また、実際のファイル名を見せたくない場合なども手動設定を行います。

USBメモリに以下のフォルダがあるとします。

¥図面¥建築図面¥1FBlueprint.pdf

¥図面¥建築図面¥2FBlueprint.pdf

表示カテゴリ名、タイトル名、起動ソフト指定、ファイル名（フルパスで指定）

建築図面, 1Fの仮図面, 0, ¥図面¥建築図面¥1FBlueprint.pdf

建築図面, 2Fの仮図面, 0, ¥図面¥建築図面¥2FBlueprint.pdf

表示カテゴリ名、タイトル名はメニューで表示される文字を入力します。

カンマは半角で入力します。

起動ソフトの指定は数字の“0”または“1”で指定します。“0”は、ClickView内蔵ビューワーで再生します。

1はパソコン内のソフトで起動します。PDF/画像/動画/音楽などは“0”で指定します。ExcelやPowerPointは“1”を指定してください。

ADDボタンで簡易入力ができます。作成するメニューが多い場合は直接入力の方が簡単に設定ができます。

■フォルダを非表示にする

上位版のハイパーコンテンツガードではフォルダを非表示にする機能がありますが、データコンテンツガードには、フォルダを非表示にする機能がありません。

この場合、Windowsのコマンドプロンプトで用意されているAttribコマンドを使って簡易的にフォルダを見せなくさせる事ができます。ただし、この方法はPCの表示設定を変更されると表示する事もできますので完全に見えなくさせる機能ではありません。参照(P.88 ファイルやフォルダの非表示化)

※Windowsのコマンドプロンプト又はWindows PowerShell（パワーシェル）は若干難易度が高いので設定にお困りの場合は support@abroad-sys.com にご相談下さい。

EXE（エグゼ）メーカーについて

ClickView(クリックビュー)はPDFや動画、音声、Office系の文書表示の機能ができますがHTMLファイルは表示ができません。HTMLをUSB内蔵ビューワで表示するにはClickViewの拡張機能ExeMaker(エグゼメーカー)を使います。ExeMakerはHTML以外にPDFや音声、画像、テキストファイル、動画形式の場合は、WebM形式(※1)を表示する事ができます。

ClickViewやExeMakerを使うとパソコンの環境によって生じるトラブルを大幅に軽減する事ができます。例えば、PDFを表示する場合はAcrobatのセットアップが必要です。WindowsではPDFを表示する際にブラウザのMicrosoft Edgeが使われている為、AcrobatがセットアップされていないパソコンではUSBの設定によってはUSBメモリ内のPDFが表示できない場合があります。また、HTMLで動的な仕組み(※2)がある場合、利用しているブラウザによって正しく動かない場合があります。USB内蔵のプレイヤーソフトを使う事で多くの利用者がスムーズにコンテンツ表示をする事ができます。

■ExeMakerの対応形式 EXEとは？

ExeMakerはPDFやHTMLコンテンツを表示する為のEXE(エグゼ)を生成します。EXEとは実行形式(Executable format)から来ている言葉ですが拡張子が“.exe”のファイルです。拡張子が“.exe”の場合、ダブルクリックすると実行する事ができます。元のコンテンツは、そのまま残す事もできますが、USBのフォルダ保護という機能で見えないフォルダに設定し元のファイルを見えなくする事もできます。

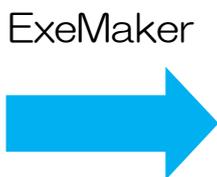
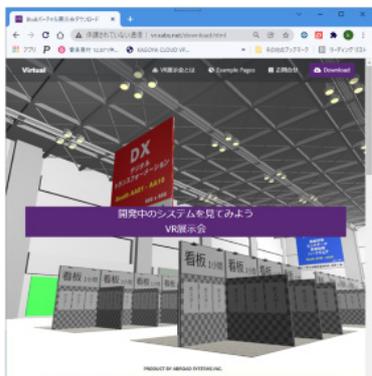
※1) ExeMakerでの動画対応

動画は、WebM形式のみ対応です。ライセンスの問題でMP4のEXE化には対応していません。ExeMakerで動画のEXE化を行う場合は、動画変換ソフトなどでWebM形式に変換する必要があります。WebM形式は米Google社が開発した動画形式でYoutubeなどGoogle社のサービスで使われています。MP4と同等な圧縮率でライセンス料が不要なオープンな圧縮方式です。

※2) 動的な仕組み：

JavaScript等を使いクラウド提供のAPIサービスやローカルディスクのファイル操作など何かの動く仕組みがある場合

HTMLのindex.htmlをダブルクリック
パソコンに設定されているブラウザで表示
使われるブラウザによって見た目や動きに違いがあります。



Index.html→VR展示会.exeに変換

VR展示会.exeをダブルクリック
USBに設定されている内蔵ブラウザで表示
どのパソコンでも同じ表示になります。



注意事項：MP3/MP4/AAC 未対応
USBメモリに内容しているブラウザのChromium(クロミウム)には、ライセンスの関係でMP3/MP4/AACを再生できるコーデックが含まれていません。ExeMakerを使って生成したソフトではChromiumが使われている為、これらの再生ができません。

ExeMakerの画面を表示する

ExeMakerの実際の動き

ExeMakerの実際の動きはPDFやHTMLを直接EXE化している訳ではありません。指定されたコンテンツを表示するビューワソフトを作るイメージになります。USBメモリ内蔵ブラウザはGoogle Chrom のWEB表示エンジンであるChromium(クロミウム Ver 89.0.4389.114)を採用しています。HTML/PDF/画像/音声/テキストファイル/WebM形式の動画の表示ができます。動画形式については前ページ(※1)を参照して下さい。Chromiumは新型のMicrosoft Edgeでも採用されており一般的な作りのHTMLであれば高い再現性があります。大きな違いは、Chromiumはライセンスの問題でMP4がサポートされていない点です。

ExeMakerの起動

ClickViewをダブルクリックで起動します。

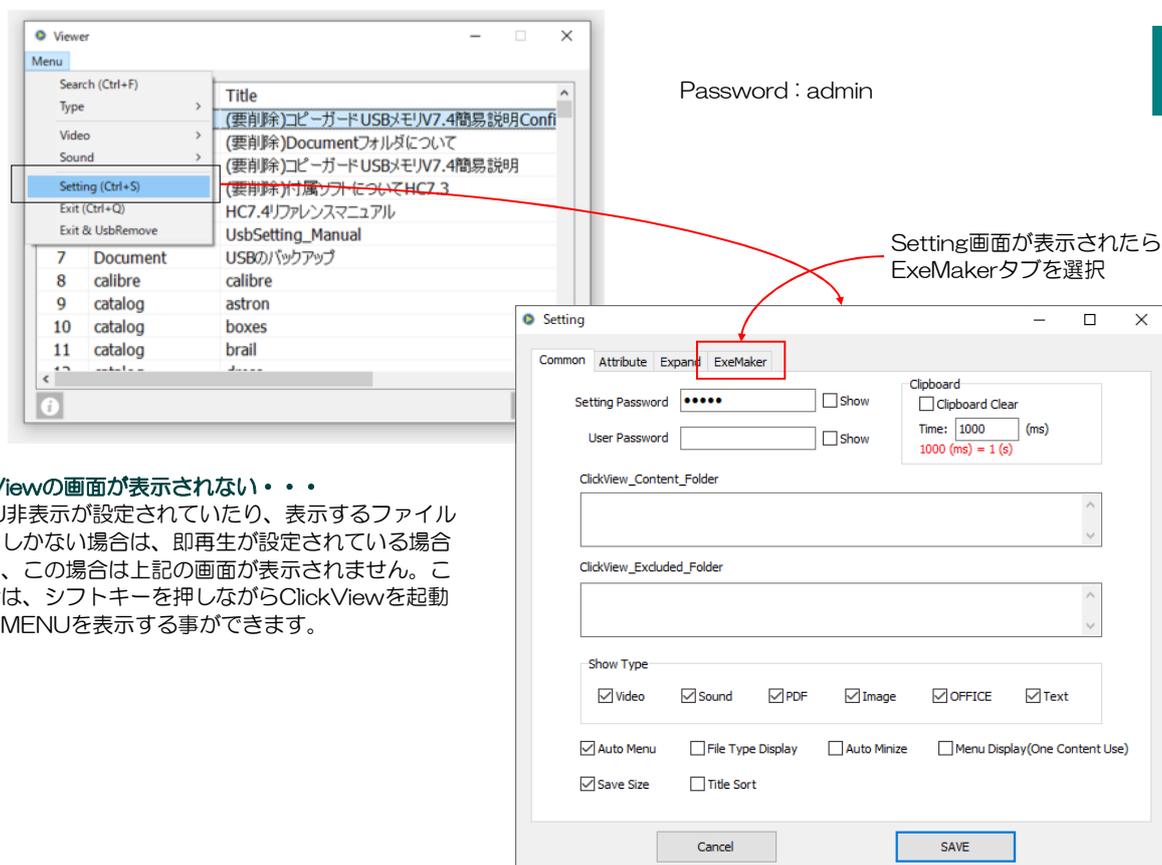
左上の[MENU]→“Setting (CTRL+S)”を選択します。

初期パスワード”admin”を入力します。

画面が表示されましたら「ExeMaker」タブをクリックして開きます。

ClickViewにメニューが表示されない

ClickViewのSetting項目にメニュー非表示化設定があります。メニューが表示されていない場合は、シフトキーを押しながらClickViewを起動すると表示する事ができます。



ClickViewの画面が表示されない・・・

MENU非表示が設定されていたり、表示するファイルが1つしかない場合は、即再生が設定されている場合があり、この場合は上記の画面が表示されません。この場合は、シフトキーを押しながらClickViewを起動するとMENUを表示する事ができます。

EXEメーカーをVer7.6未満で使う

.....
Ver7.0~7.5→Ver7.6へのバージョンアップ

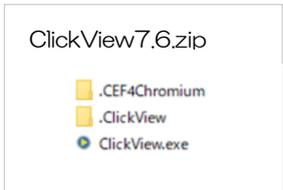
利用できるUSBメモリのバージョン

ExeMakerはUSBメモリのバージョンVer7.6(2022/1公開)以降の機能です。Ver7.6以降のバージョンをご利用の場合は標準付属されていますがVer7.0~7.5場合は、手動でClickView7.6をダウンロードし解凍後USBへ上書きコピーします。

ClickView7.6のダウンロード

<http://www.abroad-sys.com/USB/ClickView7.6.zip>

ClickView7.6.zipを解凍します。



下記の3つをUSBの保護領域へ上書きコピーします。

.CEF4Chrominm	USB内蔵ブラウザ(Chrominm)本体
.Clickview	ClickView本体
ClickView.exe	ClickView起動ソフト

他のUSBメモリのExeMakerで生成されたEXEファイルのみを使う場合は、Clickviewは必要ありません。この場合は、内蔵ブラウザの“.CEF4Chrominm”フォルダのみコピーします。

書き込みができない場合：保護領域とはUsbStart.exeを実行して表示される領域です。ファイルコピー禁止、書き込み禁止が設定されていると上書きができません。事前に管理ソフトUsbManageの「禁止設定」タブで禁止項目を一時的に解除して下さい。

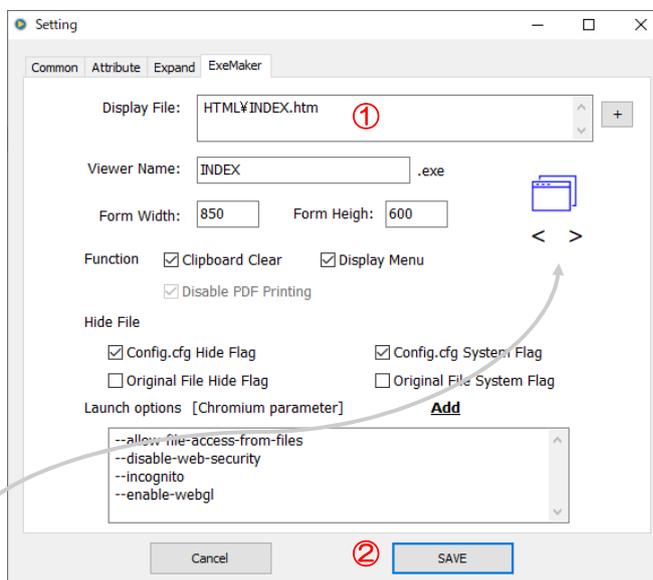
USBへ保存すると見えなくなる：上記の“.CEF4Chrominm”フォルダと“.Clickview”の2つは非表示設定されています。USBの保護領域へ保存されるとUsbManageの「フォルダ保護」タブの設定により見えなくなります。USBへ保存すると表示されていない古いバージョンの上書きになり上書き確認の画面が表示されます。許可して進めて下さい。

HTML/PDFをアプリ化する

ClickView→左上の[MENU]→“Setting (CTRL+S)” →初期パスワード” admin” を入力します。
画面が表示されましたら「ExeMaker」タブをクリックして開きます。

2アクションでアプリ (EXE) 生成

①のアプリ化したいファイルを設定する ②[SAVE]ボタンをクリックするとexeが5秒程度で生成されます。



アイコン変更・・・[I][X]キーで アイコンを変更する事ができます。

[SAVE]ボタン・・・ EXEを生成します。

初期値でコピーが禁止されています。
アプリ起動中はコピー操作ができません。

詳細設定と設定項目について

Display File・・・ アプリ化するファイルを指定します。USBメモリ内にあるPDF又はHTMLファイルのみ指定できます。[+]ボタンで追加します。

パソコンによりUSBのドライブ名が変わりますのでドライブ名(“E: ¥” 等)は入れない様にして下さい。

Viewer Name・・・ 生成するEXEファイルの名前を指定します。初期値で元ファイルの名前が使われます。

FromWidth・・・ 画面横サイズ 横ピクセル指定

FromHeigh・・・ 画面縦サイズ 縦ピクセル指定

●Function (機能設定)

Clipboard Clear・・・ 生成されたEXE実行中のクリップボードの使用を禁止します。(コピー禁止)

DisplayMenu・・・ 再生したEXEにMENUを表示するかを指定します。メニューは“EXIT/終了”と“EXIT&Remove” 終了してUSBメモリを取り外す]が追加されます。

Disable PDF Printing・・・ 印刷メニューの表示有無PDFの印刷を許可するとPDFが作られてしまいます。通常は印刷OFFでご利用下さい。

Hide File・・・ 動作環境ファイルの非表示化

Permission・・・ セキュリティーで禁止されている処理を解除する、起動オプション設定

※非表示属性の解説は次ページを参照して下さい。

アプリ (EXE) の生成

必要事項を設定して[Create]ボタンをクリックします。

Viewer Namaで指定した名前でEXEを生成されます。同時に動作指定環境ファイルConfig.cfgが生成されます。

動作指定環境ファイルConfig.cfgは、Hide Fileの指定で非表示化されます。詳しくは次ページを参照して下さい。

生成したアプリ (EXE) を他のUSBへコピーする

設定したEXEを他のUSBメモリでも使う場合は、生成したEXEを他のUSBへコピーする事ができます。

この場合Hide Fileの使い方に注意する必要があります。Hide Fileとはファイルを非表示化するスイッチです。

アプリ化したファイルのコピー

ExeMakerで生成されたファイルをコピーする

複数のUSBメモリを設定する場合、個々に設定する事もできますが沢山のUSBメモリに同じ設定を行う場合、設定ミスを避ける意味や作業効率を高める為に生成されたEXEをコピーする方法があります。

EXEメーカーで生成されたファイルは、実際のEXEファイル以外にクリップボード消去（コピー禁止指定）や印刷禁止などの各動作条件を保持している環境設定ファイルがあります。この環境設定ファイルもコピー先にコピーする必要がありますが非表示になっています。

他のUSBへのコピー

EXEメーカーで生成したアプリの表示は以下のファイルが必要です。

- ①表示するHTMLまたはPDFファイル
 - ②ExeMakerで生成したEXEファイル
 - ③動作指定環境ファイルConfig.cfg
 - ④.CEF4Chrominm フォルダ(USB内蔵)ブラウザ (USBメモリVer7.6以降は標準付属なので不要)
- 同じ設定で複数のUSBメモリを利用する場合は上記4つを他のUSBへコピーします。

例 他のUSBに以下の4つをコピーすると動作します。

- ¥Content¥index.html ① 元コンテンツファイルのあるフォルダ/フォルダ保護機能で非表示可能
社内マニュアル.exe ② ExeMakerで生成された実行形式のファイル
社内マニュアルConfig.cfg ③ 動作環境設定ファイル 非表示
.CEF4Chrominm フォルダ ④ 内蔵ブラウザ 非表示

●非表示化オプション

③の動作環境設定ファイルは動作には必要ですが利用者に見せる必要はありません。見えないファイルにすると他のUSBへコピーするときに不便な為、2段階の非表示オプションを用意しています。

Hide File	
<input checked="" type="checkbox"/> Config.cfg Hide Flag	<input checked="" type="checkbox"/> Config.cfg System Flag
<input type="checkbox"/> Original File Hide Flag	<input type="checkbox"/> Original File System Flag
※ExeMakerで指定できる動作環境設定ファイルの非表示化オプション	

Config.cfg Hide Flag (初期値ON)

生成される動作環境設定ファイルConfig.cfgを非表示化する

Config.cfg System Flag (初期値ON)

同ファイルにシステム属性フラグを設定する（強力な非表示化）

Original File Hide Flag (初期値OFF)

PDFやHTMLの元ファイルを非表示化する。ファイル単位

Original File System Flag (初期値OFF)

同ファイルにシステム属性フラグを設定する（強力な非表示化）

変換元ファイルの非表示化

Original File Hide Flag、Original File System Flagは、ファイル属性値によって元ファイルを非表示にする方法です。元ファイルがUSBのルート（先頭フォルダ）にあるファイルを非表示化するときは、このフラグ設定で非表示にする事ができます。元ファイルの表示・非表示を設定するもので動作は変わりません。

※データコンテンツガードにはフォルダを指定して非表示化する機能がありません。

上位版のハイパーコンテンツガード、ハイパープラスには指定したフォルダを非表示化する「フォルダ保護」機能があります。フォルダ保護はパソコンの表示設定に関わらず見えなくなりますが、データコンテンツガードで元ファイルを見えなくする場合は、このファイルの表示属性値で非表示化を行って下さい。

非表示化されたファイルのコピー

非表示化されたファイルをコピーする

ファイル属性を設定され見えなくなったファイルを表示するにはパソコンの表示設定を変更します。ファイル属性は非表示化(hide)属性、システムファイル(system)属性の2つがあります。通常は非表示化のhide属性のみで制御しますが、非表示ファイルを見える設定にしているパソコンも多いのでより強力に非表示化するのは、本来はWindowsの重要なシステムファイルに付与されるシステム属性をONにします。この表示属性は表示の有無を指定するもので動作には影響しません。

3つの非表示化の方法

- ①ファイル属性に非表示フラグを設定する Hide Flag ON
- ②ファイル属性にシステムフラグを設定する System Flag ON
- ③USBメモリの見えないフォルダ（フォルダ保護）機能を使う

上記①②の表示属性を変更した場合は、パソコンの表示設定を変更して見えるようにする必要があります。方法は「P.69 非表示フォルダを表示」を参照して下さい。

③はUSBメモリの見えないフォルダ機能（フォルダ保護機能）で見えなくなります。ただし、フォルダ指定なのでファイル単位での指定はできません。主にフォルダに入ったコンテンツを見えなくする場合に設定します。見えなくするメリットは、USBの保護制限を緩和したり、重要なコンテンツをより強固に保護をする為です。見えないフォルダにあるコンテンツは、ファイルコピー禁止の設定をしなくてもファイル選択ができないのでコピーができません。また、利用者に動作に関係のない関連ファイルを見えなくしてシンプルにすることができます。

フォルダ保護は、USBメモリの機能で非表示化しているので上記①②の方法とは違いファイルの非表示化属性で見えなくしているものではありません。パソコンの表示設定の変更では見る事ができません。設定は管理ソフトUsbManageの「フォルダ保護」タブで行います。指定したフォルダは見えなくなります。

エクスプローラ表示オプションの変更

以下の2か所を変更すると表示フォルダや非表示ファイルが見えるようになります。

オプション→表示オプションタブ

- ①「隠しフォルダ、隠しファイル、および隠しドライブを表示する」にチェックを**入れる**。
- ②一番最後の項目「保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない（推奨）」のチェックを**外す**。

※詳しくは「P.69 非表示フォルダを表示する」を参照して下さい。

EXEメーカーの起動オプション指定

JavaScriptを使ったHTMLの起動オプション

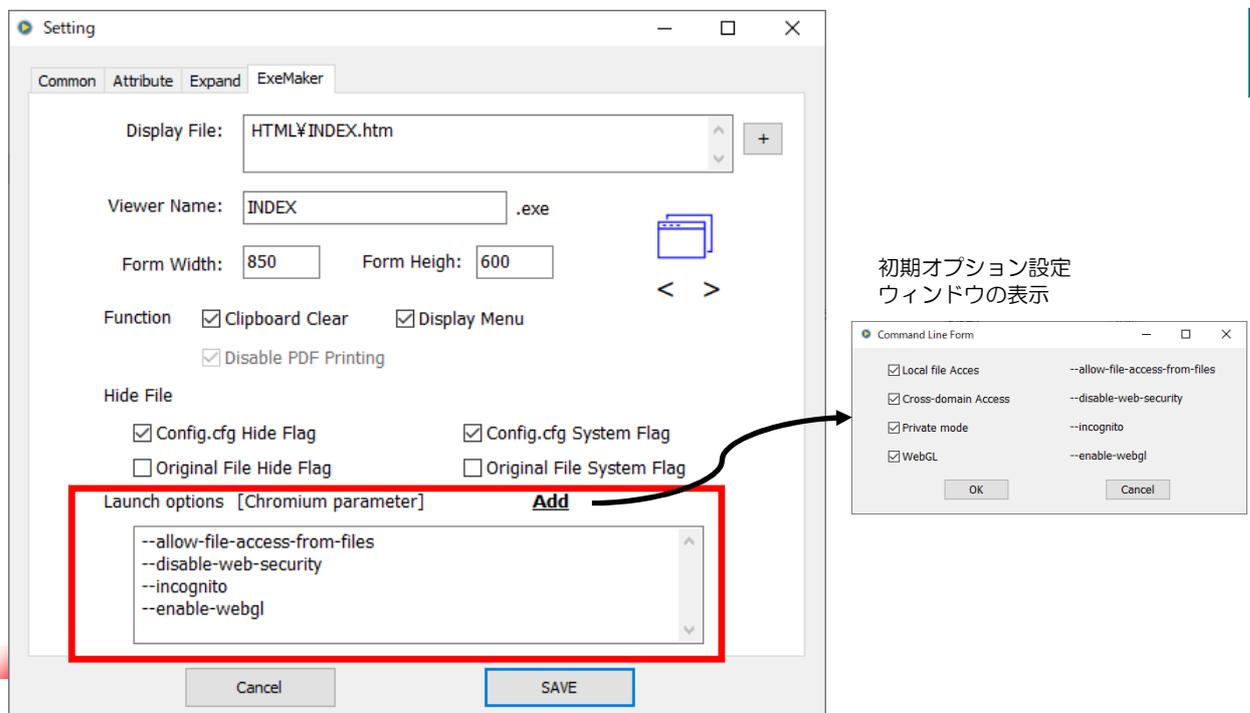
ExeMakerの起動オプション(HTML)

USBメモリ内蔵のブラウザはChromium(クロミウムVer 89.0.4389.114)が採用されています。Chromiumはセキュリティが強化されておりスクリプトを使った幾つかの動作が制限されています。しかし、正規の目的でアクセスするには起動オプションを設定してChromiumの初期セキュリティを解除する必要があります。ExeMakerではよく使われる制限を初期値で解除しています。このオプションは、表示するコンテンツがHTMLのみに有効です。

制限が解除されているオプション設定

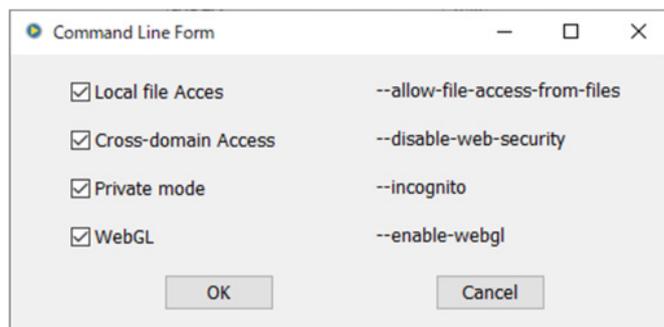
Permission (許可)	起動オプション	内容
Local file Acces	--allow-file-access-from-files	ローカルファイルアクセス許可
Cross-domain Access	--disable-web-security	クロスドメインアクセス許可
Private mode	--incognito	クッキーやキャッシュファイルを保存しない
WebGL	--enable-webgl	WebGLを利用する

上記オプション以外は、起動パラメタ欄に直接入力します。Chromium(クロミウム)はGoogle Chromと同じWEBエンジンが使われている為、同じ起動オプションを設定する事ができます。



EXEメーカーの起動オプション指定

JavaScriptを使ったHTMLの起動オプション



ローカルファイルアクセス許可：スクリプトを使ってローカルファイルにあるファイルアクセスが禁止されていますのでこれを解除します。単純にローカルファイルにある画像などのファイルを表示するのではなく、JavaScriptなどの動的なスクリプトを使ってローカルファイルのアクセスが制限されています。初期値でこれを解除しています。

クロスドメインアクセス許可：ブラウザを使ってクラウドのWEBサービスを使う場合、Ajax通信（※1）が利用される場合があります。Ajax通信をつかうような仕組みはブラウザ策定基準の制限により、単一のドメインアクセスしか許していませんので動的な外部の仕組みが動かない場合があります。クラウドのWEBサービスを利用する場合、他のドメインからのアクセスになってしまいブラウザ制限で動作しない事があります。初期値でこれを解除しています。

※1）**Ajax通信(エージャックス)**：JavaScriptとXMLを使って非同期にサーバとの通信を行うこと。**非同期通信とは**データの一部分のみを都度サーバーから取得する方法です。例えばGoogle Maps APIなどを使い地図表示する場合に、非同期通信でデータのない地図の保管部分のみを受信できます。同期通信の場合は全部を再取得するのでデータ量が多くなる事や部分キャンセルができない、受信中は表示するデータがなく画面が白くなってしまいます。

WebGL：VRなどの3Dオブジェクトをブラウザで表示する場合、プラグインを使って表示する場合とWebグラフィックライブラリ（WebGL）というJavaScriptのAPIを使う方法があります。プラグインはUSB単位にセットアップが必要ですがUSB内蔵ブラウザには個別プラグインは入っていません。初期値でWebGLの利用を許可しています。

プライベートモード：USBメモリ内にあるコンテンツを表示する為、動作を早くするキャッシュファイルは必要ではありません。初期設定でクッキーの保存やキャッシュファイルの作成を無効にしています。

※一般的にはセキュリティを解除したGoogle Chromを起動する場合、ショートカットキーやバッチファイル起動を行います。この場合、先にGoogle Chromが起動していると新しいChromが立ち上がらない為、EXEメーカーで実行されるChromiumの方が取り扱いが楽になります。

PDFの表示 ClickViewとExeMaker

●USBを表示する最良の方法

USBを表示する方法は3つあります。それぞれ特徴がありますのでコンテンツの運用方法により選択してください。各方法は、1つを選ぶ必要はなく併用することもできます。

USBを表示する3つの方法

①ExeMakerでPDFを個々にアプリ化する

PDF表示するをアプリを生成します。1つのPDFファイルで1つの実行形式のEXEファイルを生成します。PDFファイルが少ない場合に有効です。

②ClickViewでPDFを表示する

ClickViewを起動するとUSBに保存されているPDFファイルが検索され自動でメニューを作成します。メニューよりタイトルを選択するとUSB内蔵のPDFビューワで表示します。沢山のPDFファイルが保存されている場合に有効です。

③Acrobat Readerで表示する方法

一般的なPDFを表示する方法です。PDFの表示方法は周知されていますので説明を省略しても問題はないでしょう。

※ただし、USBメモリに保存されているPDFをAcrobatやMicrosoft Edgeで表示すると不具合が発生する場合があります推奨していません。トラブル対応を軽減するために上記①②と併用する事もできます。

USB内蔵ブラウザ（Chromium）はセキュリティが許可されておりローカルファイルのアクセスができない場合があります。この場合は、起動オプションを設定してセキュリティ制限を解除して起動します。

ブラウザのセキュリティ解除が必要なHTMLの場合、バッチファイルやショートカットキーでGoogle Chromeを起動オプション付きで起動する方法がとられる事がありますが、既にChromeが実行されている場合はバッチファイルやショートカットキーでは起動できません。起動している場合は一旦終了させてバッチファイル実行またはショートカットを実行する必要がありますが、EXEメーカーで利用されるブラウザはEXE実行単位で起動オプション設定ができますので便利です。

●PDFが表示されない？

パソコンによってUSBに保存されているPDFファイルが表示できない場合があります。この対策のため上記①②が用意されています。

許可ソフトに登録されていない

USBの設定で「許可ソフトウェア」の登録があります。登録されていないPDFビューワソフトでは表示できません。

USBの取り外しができない？

Acrobat ReaderやMicrosoft EdgeでUSBメモリ内のPDFを表示するとUSBの取り外しができない事があります。これはPDFを開いてもUSBメモリのアクセスが

SBの設定で「許可ソフトウェア」の登録があります。登録されていないPDFビューワソフトでは表示できません。

ーで生成されたPDFコンテンツは確実に表示することができます。

PDFの表示 ClickViewとExeMaker

.....

	ExeMaker	ClickView	Acrobat
表示方法	アプリ化したEXEを実行	メニューから選択する	PDFをダブルクリック
メリット	<ul style="list-style-type: none"> • どのPCでも必ず起動できる • どのフォルダでも起動できる • PDFを意識させない事ができる。 • Acrobatとの併用も可能 • USBの取り外しもできる 	<ul style="list-style-type: none"> • どのPCでも必ず起動できる • 実際のPDFファイルを見せない事ができる。 • Acrobatとの併用も可能 • USBの取り外しもできる • メニューが自動作成される 	一般的でわかりやすい
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> • 設定が少し難しい 	<ul style="list-style-type: none"> • ClickViewの説明が必要 • メニューから選択以外では起動できない 	<ul style="list-style-type: none"> • USB利用があまり考慮されていない。USBが取り外せなくなる。 • クラウド転送など保護が難しい。 • 全てのPCにはAcrobatは設定されていない。
PC環境による表示の有無	USB内蔵 PCにセットアップされているソフトに影響されない	USB内蔵 PCにセットアップされているソフトに影響されない	PCにセットアップされているソフトに影響される
USB内蔵ビューワー	内蔵 ※PC環境に影響されない	内蔵 ※PC環境に影響されない	パソコンにセットアップが必要 ※PC環境に影響される
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> • PDFをアプリ化するのでPDFを閲覧しているという感じがしない。 • USBメモリ内蔵ブラウザChromiumで表示しているので表示のみで特殊な設定はできない。 • コピー作成はできるがパソコンの表示設定変更が必要 	<ul style="list-style-type: none"> • 縦横混在などPDFの作り方によっては、Acrobatと見え方が異なる場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • PDFの表示を終了しても、Acrobatが2分程度常駐しておりUSBメモリを解放しない。 • USBメモリの取り外しができない場合がある。 • 使っているAcrobatバージョンの違いにより動作が違う場合がある。 • Acrobat以外のPDFビューワーではアクセスできない。(USBの許可ソフトに設定されていない)
推奨	少ないPDFファイルの場合に推奨	PDFファイルが多い場合に推奨	USBメモリ内にあるPDF閲覧では推奨しない。

119

Acrobatが入っていないPC

Windows8はWindowsReaderというPDFビューワーが付属していました。Windows10以降は廃止されPDFはブラウザのMicrosoft Edgeで表示するようになっていました。Microsoft EdgeでUSBメモリ内のPDFを表示されるのは推奨していません。理由はUSBメモリの保護を解除する条件でPDFを閲覧していたソフトの終了があります。ブラウザのタブを閉じててもソフト自体が終了しないのでUSBの取り外しがスムーズにできなかったり、続けてUSBを利用する場合にエラーが表示される事があります。



UsbReset USBリセットの使い方

出荷時点のコンテンツに復元

■UsbResetのダウンロード

USBメモリバージョン7.3は標準付属しています。Ver7.0～Ver7.2をお使いの場合は以下よりダウンロードしてください。

http://www.abroad-sys.com/USB/V7/DC7.3_UsbReset.zip

UsbReset.zipを解凍すると

“.reset” フォルダ、UsbReset.exeがあります。

この2つをUSBの保護領域へコピーしてください。

“.reset” フォルダはUSBの保護領域へ保存すると見えなくなります。

フォルダ保護機能で非表示になっていますが存在はしています。



UsbReset



UsbResetは、出荷時点の保護領域に入っているUSBシステムファイルを復元するソフトウェアです。実行するだけで初期状態のUSBシステムを復元できます。

- 保護領域のシステムファイルのみ復元されます。
- 復元データを作成するとお客様コンテンツも復元ができます。(4GB以内)
- フォーマットを行った場合のシステム復元ができます。

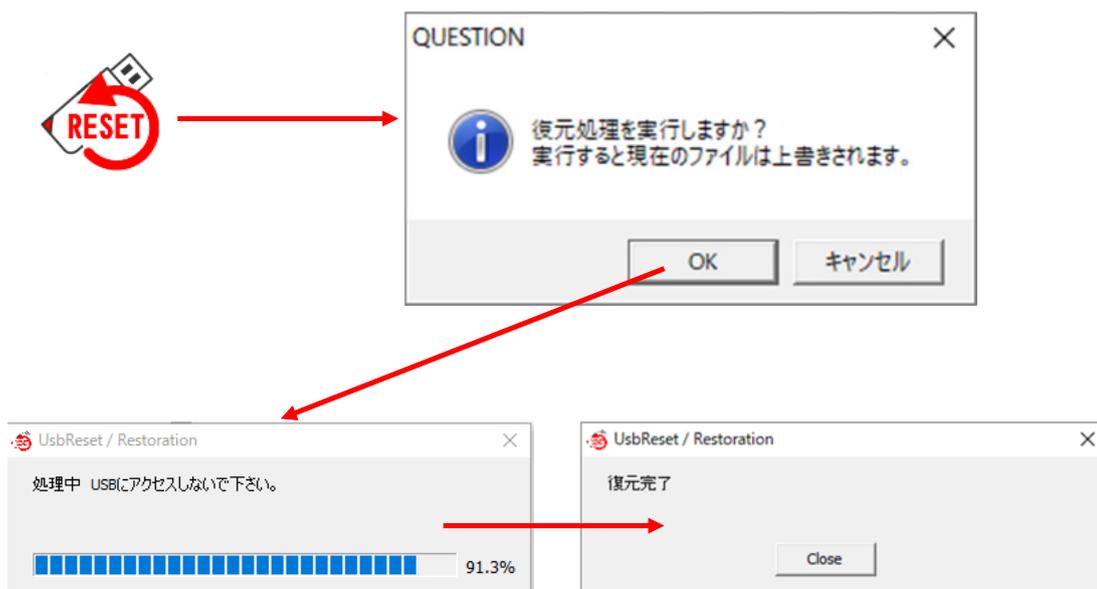
用途

- 利用者が誤ってファイルを削除してしまった。
- USBの安全な取り外しを行わずにファイルの破損があった。
- 保護領域をフォーマットしてしまった。

復元できないケース

- 後で追加されたデータファイル等（復元データの再作成が必要）
- USBメモリ全体が読めなくなったケース（USB内のバックアップデータが破損）
- 非保護領域をフォーマットしてしまった。（UsbResetでは復元ができません。バックアップの復元が可能です。事前に利用者がバックアップを実行している必要があります。）

復元は1クリック

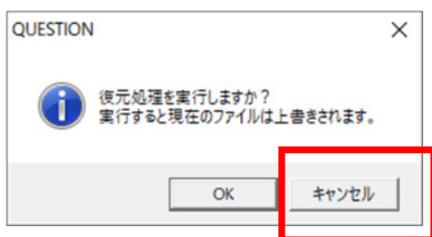




UsbReset 復元データの再作成

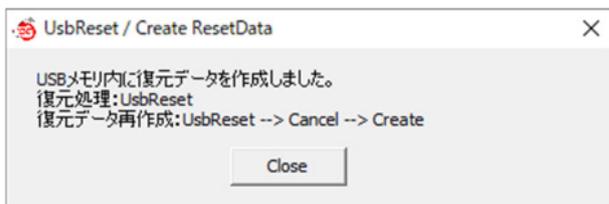
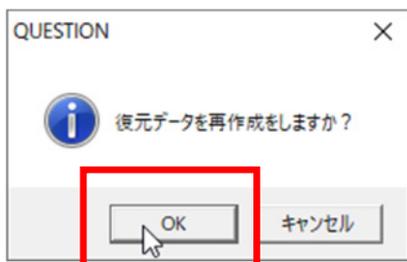
標準設定ではUSBメモリのシステムファイルのみが復元できます。お客様コンテンツを復元データに含めたい場合は復元データの再作成が必要です。

保護領域内のコンテンツを入れた後に、復元データの再作成を行ってください。コンテンツの全体が4GBを超える場合は、exFATにフォーマットする必要があります。詳しくは次ページを参照してください。



UsbResetを実行したときに「復元処理を実行しますか？」で「キャンセル」を応答してください。

復元データの作成モードになります。



保護領域内にあるデータをバックアップして復元データが作られます。

復元データはUSBメモリ内に圧縮保存されます。
USBメモリの空き容量にご注意下さい。
※通常版のUSB2.0はフォーマットがFAT32で出荷されています。
FAT32は1ファイルのサイズ制限が4GBになります。次ページ参照



UsbReset 4GB以上の注意事項

復元データの再作成でお客様データを含める場合

復元データが4GB以上になる場合、初期状態では復元データの作成ができません。

UsbResetはUSBの付属システムを復元させるためのソフトです。USBのシステムファイルは4GB以下なので問題はありませんが、お客様コンテンツの復元データを作成する場合4GBを超える復元データ作成ができません。圧縮後に4GBを超える場合ですのでコンテンツ容量が厳密に4GBではありません。

しかし、動画や音楽データは既に圧縮されているデータ形式なので圧縮率は低くなります。PDFやExcelファイルなど小さなファイルが沢山ある場合は圧縮率は高く、元ファイルの半分程度の容量になります。通常版 USB2.0 のUSBメモリのフォーマットはFAT32になります。FAT32の規格上の制限で1ファイルの最大が4GBになります。

exFATで4GB以上に対応させる

USB3.0規格のUSBをご利用になる場合フォーマットがexFAT形式で出荷されています。この場合は、1ファイル4GB制限はありません。お客様側でexFATフォーマットにする事もできますがUSBの初期出荷状態で付属ソフトに必要な起動情報も削除され起動ができなくなります。exFATへフォーマットを行った後は、保護領域内のシステムファイルの入れ直しが必要になります。

(保護領域のフォーマットについて P.73-74)

123

exFATフォーマット操作手順

- ①管理ソフトUsnManage7.3を使い「禁止設定」タブの2つの項目を解除するP.42
 - ・ファイルコピーを許可
 - ・書き込みを許可

- ②管理ソフト「起動設定」タブの暗号化を解除する。P.49

- ③保護領域に切り替えてフォーマット

UsbStartを実行して保護領域に切り替えUSBを選択して右クリック→フォーマット
exFATを選択してフォーマットを実行する。

※エラーが表示される場合がありますがフォーマットは正しくされています。

※クイックフォーマットでも問題はありません。

- ④UsbResetをダウンロードしてUSBの保護領域へコピーする

http://www.abroad-sys.com/USB/V7/HC7.3_UsbReset.zip

UsbResetを実行してシステムファイルを復元する。

※復元直後、Windowsのキャッシュ表示の関係でファイルが見えない場合があります。F5キーで再表示させるか、USBメモリを抜いて再認識させて下さい。

※UsbResetで復元されたシステムで使わない不要なファイルは削除してください。

設定でお困りの場合

.....

1. **トラブルがあった場合や設定をやりなおす場合は、バックアップの復元を行って下さい。**
復元を行うには、あらかじめUSBメモリのバックアップを行っている必要があります。

2. **USBメモリは安全な取り外し操作が必要です。**

特に書き込みが終わった直後は、書き込み処理が終わっていない場合があります。取り外し操作を行わないでUSBを抜いた場合は、USBに保存されているフォルダやファイルが全部読めなくなる場合があります。安全な取り外し操作は、これらのトラブルを未然に防ぎます。

設定を戻したい

- 管理ソフトUsbManageの簡易設定に” Reset / Initialize” という項目があります。選択すると禁止項目が初期設定に戻ります。
- バックアップをとっている場合は、復元処理を行います。
- フォーマット処理を行う。設定はフォーマットでは初期化されませんので推奨していません。また、フォーマットを行う場合は、USBメモリ内のシステムで利用しているエラーメッセージファイルも消えてしまいますので復元処理が面倒になります。フォーマットで改善できる症状はファイル名の文字化け P.72 の場合です。

UsbStartのエラーが改善できません。

- USBを一旦取り外し、パソコンを再起動してください。
- 他のソフトウェアの影響で動作ができない場合があります。期限切れのセキュリティソフトがパソコンに残っている場合は契約を更新するかアンインストールを行って下さい。
- 規格上の問題。HUBや変換アダプタを使わずにパソコン側USB2.0規格のUSBポート（差込口）をご利用下さい。USB3.0規格のポートは規格上、下位互換性がある事になっていますが全ての製品でUSB2.0の完全互換ではありません。USBホストコントローラドライバの更新で改善する場合があります。詳しくは support@abroad-sys.com にご相談下さい。

管理ソフトUsbManangeでエラーが表示される。実行ができない。

- 設定するUSBが見つからない場合にエラーが表示されます。
- UsbStartを実行して保護領域を表示しているとエラーになります。詳しくは P.6 をご参照下さい。
- 管理ソフトUsbManangeとUSBメモリのバージョンが違っている。

設定がまったくわからない

本製品は設定が必要な製品です。基本的にはPDFマニュアルをご参照の上、設定を行って下さい。

●**お急ぎの場合やコンテンツ内容が複雑な場合はマスタ作成サービス（有料）をご利用下さい。**

※マスタ作成サービスは主に複数本数を作成するときに必要なサービスですが1本でも設定可能です。

info@abroad-sys.com アプローチシステムズ 営業部

- はじめの場合P.2又は「設定の流れ」P.8～P.12を参照下さい。
- 保存するコンテンツ種類やご利用用途をご連絡の上、管理ソフト内にある優先サポート機能でご相談下さい。何らかの理由で優先サポート機能を利用できない場合は、管理ソフト「製品情報」タブにある“設定レポート”ボタンで出力できるUsbSetting.txtをメール添付でsupport@abroad-sys.comに送信して下さい。